

2009年度

講義計画

桃山学院大学

國

計

義

講

科目名 クラス 講義区分		
家族福祉論 <通期>		
梓川	一	4単位

**【講義概要】**

家族について、理念的、学問的、実証的、時に感覚的・体験的に解明していく。社会福祉学的視点はもとより、社会学、心理学、人間学、経済学からもとらえる。後期に各論的に検討する際、主に児童虐待を主たる事例に取り上げ、そこから家族、親子、養育・教育、専門職者の援助・実践について講義する。

**【学習目標】**

講義を受ける学生には、一年を通して家族をテーマに、さまざまな思いや考えをもってもらいたい。基本的には、国家試験対策のような講義内容は行わない。家族、生活、人生、両親への思い、大人・社会人になること、結婚、親になることなどを、素直に謙虚に感じ取り・学び、そこから学生にとって気づきと質的変容、生きていることの実感へつながることを目指したい。

**【講義計画】**

- 第1回 講義の評価方法、講義に対する主体的な姿勢  
人間環境と群集心理（社会適応力、社会性、道徳・社会規範）
- 第2回 家族福祉の定義（家族福祉とは、家族福祉を学ぶ意味と目的、家族と家庭）
- 第3回 家族内の関係性（親と子、きょうだい、家族内の三角関係）
- 第4回 家族福祉学と家族社会学（社会福祉の視点、援助の原理、社会福祉問題）
- 第5回 富裕化社会と家族問題（貨幣的貧困と非貨幣的貧困、家族のニーズ）
- 第6回 社会福祉の理論と実践（マクロ的視点とミクロ的視点、資本主義社会と個人の生活問題）
- 第7回 社会福祉の理論と実践（価値の認識、社会福祉学の論争）
- 第8回 歴史にみる日本の家族（歴史を検証する意義、封建時代・明治・大正・昭和期の日本の家族、家から家族へ）
- 第9回 歴史にみる日本の家族（経済政治と家族の変遷、高度経済成長期の家族、低成長期の家族）
- 第10回 現在の家族と社会の実情（社会の変化、家族の変化、個人の変化）
- 第11回 現在の家族の欠落（家族の居場所、住宅構造、コミュニケーション）
- 第12回 縦社会の人間関係（過疎・過密、小家族化、競争社会と相対的価値観）
- 第13回 父親の役割と母親の役割
- 第14回 父性と母性（父親の存在と威厳、母性の愛）
- 第15回 前期のまとめ・振り返り、前期末試験
- 第16回 父親の存在（父権主義、医学モデルと生活モデル）
- 第17回 父親の存在（ソーシャルワークの視点、サリバン教育にみる服従と愛）
- 第18回 家族の機能
- 第19回 家族の機能が発揮できるための条件
- 第20回 家族の援助（ソーシャルワーク実践）
- 第21回 幸せな家族（家族愛、家族の価値）
- 第22回 家族的安定の意味（岡村理論の検証）
- 第23回 生活問題を抱える家族（家族の危機、家族の病理現象）
- 第24回 児童虐待にみる家族の本質（大人と子ども、親子関係、子どもの存在）
- 第25回 児童虐待にみる家族の本質（虐待の定義、実態、法制度）
- 第26回 児童虐待にみる家族の本質（家庭環境、親子の精神状態）
- 第27回 児童虐待にみる家族の本質（専門職者の援助・実践、子ども家庭福祉の方向性）
- 第28回 ソーシャルワークの実践（生活困難の受容、人間と環境の視点）
- 第29回 家族とはなにか（親の存在と子どもの存在の再考）
- 第30回 後期のまとめ・振り返り、後期末試験

**【成績評価の方法】**

2つの期末試験90%、授業中の確認テストなど10%（ここに姿勢もみる）

**【教科書】**

畠中宗一編 よくわかる家族福祉 ミネルヴァ書房

**【参考文献】**

山縣文治編『よくわかる子ども家庭福祉』ミネルヴァ書房、2002年。

科目名 クラス 講義区分	
学科特殊講義－映画の文法 <秋>	
佐野明子	2単位

**【講義概要】**

映画には「文法」があります。一般的な物語映画とは、バラバラの映像を、一定の文法をふまえて組み立てたものです。私たちはそうした文法を幼い頃から身につけて、映画の物語世界を頭の中で無意識に読み取ってきました。これらはドラマやテレビ番組やマンガに応用されているケースも少なくありません。本講義では、映画の文法や基本構造について、100年前のフィルム映像から近年のデジタル映像にいたる、さまざまな映像資料を具体的に示しながら解説します。

**【学習目標】**

映画というメディアへの理解を深めるとともに、映像作品を自作するさいに役立つような、実践的な知識となることを目指します。

**【講義計画】**

- 第1回 ガイダンス
- 第2回 映画の空間の構築(1)
- 第3回 映画の空間の構築(2)
- 第4回 感情移入の仕組み(1)
- 第5回 感情移入の仕組み(2)
- 第6回 感情移入の仕組み(3)
- 第7回 交互モンタージュとサスペンス(1)
- 第8回 交互モンタージュとサスペンス(2)
- 第9回 人間関係の視覚化
- 第10回 女性の表象(1)
- 第11回 女性の表象(2)
- 第12回 女性の表象(3)
- 第13回 身体の創造(1)
- 第14回 身体の創造(2)
- 第15回 期末試験

**【成績評価の方法】**

出席、授業内レポート、期末試験から総合的に評価する。

**【教科書】**

プリント配布または板書

**【参考文献】**

『映画の教科書 どのように映画を読むか』ジェイムズ・モノコ  
フィルムアート社 1983  
『映画技法のリテラシー①②』ルイス・ジアネッティ フィルム  
アート社 2003、2004

科目名 クラス 講義区分	
学科特殊講義－海域アジア史入門 <春>	
蓮 田 隆 志	2単位

**【講義概要】**

この講義では1980年代以降に興隆してきた、海・海域から歴史を捉えなおす視点の要点を紹介する。近年は高校の歴史教科書にもこのような視点が反映されてきており、中学の歴史にも早晚影響が及ぶであろう。従来の歴史とどう違うのか、そもそもなぜ海域史が誕生したのか、その背景を含めて概説する。

**【学習目標】**

歴史を考える場合、単一の正解が必ずしも存在するのではなく、複数の見方があること、そしてそれは「好きなことを言えばいい」というのではなく、きちんとした学問的・社会的背景が存在することを理解すること。

**【講義計画】**

- 第1回 ガイダンス
- 第2回 海域アジア史とは？(1)
- 第3回 海域アジア史とは？(2)
- 第4回 海域アジアの中世
- 第5回 海域アジアの中世
- 第6回 海域アジアの中世
- 第7回 海域アジアの近世前期
- 第8回 海域アジアの近世前期
- 第9回 海域アジアの近世前期
- 第10回 海域アジアの近世前期
- 第11回 海域アジアの近世後期
- 第12回 海域アジアの近世後期
- 第13回 海域アジアの近世後期
- 第14回 海域アジアの近世後期

**【成績評価の方法】**

試験もしくはレポートで評価する。評価方法は受講生数や受講生の希望も加味して決定する。なお、出席は評価対象としない。

**【参考文献】**

桃木至朗（編）『海域アジア史研究入門』岩波書店、2008年。

科目名 クラス 講義区分	
学科特殊講義－日本の冠婚葬祭 <春>	
橋 内 武	2単位

**【講義概要】**

This is an introduction to Japanese folklore, folk customs in particular.

It deals with rites of passage including birth, wedding and funeral and calendar customs such as the New Year and the Bon Festival

**【学習目標】**

This course aims at understanding the basic ideas of Japanese folklore and folkways.

In the end students are expected to realise that several contemporary customs still reflect the traditional way of life.

**【講義計画】**

- 第1回 1. Introduction: What is Folklore?
- 第2回 2. Foundation of Japanese Folkloristics
- 第3回 3. What is Rites of Passage?
- 第4回 4. Birth
- 第5回 5. Coming of Age
- 第6回 6. Engagement and Wedding
- 第7回 7. Lucky and Unlucky Years
- 第8回 8. Death and Funeral
- 第9回 9. What is Calendar Custom?
- 第10回 10. New Year Festival
- 第11回 11. Bon Festival
- 第12回 12. National Holidays Related to Traditional Customs
- 第13回 13. Summary and Addenda
- 第14回 14. Test

**【成績評価の方法】**

Attendance: 20%

A 2,000 word paper in English: 30%

Final test: 50%

**【教科書】**

No texts are required. However, handouts are provided at every class.

**【参考文献】**

List of readings and references are given at the first class of the semester.

**【備考】**

英語による講義です。

科目名 クラス 講義区分		
学校図書館論Ⅰ <秋>		
志保田	務	2単位

**【講義概要】**

学校図書館の意義や役割を、学校教育との関係を土台に講義する。

**【学習目標】**

学校図書館の意義や役割を、学校教育との関係を受講者に把握してもらい、学校図書館を学校教育上に活用することを図る。

**【講義計画】**

- 第1回 学校図書館概説
- 第2回 学校経営と学校図書館(1)
- 第3回 学校経営と学校図書館(2)
- 第4回 学校図書館と法規・基準(1)
- 第5回 学校図書館と法規・基準(2)
- 第6回 学校図書館の管理運営(1)
- 第7回 学校図書館の管理運営(2)
- 第8回 学校図書館の管理運営(3)
- 第9回 司書教諭、学校司書の働き
- 第10回 学校図書館の授業への寄与(1)
- 第11回 学校図書館の授業への寄与(2)
- 第12回 学校図書館の授業への寄与(3)
- 第13回 学校図書館をめぐるネットワーク(1)
- 第14回 学校図書館をめぐるネットワーク(2)
- 第15回 まとめ

**【成績評価の方法】**

試験 85% レポート 10% 出席 5%

**【教科書】**

志保田務 [ほか] 学校教育と図書館 第一法規

科目名 クラス 講義区分		
学校図書館論Ⅱ <春>		
志保田	務	2単位

**【講義概要】**

学校図書館メディア(資料)の種類と特性を把握する。その収集(選択、受け入れ)の意味を述べ、それを利用に供するために作成する、分類、目録について学習する。

**【学習目標】**

学校図書館メディア(資料)の収集(選択、受け入れ)の意味を把握させ、その実際に及びうるようにする。そのための、分類、目録について、その電子化(OPAC)、国立国会図書館のJAPAN MARCなどの利用二問して学習する。

**【講義計画】**

- 第1回 メディアの構成：資料論
- 第2回 分類
- 第3回 書架分類
- 第4回 日本十進分類法(1)
- 第5回 日本十進分類法(2)
- 第6回 分類法演習(1)
- 第7回 分類法演習(2)
- 第8回 目録法
- 第9回 目録法(タイトル目録)
- 第10回 目録法(著者目録)
- 第11回 目録法(件名目録)
- 第12回 機械化目録
- 第13回 多様な学習環境と学校図書館メディア(1)
- 第14回 多様な学習環境と学校図書館メディア(2)
- 第15回 まとめ

**【成績評価の方法】**

試験 85% レポート 10% 出席 5%

**【教科書】**

木原通夫、志保田務 分類・目録法入門 新改訂5版 第一法規

**【参考文献】**

資料組織法 / 木原通夫 [ほか] 著. 改訂6版. 第一法規, 2007

科目名 クラス 講義区分	
学校図書館論Ⅲ <春>	
山 本 順 一	2単位

**【講義概要】**

この科目は、司書教諭の資格取得に資する科目のうちの‘学習指導と学校図書館’に相当する内容をもつもので、教職課程科目のうちの‘教科または教職に関する科目’のひとつとしても位置づけられている。

**【学習目標】**

本講義は、学校図書館現場で活躍されている現職の司書教諭、学校司書の方々をゲスト講師として招き、校種ごとの実務に即した知識、技法を受講生に伝えようとする‘インテグレーション科目’として編成する。学校教育において展開される各教科の授業を支援する学校図書館のフィロソフィーとスキルを身につけてほしい。

**【講義計画】**

- 第1回 はじめに
- 第2回 教科教育と学校図書館
- 第3回 学校図書館活動と教育の計画化
- 第4回 学校図書館サービスⅠ
- 第5回 学校図書館サービスⅡ
- 第6回 校内協力体制、チーム・ティーチング
- 第7回 コミュニティやボランティアの関わり
- 第8回 小学校における学習指導と学校図書館
- 第9回 中学校における学習指導と学校図書館
- 第10回 高等学校における学習指導と学校図書館
- 第11回 大学図書館の学習支援
- 第12回 学校図書館ネットワーク
- 第13回 学校図書館と公共図書館の連携
- 第14回 学校図書館の利用教育
- 第15回 むすび

**【成績評価の方法】**

試験 70% レポート 15% 出席 15%  
出席率、受講態度を参酌しつつ、レポート、および学期末の試験により総合評価を行う。

**【教科書】**

志保田務ほか 学校教育と図書館 第一法規

**【参考文献】**

渡辺重夫『学習指導と学校図書館』学文社, 2000  
そのほか、講師により、その都度、紹介される。

**【備考】**

インテグレーション科目

科目名 クラス 講義区分	
学校図書館論Ⅳ <秋>	
山 本 順 一	2単位

**【講義概要】**

この科目は、司書教諭の資格取得に資する科目のうちの‘読書と豊かな人間性’に相当する内容をもつもので、教職課程科目のうちの‘教科または教職に関する科目’のひとつとしても位置づけられている。‘読書と発達’について一緒に考える講義を展開したい。

**【学習目標】**

本講義は、学校図書館現場で活躍されている現職の司書教諭、学校司書の方々をゲスト講師として招き、校種ごとの実務に即した知識、技法を受講生に伝えようとする‘インテグレーション科目’として編成する。この科目の受講を通じて、児童生徒の情操教育、人格の陶冶に資する学校図書館の‘読書センター’機能の発揮に役立つ知識とスキルを身につけてほしい。

**【講義計画】**

- 第1回 ‘読書’の意義と目的
- 第2回 読書振興法制
- 第3回 読書と心の教育
- 第4回 読書指導の計画
- 第5回 読書指導の方法
- 第6回 読書材の検討
- 第7回 科学教育と読書
- 第8回 家庭と読書（公共図書館サービスを含む）
- 第9回 大学教育と読書
- 第10回 小学校における読書指導
- 第11回 中学校における読書指導の実際Ⅰ
- 第12回 中学校における読書指導の実際Ⅱ
- 第13回 ‘読み聞かせ’の実際Ⅰ
- 第14回 ‘読み聞かせ’の実際Ⅱ
- 第15回 むすび

**【成績評価の方法】**

試験 70% レポート 15% 出席 15%  
出席率、受講態度を参酌しつつ、レポート、および学期末の試験により総合評価を行う。

**【教科書】**

志保田務ほか 学校教育と図書館 第一法規

**【参考文献】**

黒古一夫ほか『読書と豊かな人間性』学文社, 2007.  
そのほか、講師により、その都度、紹介される。

**【備考】**

インテグレーション科目

科目名	クラス	講義区分
株式会社社会計 <秋>		
河野 勉		2単位

#### 【講義概要】

本講義では、初級の商業簿記の履修を終えた学生を対象に、中級程度の商業簿記（株式会社の簿記）を講義する。

#### 【学習目標】

簿記の学習には、計算方法や簿記的な考え方に慣れることが必要のため、毎時間、練習を解く学習を中心に授業を進める。

財務諸表論学習のための基礎知識や公認会計士・税理士等の資格試験受験の出発点として必要な簿記能力の習得を目標とするので、受け身にならず積極的に授業に参加してもらいたい。

#### 【講義計画】

- 第1回 1. 簿記一巡の取引と財務諸表
- 第2回 銀行勘定調整表、有価証券取引
- 第3回 債権債務取引、手形取引
- 第4回 商品売買取引、引当金取引
- 第5回 特殊商品売買取引
- 第6回 固定資産取引
- 第7回 損益取引 帳簿組織、伝票式会計
- 第8回 設立時増資減資の会計処理
- 第9回 繰延資産、純資産 剰余金
- 第10回 会社の合併、社債
- 第11回 決算手続、決算整理事項
- 第12回 本支店会計
- 第13回 財務諸表（決算書）
- 第14回 試験

#### 【成績評価の方法】

定期考査の成績に、適宜ホームワークを課し、その提出物等を加味して、総合的に評価する。

#### 【教科書】

- ・加古 宣士・渡辺裕亘 片山 覚（編著）  
「新検定簿記ワークブック 2級商業簿記」（中央経済社）  
「新検定簿記講義 2級」（中央経済社）

科目名	クラス	講義区分
環境経済論 <通期>		
浦出 俊和		4単位

#### 【講義概要】

環境問題は、人間の経済活動の結果生じたものであり、人間の生活の豊かさを維持することと環境保全はトレード・オフの関係にある。経済発展と環境保全の両立の上では、環境の経済的特質を理解することが必要不可欠である。

本講義では、環境の特質や環境問題発生要因を経済学の理論を用いて解説するとともに、環境問題解決のための環境政策における経済的手段について取り上げる。

環境経済論では、ミクロ経済学や公共経済学を援用するが、講義の中で基礎的な理論も解説する予定であるので、これらの知識がない者でも歓迎する。

#### 【学習目標】

本講義では、環境問題の特質を理解することによって、環境保全を行うことがコスト負担を伴うことであり、ゆえに、誰がそのコストを負担することが望ましいのかについて、各自が考察できるようになることが目標である。

#### 【講義計画】

- 第1回 環境問題とは何か？
- 第2回 環境問題と経済学
- 第3回 ゴミ問題—ゴミの増大要因
- 第4回 ゴミの需要と供給
- 第5回 ゴミの有料化問題
- 第6回 ゴミのリサイクル問題
- 第7回 日本の廃棄物政策—PPPの原則と拡大生産者責任(1)
- 第8回 日本の廃棄物政策—PPPの原則と拡大生産者責任(2)
- 第9回 環境問題の経済学的意味
- 第10回 市場均衡と市場の失敗(1)
- 第11回 市場均衡と市場の失敗(2)
- 第12回 環境問題と外部性(1)
- 第13回 環境問題と外部性(2)
- 第14回 中間テスト
- 第15回 環境問題と公共財
- 第16回 環境政策の経済的手段と最適汚染水準
- 第17回 直接規制—数量規制
- 第18回 間接規制(1)—課徴金制度（ピグー税）
- 第19回 間接規制(2)—補助金制度（ピグー的補助金）
- 第20回 数量規制と課徴金制度の比較
- 第21回 コースの定理
- 第22回 環境税導入の問題—課税負担問題
- 第23回 デポジット制度
- 第24回 京都議定書の概要とその意義
- 第25回 排出量取引の仕組みと問題
- 第26回 非枯渇性資源問題とゲーム論
- 第27回 環境価値の経済評価
- 第28回 期末テスト

#### 【成績評価の方法】

試験 100%

原則として、学年度末試験の成績によって評価するが、前期末に実施する中間試験の結果も成績評価に加味する。

#### 【参考文献】

- 1) 植田和弘（著）『環境経済学』（岩波書店）
- 2) R. K. ターナー・D. ビアス・I. ベイトマン（著）大沼あゆみ（訳）  
『環境経済学入門』（東洋経済新報社）
- 3) 日引聡・有村俊秀（著）『入門環境経済学』（中公新書）

#### 【備考】

講義概要や講義資料は下記を参照のこと。

<http://rio.andrew.ac.jp/~urade/envi-index.html>

科目名 クラス 講義区分	
環境問題概論 <春集>	
巖 圭 介	4単位

**【講義概要】**

地球温暖化、化学物質、リサイクル・・・、環境問題はすでに身近にあり、多くの人が漠然とした不安を持ちながら、しかし具体的に行動を起こすことなく毎日を送っている。私たちの生活の何がどのように問題なのか、多くの情報があふれかえる現在、信頼できる基礎知識を身につけ、これからの自分の行動を決めていかねばならない。

この講義では、これからの時代を生きていくうえで必須と思われる、主要な環境問題に関する基礎知識を身につけてもらう。

**【学習目標】**

主要な環境問題（ゴミ問題、人工化学物質汚染、酸性雨、オゾン層破壊、地球温暖化、土壌劣化、水危機、食糧問題、エネルギー問題）に関する基礎知識を身につけて、マスコミやインターネットの情報にいたずらに踊らされない自信を持ってもらいたい。同時に、それぞれの問題に対し今何をすべきか、何がなされているか、何ができるかを、ともに考えていきたい。

**【講義計画】**

- 第1回 イントロダクション（生かされている私たち）
- 第2回 ゴミ問題1
- 第3回 ゴミ問題2
- 第4回 ゴミ問題3
- 第5回 ゴミ問題4
- 第6回 ゴミ問題5
- 第7回 ゴミ問題6
- 第8回 第1回イン・クラス・レポート
- 第9回 イン・クラス・レポート振り返り
- 第10回 地球温暖化1
- 第11回 地球温暖化2
- 第12回 地球温暖化3
- 第13回 地球温暖化4
- 第14回 温暖化対策1
- 第15回 温暖化対策2
- 第16回 第2回イン・クラス・レポート
- 第17回 イン・クラス・レポート振り返り、温暖化とエネルギー
- 第18回 温暖化のこれから
- 第19回 化学物質汚染1
- 第20回 化学物質汚染2
- 第21回 化学物質汚染3
- 第22回 化学物質汚染4
- 第23回 第3回イン・クラス・レポート
- 第24回 イン・クラス・レポート振り返り、オゾン層破壊
- 第25回 大気汚染と酸性雨
- 第26回 水質汚染
- 第27回 水と土の危機、食糧問題
- 第28回 第4回イン・クラス・レポート
- 第29回 人類のこれから
- 第30回 総復習

**【成績評価の方法】**

試験 70% レポート 30% 出席 0%  
 イン・クラス・レポートとは、授業時間中に出題して、その場で書き上げて提出してもらいレポートで、その時点まで数回分の講義内容を振り返りまとめてもらうのが目的である。レポートをすべて提出した上で、試験で6割程度得点すれば単位を与える。

科目名 クラス 講義区分	
観光英語 <通期>	
山 科 美和子	4単位

**【講義概要】**

この講義では、特に旅行・航空・観光・ホテル産業などへの就職を志望する人を念頭に置き、空港、交通、ホテル、観光、ショッピングなどの実際の場面を想定しながら、旅行や観光の場で必要な英語の語彙や表現を学び、将来の仕事に生かせる実践的な英語力を身に付ける。

**【学習目標】**

観光業において必要な語彙や概念の知識を得ること。  
 日本の生活習慣・文化・観光地について英語で紹介できるようになること。  
 授業の中で習得した知識をもとに、海外旅行ツアーを企画し発表すること。

**【講義計画】**

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 What is tourism?(1)
- 第3回 What is tourism?(2)
- 第4回 World destinations(1)
- 第5回 World destinations(2)
- 第6回 Tour operators(1)
- 第7回 Tour operators(2) 小テスト
- 第8回 Toursit motivations(1)
- 第9回 Toursit motivations(2)
- 第10回 Travel agencies(1)
- 第11回 Travel agencies(2)
- 第12回 Transport in tourism
- 第13回 発表、小テスト
- 第14回 発表
- 第16回 Accommodation(1)
- 第17回 Accommodation(2)
- 第18回 Marketing and promotion(1)
- 第19回 Marketing and promotion(2)
- 第20回 The airline industry(1)
- 第21回 The airline industry(2) 小テスト
- 第22回 Holidays with a difference(1)
- 第23回 Holidays with a difference(2)
- 第24回 Reservations and sales(1)
- 第25回 Reservations and sales(2)
- 第26回 Airport departures(1)
- 第27回 Airport departures(2)
- 第28回 発表、小テスト
- 第29回 発表

**【成績評価の方法】**

小テスト 40% 発表 30% 平常点 30%

**【教科書】**

Robin Walker and Keith Harding Tourism1 Oxford

**【参考文献】**

授業中に指示する。

**【備考】**

<02～07生>は読替一覧参照の事。



科目名 クラス 講義区分	
監査論 <秋集>	
朴 大 栄	4 単位

**【講義概要】**

バブル経済崩壊後の経済回復が進んで来たにもかかわらず、世界的な経済活動の後退はこれまで以上の企業倒産を引き起こす可能性がある。過去においても、長期の不況が多く企業の倒産を誘発してきた。倒産企業においては、経営者による不正や粉飾財務諸表の作成が判明することもある。監査人が適正意見を表明した財務諸表の発行会社が、その直後に倒産することもある。このような状況のもと、監査の中身に対する社会的関心も高まり、監査基準や公認会計士法などの大幅な改訂も実施された。

監査論は、企業の独断専行を抑え、一般社会との協調を計らせるための会計学、経営学等の応用理論に属する。今年度の講義は、このような社会背景のもと、監査の基礎知識のみならず、現行の情報公開制度ならびに監査制度の問題点などにも触れていくことにする。

**【学習目標】**

本講義においては、企業と外部利害関係者とくに投資家との間に介在する金融商品取引法監査ないし会計監査を中心に、監査ならびに企業情報の公開に関する基礎知識の理解を目標とする。具体的には以下の学習目標をあげることができよう。

1. 経済事件の背景を理解する。
2. 企業の情報公開の内容・種類について理解する。
3. 会社法、金融商品取引法、公認会計士法等、監査を取り巻く法律を理解する。
4. 監査の必要性、監査の基礎理論を理解する。

**【講義計画】**

- 第1回 監査とは
- 第2回 監査の歴史1
- 第3回 監査の歴史2
- 第4回 社会を揺るがす経済事件1
- 第5回 社会を揺るがす経済事件2
- 第6回 コーポレートガバナンス1
- 第7回 コーポレートガバナンス2
- 第8回 コーポレートガバナンス1
- 第9回 経済社会を支える財務情報1
- 第10回 経済社会を支える財務情報2
- 第11回 経済社会を支える財務情報3
- 第12回 財務情報と監査の必要性1
- 第13回 財務情報と監査の必要性2
- 第14回 監査を取り巻く法律1
- 第15回 監査を取り巻く法律2
- 第16回 監査を取り巻く法律3
- 第17回 監査を担当する人1
- 第18回 監査を担当する人2
- 第19回 監査を取り巻く組織1
- 第20回 監査を取り巻く組織2
- 第21回 監査のルール1
- 第22回 監査のルール2
- 第23回 監査のプロセス1
- 第24回 監査のプロセス2
- 第25回 監査結果の報告1
- 第26回 監査結果の報告2
- 第27回 新たな課題
- 第28回 健全な社会と監査

**【成績評価の方法】**

試験 60%  
定期試験の成績とレポート、出席状況を勘案して評価する。

**【教科書】**

盛田良久、百合野正博、朴大栄編『まなびの入門監査論』第2版 中央経済社

**【参考文献】**

鳥羽至英著 『監査基準の基礎』 白桃書房  
山浦久司著 『会計監査論』 中央経済社  
その他、講義中に適宜指示する。

科目名 クラス 講義区分	
環太平洋圏経営研究 A <春>	
岸 本 裕 一	2 単位

**【講義概要】**

日本を含む環太平洋圏（南北アメリカ、東アジア、オセアニア、ロシア極東地域を含む圏域）は、文明の転換期とも言うべき歴史的ダイナミズムの中にある。中国・台湾のWTO加盟や、APECのありようは、そのサニーサイドであり、また、たとえば、1998年に起こったアジアの金融危機などは、そのダークサイドということができよう。また、中国の通貨人民元の為替レートの問題も国際的な関心事の1つである。さらに、以前の常識からは想像しにくいことも数多く生起している。このような中であって、環太平洋地域の経営をめぐる諸問題を学ぶことは、経営学研究に携わるものにとっては必須の要件である。また、このような学びは、本学の建学の精神である「世界の市民」という視点からも避けては通るとのできない学びとなっている。

受講生である院生諸君の研究の視野や問題意識をより大きく広げてもらうチャンスと捉えて、多くの受講を期待する。トピックとしては、経営、経済問題を主としつつも、政治、文化、環境問題などといった関連領域にも触れながら、グローバルかつローカルな問題認識の目とセンスを身に着けたいものである。

**【学習目標】**

各界の実力者・著名人を数多く招いての講義展開となるので、1回生は必修科目に準じた認識の下での受講を期待する。幅広い視野を形成していただきたい。

**【講義計画】**

第1回 <春学期>  
第1回は「環太平洋圏経営研究の実践的課題と方法論」として岸本が講義した後、第2回以降は、韓国、中国、アメリカ、東南アジア、中南米、ロシア極東地域の 経済動向と経営の展開について、専門家によるリレー講義となる。（注記）前・後期とも詳しい日程は、ゲスト講師等との調整が必要なため、オリエンテーションの時点で公表される。

**【成績評価の方法】**

レポート 50% 出席 50%  
1. 講義への出席と関与の程度  
2. レポートの評価

**【教科書】**

特に指定しない。

**【参考文献】**

特に指定しない。

**【備考】**

〔02～06B生〕は読替一覧参照の事。  
インテグレーション科目

科目名 クラス 講義区分	
環太平洋圏経営研究B <秋>	
岸 本 裕 一	2単位

**【講義概要】**

日本を含む環太平洋圏（南北アメリカ、東アジア、オセアニア、ロシア極東地域を含む圏域）は、文明の転換期とも言うべき歴史的ダイナミズムの中にある。中国・台湾のWTO加盟や、APECのありようは、そのサニーサイドであり、また、たとえば、1998年に起こったアジアの金融危機などは、そのダークサイドということができよう。また、中国の通貨人民元の為替レートの問題も国際的な関心事の1つである。さらに、以前の常識からは想像しにくいことも数多く生起している。このような中であって、環太平洋地域の経営をめぐる諸問題を学ぶことは、経営学研究に携わるものにとっては必須の要件である。また、このような学びは、本学の建学の精神である「世界の市民」という視点からも避けては通るとのできない学びとなっている。

受講生である院生諸君の研究の視野や問題意識をより大きく広げてもらおうチャンスと捉えて、多くの受講を期待する。トピックとしては、経営、経済問題を主としつつも、政治、文化、環境問題などといった関連領域にも触れながら、グローバルかつローカルな問題認識の目とセンスを身につけたいものである。

**【学習目標】**

各界の実力者・著名人を数多く招いての講義展開となるので、1回生は必修科目に準じた認識の下での受講を期待する。幅広い視野を形成していただきたい。

**【講義計画】**

第1回 <秋学期>

最新のトピックを盛り込んだ講義、たとえば、小売業のあり方、環境問題への取組、コンテンツ産業の展開などにつき専門家のリレー講義となる。そして、最終回は「取りまとめの講義」を岸本が行なう。  
(注記) 詳しい日程は、ゲスト講師等との調整が必要なため、オリエンテーションの時点で公表される。

**【成績評価の方法】**

レポート 50% 出席 50%

1. 講義への出席と関与の程度
2. レポートの評価

**【教科書】**

特に指定しない。

**【参考文献】**

特に指定しない。

**【備考】**

〔02～06B生〕は読替一覧参照の事。  
インテグレーション科目

科目名 クラス 講義区分	
管理会計基礎 <春>	
谷 武 幸	2単位

**【講義概要】**

管理会計は経営戦略を実現するためのシステムです。管理会計では、経営戦略の実現に向けて将来を計画 (plan) し、このプランの実行 (do) プロセスにおいてプランの実現をチェック (check) し、必要なアクション (action) をとるという一連のサイクル、つまりPDCAサイクルを回します。本講義では、管理会計の基本のPDCAサイクルを学習します。

**【学習目標】**

この講義では、管理会計の基本的理解を目指します。管理会計の最近のトピックスや戦略管理会計を学習する上で基礎となるものです。

**【講義計画】**

- 第1回 管理会計の意義
- 第2回 管理会計の基礎概念(1)
- 第3回 管理会計の基礎概念(2)
- 第4回 意思決定会計の方法
- 第5回 業績管理会計の方法(1)
- 第6回 業績管理会計の方法(2)
- 第7回 原価管理(1)
- 第8回 原価管理(2)
- 第9回 長期経営計画
- 第10回 設備投資計画
- 第11回 利益計画(1)
- 第12回 利益計画(2)
- 第13回 予算管理
- 第14回 事業部の業績管理

**【成績評価の方法】**

試験 100%

**【教科書】**

谷 武幸 エッセンシャル管理会計(仮題) 中央経済社

**【備考】**

<02～07生>は読替一覧参照の事。

科目名	クラス	講義区分
企業論 <秋集>		
坂本雅則		4単位

**【講義概要】**

食料品等の偽装問題・サブプライムをきっかけとする金融恐慌・派遣切りなどを思い浮かべれば、現代社会における「企業」の役割は大きく、社会全体に重大な影響を及ぼすことは端的にわかります。

現代社会の問題を解決するには、多大な影響力を持つ企業を「どのように捉え、どう認識し、どう制御するのか」ということが重要な課題となります。

そして、このような課題を解決するためには、「企業における所有者・支配者・権力者は誰なのか」を特定し、「企業をどのようにガバナンスすべきか」ということを考えなければなりません。

このような課題はこれまで企業支配論やコーポレート・ガバナンス論という領域で議論されてきました。本講義では、既存学説にとらわれず、企業における権力関係を分析するにはどうすればよいのか、ということを中心に話を進めます。

**【学習目標】**

講義は「株式会社」に関する議論からはじめて、これまでの学説では何が見えて、何が見えないのかを事例も使いながら見ていこうと思います。

到達目標としては、

- ①株式会社がどういう制度なのかを知ること
  - ②権力者を特定化するのにどのような考え方があのかを知ること
  - ③それらを使って現代の企業社会の見る目を養うこと
- などです。

**【講義計画】**

- 第1回 イントロダクション
- 第2回 株式会社論(1)
- 第3回 株式会社論(2)
- 第4回 法パラダイム概要
- 第5回 組織パラダイム概要
- 第6回 小規模個人企業の事例分析(1)
- 第7回 小規模個人企業の事例分析(2)
- 第8回 小規模個人企業の事例分析(3)
- 第9回 小規模個人企業の事例分析(4)
- 第10回 Berle/Meansの学説(1)
- 第11回 Berle/Meansの学説(2)
- 第12回 Blumbergの学説(1)
- 第13回 Blumbergの学説(2)
- 第14回 Burnhamの学説(1)
- 第15回 Burnhamの学説(2)
- 第16回 Gordonの学説(1)
- 第17回 Gordonの学説(2)
- 第18回 Gordonの学説(3)
- 第19回 閉鎖的所有構造企業の事例分析(1)
- 第20回 閉鎖的所有構造企業の事例分析(2)
- 第21回 閉鎖的所有構造企業の事例分析(3)
- 第22回 Galbraithの学説(1)
- 第23回 Galbraithの学説(2)
- 第24回 Galbraithの学説(3)
- 第25回 開放的所有構造企業の事例分析(1)
- 第26回 開放的所有構造企業の事例分析(2)
- 第27回 開放的所有構造企業の事例分析(3)
- 第28回 まとめ

**【成績評価の方法】**

概ね期末テストが6割、平常点4割で評価します。平常点とは授業態度とテスト後に提出してもらった講義ノートの内容です。

**【教科書】**

坂本雅則『企業支配論の統一的パラダイムー「構造的支配」概念の提唱ー』文真堂

**【参考文献】**

必要があれば授業中に触れます。

**【備考】**

講義計画はあくまで計画であって、学生の理解度に応じて若干の変更はなされます。

科目名	クラス	講義区分
基礎演習 01 <通期>		
軽部恵子		4単位

**【講義概要】**

人間の知的活動は「聞く・話す・読む・書く」の4つに集約できます。この演習では、日本語の能力を磨き、論理的な思考方法を習得するための練習をします。また、相手の話を細部まで正確に理解し、資料を多角的に分析し、説得力ある意見をわかりやすく発表し、理路整然とした文章を書くという、大学でのあらゆる勉強に必要不可欠な技術を学びます。

受講生は高校までの勉強方法にとらわれず、自由な発想と旺盛な好奇心・探求心を持つよう求められます。受講生は各自で主要新聞のうち1紙を読み、テレビのニュース番組を見て下さい。演習の素材には身近でタイムリーなトピックを取り上げます。

春学期前半は、社会の動きを知る上で重要な情報源である新聞の上手な活用法を習得します。春学期後半は、現代日本をめぐる問題（政治、経済、社会、国際）について、法学の視点に基づいたリサーチを行い、最後にグループ発表を行います。秋学期は、はじめに資料収集と分析の方法を学んだ上で、法学に関連したテーマを1ないし2選び、ディベートを行います。ディベートの準備および試合を通じて、論理的な議論の組み立て方と効果的なプレゼンテーションの方法を学びます。

**【学習目標】**

- (1) 大学生に必要な日本語能力を習得する。
- (2) 資料の収集と分析方法を学ぶ。
- (3) 効果的なプレゼンテーション法を学ぶ。
- (4) 論理的な思考方法の基礎を学ぶ。

**【講義計画】**

- 第1回 講義運営の概要
- 第2回 ノートのとりかた
- 第3回 裁判とは何か
- 第4回 情報センターガイダンス
- 第5回 図書館ガイダンス
- 第6回 新聞の読み方(1) 紙面構成
- 第7回 新聞の読み方(2) 他紙との比較
- 第8回 新聞の読み方(3) テレビ・インターネット版との比較
- 第9回 グループ発表(1) 準備① テーマ選定とリサーチ
- 第10回 グループ発表(2) 準備② 樹形図の作成
- 第11回 グループ発表(3) 準備③ 発表用資料の作成
- 第12回 グループ発表(4) 発表①
- 第13回 グループ発表(5) 発表②
- 第14回 学期のまとめ
- 第15回 資料の分析(1) グラフの読み方①
- 第16回 資料の分析(2) グラフの読み方②
- 第17回 資料の分析(3) 世論調査の読み方①
- 第18回 資料の分析(4) 世論調査の読み方②
- 第19回 ディベート(1) 準備① テーマ選定とリサーチの分担
- 第20回 ディベート(2) 準備② 樹形図の作成と立論の構築
- 第21回 ディベート(3) 準備③ 論拠の効果的な引用
- 第22回 ディベート(4) 準備④ 反論と再反論
- 第23回 ディベート(5) 試合①
- 第24回 ディベート(6) 試合②
- 第25回 ディベート(7) 講評
- 第26回 特別テーマ(1)
- 第27回 特別テーマ(2)
- 第28回 特別テーマ(3)

**【成績評価の方法】**

成績評価は、出席状況（遅刻は「出席」ではありません）、受講態度、授業中の発言、課題（内容、提出期限の遵守）、個人およびグループ発表（トピック、内容、授業への貢献度）、春学期末試験、ディベート（準備段階、本番）を積算して算定します。履修の大前提として、出席状況はとくに重視されます。各項目の比率については、第1回の授業で説明します。

**【教科書】**

道垣内正人『自分で考えるちょっと違った法学入門』第3版 有斐閣

**【参考文献】**

- ・池上彰『池上彰の情報力』ダイヤモンド社 2004年
- ・池上彰『そうだったのか！ニュース世界地図2009』集英社 2008

年

- ・いしかわまりこ他『リーガル・リサーチ』第3版 日本評論社 2008年
- ・石黒圭『文章は接続詞で決まる』光文社 2008年
- ・井上真琴『図書館に訊け!』筑摩書房 2004年
- ・小笠原喜康『インターネット完全活用版: 大学生のためのレポート・論文術』講談社 2003年
- ・北川達夫他『図解フィンランド・メソッド入門』経済界 2005年
- ・北村肇『新聞記事が「わかる」技術』講談社 2003年
- ・久慈力『図書館利用の達人』現代書館 2008年
- ・倉島保美『英語プレゼンテーションの技術』日経新聞社 2006年
- ・コリンP. A. ジョーンズ『アメリカ人弁護士が見た裁判員制度』平凡社 2008年
- ・鈴木信一『800字を書く力』祥伝社 2008年
- ・竹田茂生、藤木清『知のワークブック』くろしお出版 2006年
- ・谷岡一郎『「社会調査」のウソ』文藝春秋 2000年
- ・ニュース・リテラシー研究所編著『図解まるわかり時事用語2009→2010年版』新星出版社 2009年
- ・野村進『調べる技術・書く技術』講談社 2008年
- ・畑村洋太郎『失敗学』ナツメ社 2006年
- ・日垣隆『使えるレファ本 150選』筑摩書房 2006年
- ・藤沢晃治『疑う技術: ウソを見破る9つの視点』PHP研究所 2006年
- ・町田頭『初心者のための「日経新聞」の読み方』東洋経済新報社 2004年

科目名 クラス 講義区分

基礎演習 02 <通期>

瀬谷 ゆり子

4単位

#### 【講義概要】

特定の課題について資料を探して検討・整理し、自らの考えを付して、それを口頭および文書形で発表して他人に伝え、批評を受けるということを体験する。

春学期は、グループでその作業を行う。秋学期は、判例を素材に、一人でそれを読み、整理して報告する作業を通じて、検索・分析・検討する基礎的な力をつける。

#### 【学習目標】

社会科学の基礎的な部分にふれることで、これから法学部でどのようなことを学ぶのか、それにはどのような方法が必要であるのかを感じてもらいたい。今後の専門的な研究への期待と関心が深められるように、構成メンバーが自由に意見交換ができるようにすることを目標にする。

#### 【講義計画】

第1回 演習内容のオリエンテーション。

1. 課題の設定
2. 資料の収集方法（図書館における検索の実習を含む）
3. グループ報告の手順  
自己紹介。

第2回 グループ分け、資料の収集方法の説明、六法の使い方等

第3回 図書館ガイダンス

第4回 グループ発表の準備—レジュメ（報告要旨）の作成方法

第5回 グループ発表の準備—質問への対応

第6回 グループ発表の準備

第7回 グループ別報告1

第8回 グループ別報告2

第9回 グループ別報告3

第10回 グループ別報告4

第11回 グループ別報告5

第12回 グループ別報告の反省

第13回 グループ別報告の内容に関わるレポートの作成方法

第14回 キャリアセンターによるキャリアアップ講座

第15回 金銭消費貸借契約をめぐる判例研究。割当・方法・資料収集のガイダンス。

第16回 基礎知識の検討—1

第17回 基礎知識の検討—2

第18回 基礎知識の検討—3

第19回 基礎知識の検討—4

第20回 個別報告1

第21回 個別報告2

第22回 個別報告3

第23回 個別報告4

第24回 個別報告5

第25回 個別報告6

第26回 個別報告7

第27回 個別報告8

第28回 個別報告の反省とまとめ

#### 【成績評価の方法】

試験 0% レポート 50% 出席 50%

「出席」とは、単に教室に居るだけでなく、授業における報告を含めた発言も不可欠である。

#### 【参考文献】

六法。

その他、テーマにより異なるため、適宜指示します。

科目名	クラス	講義区分
基礎演習 03 <通期>		
田中 志津子	4単位	

**【講義概要】**

受け身だけでは身につかない大学での勉強方法、法律科目の学び方、そして将来を見据えた大学生生活の送り方等を扱う。

**【学習目標】**

教師から教えてもらうだけの「受身」の学び方ではなく、文献を調べる等自分から積極的に行動する学び方を身に付ける。

文献収集方法、文献講読方法、レポート・論文の書き方、報告手順、議論の進め方等を学び、大学での教育を有効に習得できるようにする。

**【講義計画】**

- 第1回 紹介、受講時の注意
- 第2回 勉強方法、六法の使い方・読み方①、条文の読み方練習①
- 第3回 六法の使い方・読み方②、条文の読み方練習②、ノートの取り方
- 第4回 六法の使い方・読み方③、条文の読み方練習③、法学入門の入門
- 第5回 議論の方法、レポートの書き方、文献引用方法①
- 第6回 文献引用方法②、ワープロソフトによる注の付け方等
- 第7回 図書館利用方法
- 第8回 ディベート練習準備①
- 第9回 ディベート練習準備②
- 第10回 ディベート練習
- 第11回 就職を考える
- 第12回 単位と卒業、就職と資格、大学の試験と「答案」
- 第13回 総復習①
- 第14回 総復習②
- 第15回 試験
- 第16回 グループ報告準備①
- 第17回 グループ報告準備②
- 第18回 グループ報告準備③
- 第19回 グループ報告
- 第20回 個別報告テーマ選定、レジュメの書き方
- 第21回 個別報告練習①
- 第22回 個別報告練習②
- 第23回 個別報告練習③
- 第24回 個別報告練習④
- 第25回 個別報告練習⑤
- 第26回 個別報告練習⑥
- 第27回 個別報告練習⑦
- 第28回 総復習③
- 第29回 総復習④
- 第30回 試験

**【成績評価の方法】**

試験 20% レポート 20% 出席 60%

小テストを実施することがある。その結果は出席点に反映させる。

なお、上記の評価割合は参考である。

**【参考文献】**

授業時に指示する。

**【備考】**

授業計画は変更することがある。

科目名	クラス	講義区分
基礎演習 04 <通期>		
寺田 友子	4単位	

**【講義概要】**

法の存在は、トラブルに遭遇して認識される。加害者にも、被害者にもなりうる可能性があるトラブルとして自動車による交通事故を挙げることができる。

春学期は、自動車事故に基づく損害賠償の具体的な判例を素材に、六法の使い方、読み方文献の探索方法、損害賠償の法理、法の適用過程、民事訴訟の概略、最高裁判所判決の読み方等、法学を学ぶ上で基礎的な知識等を学ぶ。あわせて、受講生の体験等に基づいて、道路交通法に基づく自動車運転の安全確保手段等についても理解を深める。

尚、質問等を気軽に言いやるためには、演習生相互の親睦が欠かせないものとするから、早い時期に昼食会を持ちたい。

夏休みの課題として、リストアップした最高裁判所民事判例の内から各自1つ選択し、レジュメ又はレポートを作成する。

秋学期に入ると演習時間中にそのレポートを報告する。

他の演習生は報告者に質問し、応答を求めた後、報告された事案につきレポートを書き毎回提出する。このレポートについては毎回添削し返却する。このことにより、人の報告を聞いて、ノートをとる能力等を養いたい。

最終的には、自己の報告した判例につき最終レポートを提出する。

**【学習目標】**

交通事故における加害者は、3責任を負う。この概略を理解することは今後の法学学習上重要と考える。また、法の適用過程を刑事責任とともに、民事責任である損害賠償の法理を通じて理解することによって、今後の法学学習に寄与したい。

**【講義計画】**

- 第1回 春学期
  - 1 ガイダンス・自己紹介
    - 図書館ガイダンス、キャリアガイダンスの日程の都合上、下記予定は変更される場合もある。
- 第2回 文献の探索方法・六法の使い方・昼食会
- 第3回 図書館ガイダンス
- 第4回 キャリアガイダンス
- 第5回 法の適用過程と交通事故をめぐる3つの責任
- 第6回 刑事責任について
- 第7回 損害賠償の法理
- 第8回 最新の最高裁判所判決を素材に判例の読み方を学ぶ
- 第9回 上記の地方裁判所の判決を読む(1)  
上記の地方裁判所判決を読む
- 第10回 上記の地方裁判所の判決を読む(2)
- 第11回 上記の控訴審判決を読む(1)
- 第12回 上記の控訴審判決を読む(2)
- 第13回 上記の最高裁判所判決を読む(1)  
上記の最高裁判所判決を読む(1)  
上記の最高裁判所判決を読む(1)
- 第14回 上記の最高裁判所判決を読む(2)
- 第15回 夏休み課題について
- 第16回 夏休みの課題提出と夏休み生活についてのスピーチ、課題報告順序決定
- 第17回 学生による夏休み課題報告1件
- 第18回 学生による夏休み課題報告1件
- 第19回 学生による夏休み課題報告1件
- 第20回 学生による夏休み課題報告1件
- 第21回 学生による夏休み課題報告2件
- 第22回 学生による夏休み課題報告2件
- 第23回 学生による夏休み課題報告2件
- 第24回 学生による夏休み課題報告2件
- 第25回 学生による夏休み課題報告2件
- 第26回 学生による夏休み課題報告2件
- 第27回 学生による夏休み課題報告2件
- 第28回 学生による夏休み課題報告2件
- 第29回 学生による夏休み課題報告2件
- 第30回 学生による夏休み課題報告1件・昼食会

**【成績評価の方法】**

試験 0% レポート 50% 出席 50%

正当な理由なき欠席は、受講を放棄したものとみなす。単位取得の最低条件は、皆出席である。

授業時間中における質問、自己の報告、授業に対する積極性、毎回のレポート等を総合的に勘案して評価する。

#### 【教科書】

交通事故判例百選（第四版）有斐閣  
ポケット六法 悠斐閣  
毎回六法を持参して受講すること。

#### 【参考文献】

適宜紹介する。  
損害賠償算定基準（上・下）（赤本）等々

科目名 クラス 講義区分

基礎演習 05<通期>

永水裕子

4単位

#### 【講義概要】

この演習は、法学部生として4年間過ごすための基礎的な学習方法と法学部生らしい学習態度を身につけてもらうために、基本書の読み方、判例の読み方、判例や文献の検索の仕方、（可能ならば）判例研究のやり方、レポートの書き方、プレゼンテーションの仕方（質疑応答もしてもらいます）、ディベートのための準備及びディベートの作法等について実践しながら学習していきます。なお、色々なセンターのガイダンスがありますが、他のゼミも同じガイダンスを受けますので、予約が取れなかった場合は、講義の順番が変わり、授業計画通りにはいかないことがあります、その点についてはご了承下さい。

#### 【学習目標】

法学部生として4年間過ごすための基礎的な学習方法と法学部生らしい学習態度を身につけて頂くことが目標ですので、積極的な参加が求められます。試験を行いませんので、その分、普段の学習態度、演習への参加態度、レポートや判例をまとめたもの等の提出物で評価いたします。そのつもりで心して演習に臨んでください。

#### 【講義計画】

- 第1回 インTRODakション
- 第2回 建学の精神を学ぶ（チャペルにて）
- 第3回 図書館ガイダンス
- 第4回 情報センターガイダンス
- 第5回 ノートのとり方
- 第6回 基本書の読み方1
- 第7回 基本書の読み方2
- 第8回 判例の読み方（民事事件）（1）
- 第9回 判例の読み方（民事事件）（2）
- 第10回 判例・文献検索のやり方（1）
- 第11回 レポートの書き方（1）
- 第12回 判例の読み方（刑事事件）（3）
- 第13回 判例の読み方（刑事事件）（4）
- 第14回 判例・文献検索のやり方（2）
- 第15回 まとめ
- 第16回 プレゼンテーションのやり方について
- 第17回 プレゼンテーションの実践（数人のグループ）（1）
- 第18回 プレゼンテーションの実践（数人のグループ）（2）
- 第19回 プレゼンテーションの実践（数人のグループ）（3）
- 第20回 プレゼンテーションの実践（数人のグループ）（4）
- 第21回 レポートの書き方（2）
- 第22回 ディベートのやり方
- 第23回 ディベートの準備（1）
- 第24回 ディベートの準備（2）
- 第25回 ディベート
- 第26回 ディベートの総括
- 第27回 短いプレゼンテーションの実践（個人）（1）
- 第28回 短いプレゼンテーションの実践（個人）（2）
- 第29回 キャリアセンターガイダンス
- 第30回 まとめ

#### 【成績評価の方法】

試験 0% レポート 10% 出席 90%  
出席の態度、ディベートでの発言等、積極的な参加を希望します。  
レポート数回。

#### 【参考文献】

入門科目で使用している教科書を使用することがある。

科目名 クラス 講義区分	
基礎演習 06 <通期>	
永水裕子	4単位

**【講義概要】**

この演習は、法学部生として4年間過ごすための基礎的な学習方法と法学部生らしい学習態度を身につけてもらうために、基本書の読み方、判例の読み方、判例や文献の検索の仕方、(可能ならば)判例研究のやり方、レポートの書き方、プレゼンテーションの仕方(質疑応答もしてもらいます)、ディベートのための準備及びディベートの作法等について実践しながら学習していきます。なお、色々なセンターのガイダンスがありますが、他のゼミも同じガイダンスを受けますので、予約が取れなかった場合は、講義の順番が変わり、授業計画通りにはいかないことがあります、その点についてはご了承下さい。

**【学習目標】**

法学部生として4年間過ごすための基礎的な学習方法と法学部生らしい学習態度を身につけて頂くことが目標ですので、積極的な参加が求められます。試験を行いませんので、その分、普段の学習態度、演習への参加態度、レポートや判例をまとめたもの等の提出物で評価いたします。そのつもりで心して演習に臨んでください。

**【講義計画】**

- 第1回 インTRODクシヨン
- 第2回 建学の精神を学ぶ(チャペルにて)
- 第3回 図書館ガイダンス
- 第4回 情報センターガイダンス
- 第5回 ノートのとり方
- 第6回 基本書の読み方1
- 第7回 基本書の読み方2
- 第8回 判例の読み方(民事事件)(1)
- 第9回 判例の読み方(民事事件)(2)
- 第10回 判例・文献検索のやり方(1)
- 第11回 レポートの書き方(1)
- 第12回 判例の読み方(刑事事件)(3)
- 第13回 判例の読み方(刑事事件)(4)
- 第14回 判例・文献検索のやり方(2)
- 第15回 まとめ
- 第16回 プレゼンテーションのやり方について
- 第17回 プレゼンテーションの実践(数人のグループ)(1)
- 第18回 プレゼンテーションの実践(数人のグループ)(2)
- 第19回 プレゼンテーションの実践(数人のグループ)(3)
- 第20回 プレゼンテーションの実践(数人のグループ)(4)
- 第21回 レポートの書き方(2)
- 第22回 ディベートのやり方
- 第23回 ディベートの準備(1)
- 第24回 ディベートの準備(2)
- 第25回 ディベート
- 第26回 ディベートの総括
- 第27回 短いプレゼンテーションの実践(個人)(1)
- 第28回 短いプレゼンテーションの実践(個人)(2)
- 第29回 キャリアセンターガイダンス
- 第30回 まとめ

**【成績評価の方法】**

試験 0% レポート 10% 出席 90%  
出席の態度、ディベートでの発言等、積極的な参加を希望します。レポート数回。

**【参考文献】**

入門科目で使用している教科書を使用することがある。

科目名 クラス 講義区分	
基礎演習 07 <通期>	
馬場 巖	4単位

**【講義概要】**

法学部に入学をして、これから法律を学ぶにあたり、基礎的な知識を習得できるようにする。

**【学習目標】**

レポートの書き方、資料収集の仕方、発表の仕方などが身に付くようにしたい。

**【講義計画】**

- 第1回 各学生の自己紹介を行う。
- 第2回 六法の使い方。
- 第3回 判例の読み方。
- 第4回 法とは何か。
- 第5回 法と他の社会規範。
- 第6回 法源
- 第7回 レポートの書き方
- 第8回 資料収集の方法
- 第9回 事例問題についてのレポート
- 第10回 事例問題についてのディベート
- 第11回 事例問題についてのレポート
- 第12回 事例問題についてのディベート
- 第13回 事例問題についてのレポート
- 第14回 事例問題についてのディベート
- 第15回 事例問題についてのディベート
- 第16回 事例問題についてのレポート
- 第17回 事例問題についてのディベート
- 第18回 事例問題についてのレポート
- 第19回 事例問題についてのディベート
- 第20回 事例問題についてのレポート
- 第21回 事例問題についてのディベート
- 第22回 事例問題についてのレポート
- 第23回 事例問題についてのディベート
- 第24回 事例問題についてのレポート
- 第25回 事例問題についてのディベート
- 第26回 事例問題についてのレポート
- 第27回 事例問題についてのディベート
- 第28回 事例問題についてのレポート
- 第29回 図書館ガイダンス
- 第30回 キャリアガイダンス

**【成績評価の方法】**

出席点と授業での発言等によって評価する。

**【教科書】**

使用しない。

**【参考文献】**

授業において指示する。

科目名 クラス 講義区分	
基礎演習 08 <通期>	
本 問 法 之	4 単位

#### 【講義概要】

基礎演習は、充実した法学部生活を送るためのアカデミック・ガイダンスです。法学部での勉学に必要な基礎的技術の修得を図るために、講義の受け方、講義ノートの取り方、情報機器を利用した文献・資料等の検索、図書館利用の方法、研究テーマの選び方、文献収集の方法、ディベートの技法、レポートや論文の書き方、研究報告の仕方等についての基礎的な指導を行います。また、事情が許せば、裁判所の見学などによる実践的学習等の体験も積んでもらおうと思います。さらに、学生諸君相互の間に交流の絆が生まれるよう側面から支援をすると共に、学生生活や将来の進路等に関する相談・助言も行いたいと思っています。

#### 【学習目標】

法学部での勉学に必要な基礎的知識（講義の受け方、講義ノートの取り方、情報機器を利用した文献・資料等の検索、図書館利用の方法、研究テーマの選び方、文献収集の方法、ディベートの技法、レポートや論文の書き方、研究報告の仕方等）の修得

#### 【講義計画】

- 第1回 ゼミ員相互紹介  
基礎演習の進め方  
法学部初年度生への助言
- 第2回 「六法」の常識（予定）
- 第3回 法律学習へのアプローチ（予定）
- 第4回 初学者のための法律文献案内（予定）
- 第5回 図書館ガイダンス（予定）
- 第6回 情報センターガイダンス（予定）
- 第7回 キャリアセンターガイダンス（予定）
- 第8回 法律用語の常識（予定）
- 第9回 法律解釈の常識〈その1〉（予定）
- 第10回 法律解釈の常識〈その2〉（予定）
- 第11回 判例学習の常識〈その1〉（予定）
- 第12回 判例学習の常識〈その2〉（予定）
- 第13回 各種国家試験と法律の学習（予定）
- 第14回 法律答案・レポートの書き方（予定）
- 第15回 研究報告の仕方（予定）
- 第16回 個別研究報告
- 第17回 個別研究報告
- 第18回 個別研究報告
- 第19回 個別研究報告
- 第20回 個別研究報告
- 第21回 個別研究報告
- 第22回 個別研究報告
- 第23回 個別研究報告
- 第24回 個別研究報告
- 第25回 個別研究報告
- 第26回 個別研究報告
- 第27回 個別研究報告
- 第28回 個別研究報告
- 第29回 個別研究報告
- 第30回 個別研究報告

#### 【成績評価の方法】

試験 0% レポート 20% 出席 80%

#### 【参考文献】

講義中に適宜紹介します。

#### 【備考】

現時点では、図書館、情報センター、キャリアセンターなどのガイダンスの日程が不確定のため、春学期の授業計画はあくまでも予定であり、授業の順番が変更になる可能性があります。

科目名 クラス 講義区分	
基礎演習 09 <通期>	
松 村 昌 廣	4 単位

#### 【講義概要】

この演習は新入生に対して、今後、法学部の学生としてより専門的な学習に取り組む基礎となるように、法律や政治の根本的な概念を理解させることにある。

指定テキストは通常のテキストと異なり、憲法の条文解釈とはまったく一線を画している。テキストは憲法が掲げて立つ民主主義の正体を歴史的・学問的に説明するとともに、現在の日本がどうして閉塞状況に至ったかを分析している。

このような学習材料を用いることで、受講生は今後四年間、法学部生として学習していく上で強い動機付けを持つことができるだろう。

#### 【学習目標】

テキストを少しづつ輪読し、教員と学生との質疑を中心としてゼミを進める。毎回、二人の学生を決めて、テキストの該当箇所について口頭発表を求める。

#### 【講義計画】

- 第1回 ゼミの運営方針と学生の心得
- 第2回 桃山学院大学の教育理念（チャペルにて）
- 第3回 図書館オリエンテーション
- 第4回 日本国憲法は死んでいる(1)
- 第5回 日本国憲法は死んでいる(2)
- 第6回 誰のために憲法はあるか(1)
- 第7回 誰のために憲法はあるか(2)
- 第8回 すべては議会から始まった(1)
- 第9回 すべては議会から始まった(2)
- 第10回 就職ガイダンス
- 第11回 民主主義は神様が作った(1)
- 第12回 民主主義は神様が作った(2)
- 第13回 民主主義と資本主義は双子だった(1)
- 第14回 民主主義と資本主義は双子だった(2)
- 第15回 はじめに契約ありき(1)
- 第16回 はじめに契約ありき(2)
- 第17回 「民主主義のルール」とは何か(1)
- 第18回 「民主主義のルール」とは何か(2)
- 第19回 「憲法の敵」は、ここにいる(1)
- 第20回 「憲法の敵」は、ここにいる(2)
- 第21回 平和主義者が戦争を作る(1)
- 第22回 平和主義者が戦争を作る(2)
- 第23回 ヒトラーとケインズが20世紀を変えた(1)
- 第24回 ヒトラーとケインズが20世紀を変えた(2)
- 第25回 天皇教の原理 — 大日本帝国憲法を研究する(1)
- 第26回 天皇教の原理 — 大日本帝国憲法を研究する(2)
- 第27回 角栄死して、憲法も死んだ(1)
- 第28回 角栄死して、憲法も死んだ(2)
- 第29回 憲法はよみがえるか(1)
- 第30回 憲法はよみがえるか(2)

#### 【成績評価の方法】

試験 0% レポート 60% 出席 40%  
基本的概念の理解度を採る小テスト(10分間)を12回行う。一回5点、計60点。残り40点は出席率、発表、発言の頻度及び内容を総合的に判断して評価する。80点以上はA、70点から79点はB、60点から69点はC、59点以下はDとする。

#### 【教科書】

小室直樹 痛快! 憲法学 集英社インターナショナル



科目名	クラス	講義区分
基礎演習	10	<通期>
基礎演習	13	<通期>
天 本 哲 史	4 単位	

#### 【講義概要】

基礎演習は、学生が大学教育に適応するために設けられたアカデミックガイダンスである。大学教育では、高等学校までの教師による講義中心のものと異なり、学生が主体的に学問に取り組むことが求められる。そこで、本演習では、学生が主体的に学問に取り組むことを可能にする能力の習得を目指して、インターネットや文献等からの情報収集の方法、レポート等の作成・発表の方法、ディベートでの質疑応答の方法などを実際に体験してもらう。

#### 【学習目標】

本演習は、アカデミックガイダンスとして、法学部で学習するために必要な能力の習得を目標とする。具体的には、①文献等からの情報収集・調査、②レポート等の作成方法、③レポート等の発表、④多人数によるディベート、といった各体験を通じて、上記の能力の習得を目指す。

#### 【講義計画】

- 第1回 ガイダンス
- 第2回 法学の学習方法
- 第3回 公務員試験・資格試験の法律科目の学習方法
- 第4回 法曹と法科大学院
- 第5回 図書館などを用いた文献収集の方法
- 第6回 教科書の読み方
- 第7回 六法・法令の読み方
- 第8回 判例の読み方
- 第9回 発表の方法
- 第10回 ディベートの方法
- 第11回 レポートの方法
- 第12回 発表の実践
- 第13回 ディベートの実践
- 第14回 レポート作成の実践
- 第15回 発表・ディベート
- 第16回 発表・ディベート
- 第17回 発表・ディベート
- 第18回 発表・ディベート
- 第19回 発表・ディベート
- 第20回 発表・ディベート
- 第21回 発表・ディベート
- 第22回 発表・ディベート
- 第23回 発表・ディベート
- 第24回 発表・ディベート
- 第25回 発表・ディベート
- 第26回 発表・ディベート
- 第27回 発表・ディベート
- 第28回 レポートの提出

#### 【成績評価の方法】

レポート 50% 出席 50%

#### 【教科書】

弥生真生 法律学習マニュアル 第2版補訂版 有斐閣

#### 【参考文献】

六法（最新のものであればよい）  
その他に参考となる文献等については、講義の中で適宜に紹介する。

科目名	クラス	講義区分
基礎演習	11	<通期>
村 山 高 康	4 単位	

#### 【講義概要】

日本国憲法の基礎的理解と、その歴史的背景を研究する。

#### 【学習目標】

法学部で学ぶ科目の大半は、いわゆる「社会科学」の学問分野に属するものである。なかでも「憲法」学は「社会科学」の中心をなすものであり、法律のみならず政治・経済・社会のあらゆる領域にわたって関係する基礎的な学問である。この基礎演習では、憲法（およびその他様々な法律）の法学的研究に進む前に学ばなければならない近現代の思想や歴史、経済・社会構造などを、（現日本国を含む近代憲法の諸条項を参照しながら）研究する。もちろん演習では、大学でのアカデミック・ガイダンスも随時行う予定である。

#### 【講義計画】

- 第1回 演習のためのガイダンス
- 第2回 演習の運営について
- 第3回 なぜ憲法を学ぶか
- 第4回 日本国憲法の現状
- 第5回 憲法とは何か
- 第6回 議会と憲法1
- 第7回 議会と憲法2
- 第8回 民主主義思想の成立1
- 第9回 民主主義思想の成立2
- 第10回 民主主義思想と資本主義1
- 第11回 民主主義思想と資本主義2
- 第12回 ホブズとロックの思想1
- 第13回 ホブズとロックの思想2
- 第14回 民主主義のルール1
- 第15回 民主主義のルール2
- 第16回 民主主義と共和制1
- 第17回 民主主義と共和制2
- 第18回 「平和憲法」の意味1
- 第19回 「平和憲法」の意味2
- 第20回 民主主義憲法体制と経済1
- 第21回 民主主義憲法体制と経済2
- 第22回 日本における憲法の歴史的研究1
- 第23回 日本における憲法の歴史的研究2
- 第24回 現代日本の憲法と政治体制1
- 第25回 現代日本の憲法と政治体制2
- 第26回 国際社会の現状と日本憲法1
- 第27回 国際社会の現状と日本憲法2
- 第28回 キャリアセンター ガイド

#### 【成績評価の方法】

レポート 30% 出席 30%  
演習における積極的な発言・演習参加の日常的な勉学態度に40%、レポートに30%、出席状況に30%を、総合的な成績として評価する。

#### 【教科書】

小室直樹 痛快!憲法学 集英社

#### 【参考文献】

演習の中で、随時指示する。

科目名 クラス 講義区分	
基礎演習 12 <通期>	
吉見研次	4単位

### 【講義概要】

この授業では、法律学の学修を進める際の文献・判例等の検索収集、学修成果をまとめるレポートの執筆、口頭での報告等を実際に体験する中で、法学部生に不可欠な種々の学修能力・技術（特に法律学学修のノウハウ）を体得してもらうつもりである。春学期は毎時間、配付資料を学生諸君に分担して紹介報告してもらう予定である。作文・小論文の書き方を指導した上で実際に書く作業を課すこともある。法律関係の各種資格試験の紹介や全般的な履修指導も行う。夏休み中および秋以降の課題として、各自が関心のある問題につき文献・資料を読んだ上でレポートを書いてもらうこととする。秋学期には毎回、数名の学生が各自のレポートの概要を口頭発表する機会を設ける。それを元に最終的にレポートを完成してもらうことになる。

### 【学習目標】

- ①法律学学修の各種教材等の利用法を身につける。
- ②法律学の専門的な文献、判例の検索法を身につける。
- ③レジュメを作成した上での口頭報告を体験する。
- ④レポートの書き方を学習し、レポートを執筆する。
- ⑤法律関係の各種資格試験の概要を理解する。

### 【講義計画】

- 第1回 法学部のカリキュラム、自己紹介、各種資格試験案内〔宅地建物取引主任〕
- 第2回 『六法』と法律の条文、レジュメの作り方、試験案内〔行政書士〕
- 第3回 分担報告、判例教材、文の書き方〔短文化①〕、試験案内〔司法書士〕
- 第4回 分担報告、法律学辞典、文の書き方〔短文化②〕、試験案内〔裁判所事務官〕
- 第5回 分担報告、演習書等、文の書き方〔主述対応〕、試験案内〔地方公務員〕
- 第6回 分担報告、注釈書等、文の書き方〔多義文①〕、試験案内〔国家公務員Ⅱ種〕
- 第7回 図書館オリエンテーション（予定）
- 第8回 分担報告、判例集、文の書き方〔多義文②〕、試験案内〔国家公務員Ⅰ種〕
- 第9回 分担報告、判例検索、段落（1）、試験案内〔新司法試験〕
- 第10回 分担報告、法令検索、段落（2）、試験案内〔法科大学院〕
- 第11回 キャリア・ガイダンス（予定）
- 第12回 分担報告、法律学文献検索、小論文の構成、試験案内〔法学検定4級〕
- 第13回 分担報告、文献引用、レポートのテーマ、試験案内〔法学検定3・2級〕
- 第14回 分担報告、出典表記、読書メモ、試験案内〔ビジネス実務法務検定〕
- 第15回 復習
- 第16回 各自レポートのテーマ・文献等の紹介、レポートの構成（1）
- 第17回 判決文を読む（1）、レポートの構成（2）
- 第18回 判決文を読む（2）、報告準備
- 第19回 報告、報告に対するコメント
- 第20回 報告、報告に対するコメント
- 第21回 報告、報告に対するコメント
- 第22回 報告、報告に対するコメント
- 第23回 報告、報告に対するコメント
- 第24回 報告、報告に対するコメント
- 第25回 報告、報告に対するコメント
- 第26回 報告、報告に対するコメント
- 第27回 報告、報告に対するコメント
- 第28回 報告、報告に対するコメント
- 第29回 全体の講評、次年度以降の法学部学修案内等
- 第30回 復習

### 【成績評価の方法】

レポート 50% 出席 50%

レポートの評価に際しては、最終レポートの内容だけでなく、口頭報告の内容等（レジュメを含む）も対象とする。また、出席の評価には、毎回の受講態度や各種作業の達成度の評価も含まれる。

### 【参考文献】

弥永真生『法律学習マニュアル〔第2版補訂版〕』（有斐閣）

科目名 クラス 講義区分	
基礎演習 14 <通期>	
早川 のぞみ	4単位

### 【講義概要】

この演習では、これから皆さんが法学を学んでいく上での学習上の手引きとなるように、法学の勉強の仕方について解説します。具体的には、文献検索の方法、判例・論文の読み方、法学のレポート・小論文の書き方と作法などについて説明します。学習生活を円滑に進められるようにサポートをしていきます。

また、学習成果をまとめてレポートを執筆する作業を実際に体験します。テーマの設定、資料収集、口頭報告準備とレジュメの作成、さらに討論を経て、最終的には簡単なレポートを執筆します。

この演習では、「裁判官の法的思考」というテーマの下で、考察を進めます。裁判官が法を解釈し、法の欠けを補充し、場合によっては制定法の誤謬を訂正する際に、どのような法的思考がとられるのかについて、議論の錯綜する具体的判例、法解釈方法に関する論争、法と裁判の関係に関する諸見解などを手掛かりに、考えていきます。全体テーマについては、初回の授業の中で、説明します。秋学期には、この全体テーマのもとで、個別テーマを一つ選び、口頭で発表を行い、演習の最後にレポートとしてまとめて提出してもらいます。

### 【学習目標】

この演習では、法学の学習法と、口頭発表・レポート執筆の作法を身につけることを目標とします。また、判決の読解や法解釈に関する議論の通読などを通して、法律学的な思考に慣れることも目指されます。

### 【講義計画】

- 第1回 ガイダンス
- 第2回 リーガル・リサーチ（1）－文献検索の方法
- 第3回 リーガル・リサーチ（2）－文献検索の方法
- 第4回 レポート・論文の作成法（1）－口頭報告の準備・レジュメの作り方
- 第5回 レポート・論文の作成法（2）－レポート・論文の書き方と作法
- 第6回 法学資料の読み方（1）－法令の読み方
- 第7回 法学資料の読み方（2）－判例の読み方
- 第8回 法と裁判（1）－法の解釈・適用
- 第9回 法と裁判（2）－裁判所の仕組み
- 第10回 判例を読む（1）－全員による輪読
- 第11回 判例を読む（2）－全員による輪読
- 第12回 学術論文を読む（1）－全員による輪読
- 第13回 学術論文を読む（2）－全員による輪読
- 第14回 学術論文を読む（3）－全員による輪読
- 第15回 小括
- 第16回 報告事前打ち合わせ（1）
- 第17回 報告事前打ち合わせ（2）
- 第18回 報告事前打ち合わせ（3）
- 第19回 個別報告・討論（1）
- 第20回 個別報告・討論（2）
- 第21回 個別報告・討論（3）
- 第22回 個別報告・討論（4）
- 第23回 個別報告・討論（5）
- 第24回 個別報告・討論（6）
- 第25回 個別報告・討論（7）
- 第26回 個別報告・討論（8）
- 第27回 個別報告・討論（9）
- 第28回 総括

### 【成績評価の方法】

出席、報告・討論、および、レポートをもとに総合的に評価します。

### 【教科書】

講義には、必ず小型の六法を持参してください。（出来れば最新版が望ましい。出版社は問いません。）

授業進度に合わせて、資料を配布します。

### 【参考文献】

適宜、紹介します。

### 【備考】

講義には、必ず小型の六法を持参してください。（出来れば最新版が望ましい。出版社は問いません。）

授業進度に合わせて、資料を配布します。

科目名 クラス 講義区分	
基礎演習 01 <秋>	
野原 康弘	2単位

**【講義概要】**

1年生の「大学生生活入門セミナー」では大学に慣れることを目的としながら、“読む・聞く・書く・話す”の基礎的な勉強をしました。

この「基礎演習」では、より専門性の高い題材をもとに、“読む・聞く・書く・話す”を勉強します。特に、“書く・話す”，すなわちプレゼンテーションに重点を置きます。自分の考えを相手にわかりやすく伝えることは、社会に出てからも大変重要な能力です。繰り返し、練習しましょう。

**【学習目標】**

1. 要約を書く
2. 自分の考えをわかりやすく話す

\*全回出席を原則とする

**【講義計画】**

- 第1回 (第1回でさらに詳しい説明があります)  
授業の概略説明と自己紹介  
\*授業順序を入れ替える場合があります。
- 第2回 読んで理解し、要約を書く(1)
- 第3回 読んで理解し、要約を書く(2)
- 第4回 読んで理解し、要約を書く(3)
- 第5回 聞いてメモを取り、要約を書く(1)
- 第6回 聞いてメモを取り、要約を書く(2)
- 第7回 聞いてメモを取り、要約を書く(3)
- 第8回 プレゼンテーションの作成
- 第9回 プレゼンテーションの練習(1)
- 第10回 プレゼンテーションの練習(2)
- 第11回 わかりやすく表現する(1)
- 第12回 わかりやすく表現する(2)
- 第13回 わかりやすく表現する(3)
- 第14回 「演習」への取り組み方と全体のまとめ

**【成績評価の方法】**

小テスト  
レポートなどの提出とその内容  
授業中の態度など  
\*無断欠席4回以上は単位認定対象外になります。  
\*TOEICの受験が成績評価に反映されることがあります。

**【備考】**

<留学生>対象

科目名 クラス 講義区分			
基礎演習 02 <秋>		井井	敏
基礎演習 03 <秋>		上上	敏
基礎演習 04 <秋>		岡岡	之
基礎演習 05 <秋>		合合	之
基礎演習 06 <秋>		夫夫	治
基礎演習 07 <秋>		信信	佳
基礎演習 08 <秋>		千千	佳
基礎演習 09 <秋>		佳佳	子
基礎演習 10 <秋>		子子	三
基礎演習 11 <秋>		雄雄	之
基礎演習 12 <秋>		介介	之
基礎演習 13 <秋>		清清	介
基礎演習 14 <秋>		順順	造
基礎演習 15 <秋>		芳芳	亨
基礎演習 16 <秋>		上上	一
基礎演習 17 <秋>		木木	郎
基礎演習 18 <秋>		鈴鈴	多
2単位			

**【講義概要】**

1年生の「大学生生活入門セミナー」では大学に慣れることを目的としながら、“読む・聞く・書く・話す”の基礎的な勉強をしました。

この「基礎演習」では、より専門性の高い題材をもとに、“読む・聞く・書く・話す”を勉強します。特に、“書く・話す”，すなわちプレゼンテーションに重点を置きます。自分の考えを相手にわかりやすく伝えることは、社会に出てからも大変重要な能力です。繰り返し、練習しましょう。

**【学習目標】**

1. 要約を書く
2. 自分の考えをわかりやすく話す

**【講義計画】**

- 第1回 授業の概略説明と自己紹介  
\*授業順序は予定であり、入れ替わる場合があります。
- 第2回 読んで理解し、要約を書く(1)
- 第3回 読んで理解し、要約を書く(2)
- 第4回 読んで理解し、要約を書く(3)
- 第5回 聞いてメモを取り、要約を書く(1)
- 第6回 聞いてメモを取り、要約を書く(2)
- 第7回 聞いてメモを取り、要約を書く(3)
- 第8回 プレゼンテーションの仕方について (ビデオ等)
- 第9回 わかりやすく表現する(1)
- 第10回 わかりやすく表現する(2)
- 第11回 わかりやすく表現する(3)
- 第12回 3年生からの「演習」への取り組み方
- 第13回 基礎学力テスト
- 第14回 キャリア支援講義

**【成績評価の方法】**

レポートなどの提出とその内容、授業中の態度など  
\*無断欠席4回以上は、単位認定対象外となります。  
\*TOEICの受験が成績評価に反映されることがあります。

**【参考文献】**

適宜指示する

**【備考】**

\*全回出席を原則とする

科目名 クラス 講義区分	
キャリア教育科目－起業家育成入門 <春>	
今 木 秀 和	2 単位

#### 【講義概要】

日本経済が成熟して、行き詰まり感が出ている。世界的な金融不安が実体経済に深刻な影響を与える可能性をはらんでいる。このような状況においては、むしろ逆に物事を前向きに考えて行くことを心掛けるべきなのである。

経済を活性化する大事なポイントは、新規に開業してビジネスを起こそうとする人ができるだけ多く輩出することである。チャレンジすることによって道を切り開こうとする若者に期待するところ大である。

このような期待を若者に訴えるのがこの半期の講義なのである。外部のゲスト講師を三人予定している。講師の都合で授業計画の日程の予定を変更することがある。

#### 【学習目標】

起業家育成入門と銘打っている以上、「起業・起業家」について理解をすることがまず目標である。そして「起業家」を育成しようとの目論見を持っているので、皆さんに「起業」のビジネスプランをフレッシュな感覚で立ててもらおうのが、次の目標である。知識を実践に結びつけることが大事である。そのような狙いを広言してこの講義をやっていく。

#### 【講義計画】

- 第1回 起業家とベンチャー企業
- 第2回 ベンチャー企業とは何か
- 第3回 和泉市における企業家支援策（和泉市長）
- 第4回 起業のプロセスと成長戦略
- 第5回 ベンチャー企業の経営戦略
- 第6回 ベンチャー企業の組織
- 第7回 ベンチャービジネスの資金調達
- 第8回 ベンチャー企業の上場とコーポレート・ガバナンス
- 第9回 ベンチャーキャピタルの役割
- 第10回 ベンチャー企業のマーケティング戦略
- 第11回 起業家の育成
- 第12回 インキュベーション
- 第13回 会社設立と起業の実践
- 第14回 地元の企業経営者による起業と経営の体験談
- 第15回 アメリカにおける起業家精神

#### 【成績評価の方法】

起業・起業家についての知識を試験で判定します。この講義が「起業家育成入門」である以上、実際に「起業」すると仮定してビジネス・プランを作成し、レポートに纏めてもらいます。

出席を毎回とるので、試験、レポート、出席状況を総合的に判断して成績をつける。

#### 【参考文献】

適宜指示する。

#### 【備考】

<04～07生>は読替一覧参照の事。

科目名 クラス 講義区分			
キャリア教育科目－キャリアデザイン I			
野口由輝子	01 <通期>	4 単位	
前川明	02 <通期>		
野口由輝子	03 <通期>		
野口由輝子	04 <通期>		
中山一 郎	05 <通期>		
中山一 郎	06 <通期>		

#### 【講義概要】

キャリアデザイン I では、社会人生活の前哨戦でもある大学生活を、受講生一人ひとりが充実したものにしていき、将来なりたい自分に近づくためのきっかけ作りを進めていきます。春学期は大学生活になれること、自分を知ること、また夏休みのフィールドワーク（働く社会人へのキャリアインタビュー）を実施するにあたり、社会人としての心構えを習得していきます。秋学期は、夏休みのフィールドワークの報告会を実施し、社会で必要となる力のうち、特に大学生の課題である、「情報収集力」を重点的に習得していきます。

#### 【学習目標】

夏休みのフィールドワークやグループディスカッション等を通じて、学生生活を具体的に充実させるための手法を学び、主体的に考え抜き、現実的に行動していけることを目指します。同時に、キャリアデザインに必要な知識の習得とスキル開発を実施していきます。

#### 【講義計画】

- 第1回 キャリアデザインとは
- 第2回 大学生になる心構え
- 第3回 大学生になる基礎知識
- 第4回 大学生のルール
- 第5回 大学での学びとは
- 第6回 学びの方法を知る
- 第7回 自分を知る（自己発見レポートの結果を活用）
- 第8回 学びと社会（自己発見レポートの結果を活用）
- 第9回 将来を考える（自己発見レポートの結果を活用）
- 第10回 夏休みのフィールドワークについて①
- 第11回 夏休みのフィールドワークについて②
- 第12回 夏休みのフィールドワークについて③
- 第13回 夏休みのフィールドワークについて④
- 第14回 まとめ
- 第15回 モチベーションアップと夏休みまでの振り返り
- 第16回 フィールドワークの報告会①
- 第17回 フィールドワークの報告会②
- 第18回 働くとは？
- 第19回 社会で求められる力を身につける①
- 第20回 社会で求められる力を身につける②
- 第21回 学びと社会のつながりを考える
- 第22回 先輩からのお話（予定）
- 第23回 将来の自分をイメージする
- 第24回 自己プログレスレポート
- 第25回 プレゼンテーションのコツ
- 第26回 プレゼンテーション①
- 第27回 プレゼンテーション②
- 第28回 総まとめ・目標立案（自己プログレスレポートの結果を活用）

#### 【成績評価の方法】

出席率・講義への参加度・レポート等による総合評価で判断します。特に夏休みのフィールドワークの参加は評価において大きなウェイトを占めます。

#### 【教科書】

㈱ベネッセコーポレーション マイキャリアノートナビゲーション  
ベネッセコーポレーション

#### 【参考文献】

講義中に適宜指示します

#### 【備考】

自己発見レポート（入学時に実施するアセスメント）  
必要に応じてプリント配布  
<08～09生>のみ履修可

科目名 クラス 講義区分			
キャリア教育科目－キャリアデザインⅡ			
中野前	山一郎	01<通期> 02<通期> 03<通期> 04<通期>	4単位

**【講義概要】**

春学期では、夏休みのフィールドワーク（企業訪問）に向け、より実践的に、社会との接点を意識した取組を行います。また秋学期では、3年生の秋からスタートする本格的な就職活動に向けて、自分を知り、社会を知り、社会で求められる基本的スキルを学び、自分に合った進路や就職の選択ができるよう、準備をしていきます。インターンシップに参加希望の方は、働くことの意義を知り、社会で求められる基本的スキルを身につけることにより、さらに充実した活動を行うことができますので、受講することをおすすめします。

**【学習目標】**

キャリアデザインⅡでは、フィールドワーク（企業訪問）や、グループディスカッション、プレゼンテーション、企業が求める人材を知ることにより、「社会で求められる基本的スキル（情報収集力、思考力、遂行力、コミュニケーション力）」を身につけていきます。表面的な就職活動のハウツーを伝授するものではなく、社会で本当に必要とされる力を学び、大学生活を通じてこれらの力を獲得していきます。

**【講義計画】**

- 第1回 キャリアデザインⅡとは
- 第2回 自分について考えよう（振り返り）
- 第3回 社会で生きる
- 第4回 社会で求める人材
- 第5回 会社・組織研究
- 第6回 企業研究
- 第7回 ビジネスマナー基本
- 第8回 ビジネスマナー応用
- 第9回 社会人の心構え
- 第10回 夏休みのフィールドワークについて①
- 第11回 夏休みのフィールドワークについて②
- 第12回 夏休みのフィールドワークについて③
- 第13回 夏休みのフィールドワークについて④
- 第14回 夏休みのフィールドワークについて（まとめ）
- 第15回 モチベーションアップと夏休みまでの振り返り
- 第16回 フィールドワークの報告会①
- 第17回 フィールドワークの報告会②
- 第18回 成長度の確認（自己発見レポート・自己プロGRESSレポートを活用）
- 第19回 就職活動を意識した4つの力と3つの行動
- 第20回 思考力を身につける
- 第21回 情報収集力を身につける
- 第22回 遂行力を身につける
- 第23回 コミュニケーション力を身につける
- 第24回 自分軸・将来像を考える（自己発見レポート・自己プロGRESSレポートの結果を活用）
- 第25回 インターンシップについて①
- 第26回 インターンシップについて②
- 第27回 働く社会人からの学び（予定）
- 第28回 大学生活の取り組みを見直す（自己発見レポート・自己プロGRESSレポートの結果を活用）

**【成績評価の方法】**

出席率・講義への参加度・レポート等による総合評価で判断します。特に夏休みのフィールドワークの参加は評価において大きなウェイトを占めます。

**【教科書】**

㈱ベネッセコーポレーション マイキャリアノートⅠ ベネッセコーポレーション

**【参考文献】**

講義中に適宜指示します

**【備考】**

自己プロGRESSレポート（講義内で実施するアセスメント）  
必要に応じてプリント配布  
<08生>のみ履修可

科目名 クラス 講義区分	
キャリア教育科目－業界・職種研究入門 01<春>	
巖 圭介	2単位

**【講義概要】**

本講義は、業界（業種）・職種に関する生きた情報を提供し、学生諸君による業界・職種選択の手助けをすることを目的としている。講義は、各業界の現役の企業人によって行われるので、業界・職種に関する文字通りリアルな情報が提供されることになる。卒業後、ビジネス社会に進路を求めようと考えている学生諸君の積極的な受講を勧める。なお、本講義を受講する学生は、あわせて「職業を考える」や「インターンシップ」といったキャリア教育科目を履修することが望ましい。

なお、2008年度の実績は次の通りである。メーカー（輸送機械器具製造業）、商社（機械器具卸売業）、情報通信（電気通信事業）、マスコミ（新聞）、商社（アパレル）、運輸通信（旅行）、流通（百貨店）、小売（家庭用電気器具小売業）、金融（証券）、金融（銀行）、マスコミ（広告）。

2009年度については、講師などの都合により変更する場合があります。

**【学習目標】**

自らのキャリアデザインを作成するために必要な、業界（業種）・職種に関する生きた知識を吸収すること、および、講義で紹介されるもの以外の情報についても、自分自身で調査・研究する方法について学習すること。

**【講義計画】**

- 第1回 ガイダンス
- 第2回 業界（業種）と職種について考える（概論）
- 第3回 業界（業種）と職種1
- 第4回 業界（業種）と職種2
- 第5回 業界（業種）と職種3
- 第6回 業界（業種）と職種4
- 第7回 業界（業種）と職種5
- 第8回 業界（業種）と職種6
- 第9回 業界（業種）と職種7
- 第10回 業界（業種）と職種8
- 第11回 業界（業種）と職種9
- 第12回 業界（業種）と職種10
- 第13回 業界（業種）と職種11
- 第14回 まとめ、復習
- 第15回 試験

**【成績評価の方法】**

試験 40% レポート 40% 出席 20%  
毎回、講義ノートをきちんと整理して、レポートとして提出してもらう。

**【備考】**

<08生>のみ履修可  
インテグレーション科目

科目名 クラス 講義区分	
キャリア教育科目－業界・職種研究入門 02 <秋>	
木村二郎	2単位

**【講義概要】**

本講義は、業界（業種）・職種に関する生きた情報を提供し、学生諸君による業界（業種）・職種選択の手助けをすることを目的にしている。講義は、各業界の現役の企業人によって行われるので、業界・職種に関する文字通りリアルな情報が提供されることになる。卒業後、ビジネス社会に進路を求めようと考えている学生諸君の積極的な受講を勧める。なお、本講義を受講する学生は、併せて「職業を考える」や「インターンシップ」といったキャリア教育科目を履修することが望ましい。

なお、2008年度の実績は次の通りである。メーカー（輸送機械器具製造業）、商社（機械器具卸売業）、情報通信（電気通信事業）、マスコミ（新聞）、商社（アパレル）、運輸通信（旅行）、流通（百貨店）、小売（家庭用電気器具小売業）、金融（証券）、金融（銀行）、マスコミ（広告）。2009年度については、講師などの都合により、変更する場合がある。

**【学習目標】**

自らのキャリアデザインを作成するために必要な業界（業種）・職種に関する生きた知識を吸収すること、および、講義で紹介されるもの以外の情報についても、自分自身で調査・研究する方法について学習すること。

**【講義計画】**

- 第1回 講義ガイダンス
- 第2回 業界（業種）と職種について考える（概論）
- 第3回 業界（業種）と職種①
- 第4回 業界（業種）と職種②
- 第5回 業界（業種）と職種③
- 第6回 業界（業種）と職種④
- 第7回 業界（業種）と職種⑤
- 第8回 業界（業種）と職種⑥
- 第9回 業界（業種）と職種⑦
- 第10回 業界（業種）と職種⑧
- 第11回 業界（業種）と職種⑨
- 第12回 業界（業種）と職種⑩
- 第13回 業界（業種）と職種⑪
- 第14回 まとめ

**【成績評価の方法】**

試験 40% レポート 40% 出席 20%  
 毎回、講義ノートをきちんと整理して、レポートとして提出してもらう。

**【備考】**

<09生>のみ履修可  
 インテグレーション科目

科目名 クラス 講義区分	
キャリア教育科目－職業を考える <秋>	
正亀芳造	2単位

**【講義概要】**

皆さんは卒業後の就職のことを考えていますか。しっかりとした目標を持っている人、よくわからないけれどそろそろ考えないといけないと思っている人、大学生活が楽しくて就職なんて考えられない人、悩んで迷っている人、いろいろな状況の人がいると思います。しかし、ほとんどの人の場合、卒業・就職後の時間の多くは働くということに関わってきます。すなわち「職業を考える」ことは、これからの生き方を考えることにつながるということです。

本講義では、本学の卒業生を含めて、いくつかの業界の現役の職業人の方に講師として来ていただき、業界の現状、企業組織の特徴、仕事の内容の独自性など、さまざまな体験を講義していただきます。

**【学習目標】**

働くことの意味やその実態について学び、自分自身のライフプランやキャリアプランを考えてもらうこと、それが本講義の学習目標です。

**【講義計画】**

- 第1回 1. オリエンテーション  
 授業の進め方を説明するとともに、授業を効果的に進めるために受講生が守らなければならないルールを説明します。
- 2. 各業界の講義  
 公務員、製菓、電機、製菓、住宅、教育、保険、金融、旅行など 上記は2008年度の実績です。2009年度は講師の都合により変更する場合があります。
- 3. 全体のまとめ  
 講義を通して、どのようなことを理解し、どのようなことを考えるようになったか、ということをもとめます。

**【成績評価の方法】**

出席、レポート、期末試験の成績を総合して評価する。

**【参考文献】**

必要に応じて指示する。

**【備考】**

<08生>のみ履修可  
 インテグレーション科目

科目名 クラス 講義区分	
キャリア教育科目-生活設計 01 <春>	キャリア教育科目-生活設計 02 <秋>
松下直子	2単位

科目名 クラス 講義区分	
キャリア教育科目-働くことと法知識 01 <春>	キャリア教育科目-働くことと法知識 02 <秋>
平井信夫	2単位

**【講義概要】**

- ・さまざまな環境変化の中、ビジネス社会においても、組織側から社員への「押し着せの能力開発」の時代から、「自己責任と自律のキャリア開発」を個々人が意識することが必要になっていきました。
- ・職業人となってから、私たちが自身の生活設計を具現化するために、必要な力、とはなんのでしょうか。専門知識だけでは、ビジネス社会を渡っていけないものではありません。職業人となってからは、大学で学んだ知識に加え、生活や仕事に不可欠な各種スキルや知識、智恵を、各自で習得していかねばなりません。自らが意識的、意欲的にスキルを吸収し続ける努力が必要です。仕事を中心とした自身の人生を、自らが自立・自律して描くために、学生のうちから「育つ」意識と行動を持つことが非常に重要な重要になってきています。
- ・学生諸君が社会に巣立った後、「自分の人生を自分らしく、自分で選択して生きる」ために必要な様々な知識やスキル、考え方を、演習型式も取り入れながら楽しく分かりやすく学びます。

**【学習目標】**

- ・ビジネス社会が抱える課題や、そこで働く職業人の喜怒哀楽を知り、学生から職業人になる心の準備を行ないます。
- ・ビジネス社会がどのように成り立っているのか、組織はどのようにして限られた経営資源から付加価値を生み出しているのか、職業人に必要な職務遂行能力とは何か。だからこそ、どのような人材を求め、輩出しようとしているのか、を考察します。
- ・公私共に充実した豊かな人生を主体的に創るために必要な考え方や知識、智恵とは何か。大学卒業後の自身の人生を、より具体的に前向きに検討するきっかけを提供します。

**【講義計画】**

- 第1回 オリエンテーション／生活と仕事の関連・調和
- 第2回 自己認識と自己受容／私のタイプ、価値観を知る
- 第3回 職業人に必要なスキルを知る①／業務遂行能力、スキルとは何か
- 第4回 職業人に必要なスキルを知る②／対人力を向上させる
- 第5回 職業人に必要なスキルを知る③／思考力を向上させる
- 第6回 職業人に必要なスキルを知る④／組織力を向上させる
- 第7回 組織の人事ルールを知る／労働法と組織倫理
- 第8回 組織の人事システムを知る①／給与とその仕組み
- 第9回 組織の人事システムを知る②／評価制度と育成制
- 第10回 行政の社会保障施策を知る①／労働保険（労災保険、雇用保険）
- 第11回 行政の社会保障施策を知る②／社会保険（年金、健康保険）と私的保険
- 第12回 行政の税制施策を知る／租税（所得税、住民税、法人税）と徴収の仕組み
- 第13回 生活設計と経済プラン／人生に必要な収入と支出
- 第14回 まとめ／事例研究：先進企業における職業人のキャリアデザイン
- 第15回 修了試験

**【成績評価の方法】**

- 試験 50% レポート 0% 出席 50%
- ・出席（受身ではなく、積極的な参加を大いに期待します）
  - ・日々の受講態度
  - ・最終講義日における試験
- などを総合的に判断して決定します。

**【参考文献】**

- ・[実践] 社員教育推進マニュアル／松下直子、茅切伸明（共著）PHP研究所

**【備考】**

- <07～09生>のみ履修可
- <07生>は読替一覧参照の事。

**【講義概要】**

テキストとして「雇用社会の25の疑問」（大内伸哉 著）を使用し、労働関係にまつわる問題点を指摘しつつ、法的な思考力を身につけられるように講義を進める。（第2話、5話、11話、12話、14話、19話、22話は割愛する。）

**【学習目標】**

法的な思考力とは、一方の立場と他方の立場でのさまざまな問題点を把握しながら、どこに着地点を取るとバランスが取れるのかを察する思考力を言う。  
労働という身近な問題を例にとりながら、社会生活一般に通用するような法的センスを体得してもらえれば、目標が達成できる。いわば法学入門的な講義と考えている。

**【講義計画】**

- 第1回 憲法から始まる全体的な法体系を説明したうえで、労働関係の法律の位置づけを説明する。
- 第2回 テキスト 第13話に関する講義
- 第3回 同 第24話に関する講義
- 第4回 同 第20話、6話に関する講義
- 第5回 同 第21話に関する講義
- 第6回 同 第1話に関する講義
- 第7回 同 第3話に関する講義、レポート要求
- 第8回 同 第7話、4話に関する講義、レポート回収
- 第9回 レポート返却、解説
- 第10回 同 第8話、23話に関する講義
- 第11回 同 第18話、10話に関する講義
- 第12回 同 第9話に関する講義
- 第13回 同 第17話、15話に関する講義
- 第14回 同 第16話、25話に関する講義

**【成績評価の方法】**

試験 80% レポート 20%  
授業中に話した内容が、答案に反映されていれば、高く評価する予定。

**【教科書】**

大内伸哉 雇用社会の25の疑問 （労働法再入門）弘文堂

**【備考】**

- <07～09生>のみ履修可
- <07生>は読替一覧参照の事。

科目名 クラス 講義区分	
キャリア教育科目－PP（パワーアッププラクティス）講座 ＜秋＞	
木村二郎	2単位

### 【講義概要】

この講義は、社会で力強く生きていくために必要な人間基礎力の育成を目標に、キャリアデザインをするのに不可欠な「思考リテラシー」という能力の獲得を目指している。ここでいう「思考リテラシー」とは、課題を発見・分析し、解決する能力のことである。企業などの講師から、企業理念や過去の経営課題とその解決策をもとに提示されたミッションについて、「企画書」という形で解決を試み、その解決策が企業現場においてどの程度有効なのかを考察し、検討する過程を通して「思考リテラシー」を獲得する。本講義を通じて社会的関心を高めつつ、社会にある多くの問題を課題として把握することができる能力を養うことを目指す。

注記：本講義は、平成20年度の文部科学省「戦略的大学連携支援事業」に採択された「実践力のある地域人材の輩出」プログラム[桃山学院大学（代表校）・大阪府立大学・大阪大谷大学・帝塚山学院大学・羽衣国際大学・ブール学院大学]におけるキャリア教育科目「PP（パワーアッププラクティス）講座」として実施される。受講者には、授業効果測定のためのアンケートにも何回か協力していただく。

### 【学習目標】

本講義において重要な位置を占めるグループごとのワークショップなどを通じて、「思考リテラシー」を獲得することを目指すのであるが、具体的に獲得できる能力としては、課題発見・解決力、論理的思考力、情報収集・活用力、企画力、プレゼンテーション力などがあげられる。

### 【講義計画】

- 第1回 講義ガイダンス：授業内容説明、リーダーおよびチームづくり。
- 第2回 第1ミッション：①企業の講師から企業活動で重要視している点、企業理念、職場で実際に見られた経営課題と解決までの道筋の説明後、ミッションの提示。②ミッションについて「徹底分析」作業。③課題解決の切り口発表。
- 第3回 ①企画書づくり。②企画書中間発表1。③論拠づくり検討（宿題：論拠となるデータ収集）。
- 第4回 ①企画書ブラッシュアップ。②Power Point作成。③企画書中間発表2。
- 第5回 ①企画書ブラッシュアップ。②企画書審査会（企業人による審査）。③振り返り。
- 第6回 第2ミッション：①企業の講師から企業活動で重要視している点、企業理念、職場で実際に見られた経営課題と解決までの道筋の説明後、ミッションの提示。②ミッションについて「徹底分析」作業。③課題解決の切り口発表。
- 第7回 ①企画書づくり。②企画書中間発表1。③論拠づくり検討（宿題：論拠となるデータ収集）。
- 第8回 ①企画書ブラッシュアップ。②Power Point作成。③企画書中間発表2。
- 第9回 ①企画書ブラッシュアップ。②企画書審査会（企業人による審査）。③振り返り。
- 第10回 第3ミッション：①企業の講師から企業活動で重要視している点、企業理念、職場で実際に見られた経営課題と解決までの道筋の説明後、ミッションの提示。②ミッションについて「徹底分析」作業。③課題解決の切り口発表。
- 第11回 ①企画書づくり。②企画書中間発表1。③論拠づくり検討（宿題：論拠となるデータ収集）。
- 第12回 ①企画書ブラッシュアップ。②Power Point作成。③企画書中間発表2。
- 第13回 ①企画書ブラッシュアップ。②企画書審査会（企業人による審査）。③振り返り。
- 第14回 振り返り。
- 第15回 まとめ。

### 【成績評価の方法】

- (1)と(14)に実施する学習の事前・事後における授業効果測定（能力測定）による評価。  
 毎回講義後に実施する授業参加姿勢調査による評価。  
 毎回講義後に実施する講義内容定着化のために項目ごとの気づきを書かせるが、気づき内容による評価。  
 3回のミッションの企画提案の成果物による評価。

### 【備考】

<08～09生>のみ履修可

科目名 クラス 講義区分	
教育学概論 01＜春＞	
竹中暉雄	2単位

### 【講義概要】

教育について考えるには、人間について考える必要がある。なぜ人間だけ長期にわたる教育が必要なのか、そしてまたなぜそのことが可能なのか。その次に出てくるのは「ではどのような人間をつくるのか」という教育理念の問題である。教育の理念は時代とともに、社会とともに変化する。ルネッサンス以降における代表的な教育論者の見解について概観していくが、その際においても重要なことは、それらの諸見解と時代背景との関係である。教育の理念を実現するためには、それに相応しい教育課程が必要であり、教育課程は教育理念の違いに応じて異なってくる。「学習指導要領」の変遷の裏にも、教育理念の変化が存在している。

### 【学習目標】

教育の本質：なぜ人間だけに教育が必要であり、また可能であるのか、なぜ人間だけに生涯学習が必要であり、また可能なのか、その理由を論理的に説明できるようになること。  
 教育理念の歴史：「合自然」という近代教育思想の原理が生まれてきた理由、「合自然」に反対する教育思想が生まれてきた理由、「合自然」「反合自然」の双方を批判する教育思想の根拠を論理的に説明できるようになること。  
 教育課程の意義・編成：教育理念の実現方法としての教育課程の意義、教育理念と教育課程との間の相即関係について理解し、かつ日本の「学習指導要領」に反映されてきた教育理念について説明できるようになること。  
 教育学における教育理念とは異なる教育理念について説明できるようになること。

### 【講義計画】

- 第1回 教育の一般的定義と教育の困難性
- 第2回 人間の教育必要性と教育可能性
- 第3回 人間の想像性・創造性
- 第4回 遺伝×環境×？
- 第5回 生涯学習の可能性と必要性
- 第6回 教育上の人間関係
- 第7回 近代教育の原理「合自然」
- 第8回 ルソーによる「子どもの発見」
- 第9回 「合自然」の流れと反「合自然」
- 第10回 児童中心主義とデュイイ教育学
- 第11回 連続の教育と非連続の教育
- 第12回 教育理念の実現方法としての教育課程
- 第13回 教育課程の編成方法と「学習指導要領」
- 第14回 「権力作用」としての教育
- 第15回 試験

### 【成績評価の方法】

試験 100%  
 論述試験。講義の前半、後半からそれぞれ2問出題、それぞれから1問、計2問選択。設問に対応した内容になっているかどうか、論理的に説明できているかどうかという観点から評価する。

### 【参考文献】

竹中・中山・宮野・徳永『時代と向き合う教育学』（改訂版）ナカニシヤ出版、2003年

### 【備考】

質問や意見は、E-mail (takenaka@andrew.ac.jp)、オフィス・アワーなどで受け付ける。  
 なお毎回、参考書に対応したレジュメを配布するので、聴講しながらそれを補完すること。但し特段の理由のない遅刻者には、授業終了まで配布しない。



科目名	クラス	講義区分
教育学概論 02 <秋>		
竹中 暉雄	2単位	

#### 【講義概要】

教育について考えるには、人間について考える必要がある。なぜ人間だけ長期にわたる教育が必要なのか、そしてまたなぜそのことが可能なのか。その次に出てくるのは「ではどのような人間をつくるのか」という教育理念の問題である。教育の理念は時代とともに、社会とともに変化する。ルネッサンス以降における代表的な教育論者の見解について概観していくが、その際においても重要なことは、それらの諸見解と時代背景との関係である。教育の理念を実現するためには、それに相応しい教育課程が必要であり、教育課程は教育理念の違いに応じて異なってくる。「学習指導要領」の変遷の裏にも、教育理念の変化が存在している。

#### 【学習目標】

教育の本質：なぜ人間だけに教育が必要であり、また可能であるのか、なぜ人間だけに生涯学習が必要であり、また可能なのか、その理由を論理的に説明できるようになること。  
 教育理念の歴史：「合自然」という近代教育思想の原理が生まれてきた理由、「合自然」に反対する教育思想が生まれてきた理由、「合自然」「反合自然」の双方を批判する教育思想の根拠を論理的に説明できるようになること。  
 教育課程の意義・編成：教育理念の実現方法としての教育課程の意義、教育理念と教育課程との間の相即関係について理解し、かつ日本の「学習指導要領」に反映されてきた教育理念について説明できるようになること。  
 教育学における教育理念とは異なる教育理念について説明できるようになること。

#### 【講義計画】

- 第1回 教育の一般的定義と教育の困難性
- 第2回 人間の教育必要性と教育可能性
- 第3回 人間の想像性・創造性
- 第4回 遺伝×環境×？
- 第5回 生涯学習の可能性と必要性
- 第6回 教育上の人間関係
- 第7回 近代教育の原理「合自然」
- 第8回 ルソーによる「子どもの発見」
- 第9回 「合自然」の流れと反「合自然」
- 第10回 児童中心主義とデュイ教育学
- 第11回 連続の教育と非連続の教育
- 第12回 教育理念の実現方法としての教育課程
- 第13回 教育課程の編成方法と「学習指導要領」
- 第14回 「権力作用」としての教育
- 第15回 試験

#### 【成績評価の方法】

試験 100%  
 論述試験。講義の前半、後半からそれぞれ2問出題、それぞれから1問、計2問選択。設問に対応した内容になっているかどうか、論理的に説明できているかどうかという観点から評価する。

#### 【参考文献】

竹中・中山・宮野・徳永『時代と向き合う教育学』（改訂版）ナカニシヤ出版、2003年

#### 【備考】

質問や意見は、E-mail (takenaka@andrew.ac.jp)、オフィス・アワーなどで受け付ける。  
 なお毎回、参考書に対応したレジュメを配布するので、聴講しながらそれを補充すること。但し特段の理由のない遅刻者には、授業終了まで配布しない。

科目名	クラス	講義区分
教育課程論 01 <春>		
大野 順子	2単位	

#### 【講義概要】

本講義では日本の小学校、中学校、高等学校における教育課程の制度と内容（学校で何を教えるかについての制度と内容）について学び、児童・青年の発達課題に応える教育課程改革のあり方について講義する。

#### 【学習目標】

受講生は、日本の学校の教育課程が直面している諸課題について知ることと、自己の大学入学までの学習をふりかえり、基礎的・発展的な学力形成のために教育課程はどのように編成されるべきかについて考えることができるようになることが到達目標となる。

#### 【講義計画】

- 第1回 オリエンテーション（授業開き）
- 第2回 教育課程を編成するとは
- 第3回 学習指導要領と教育課程編成
- 第4回 学習指導要領と教科書の関係
- 第5回 日本の入試制度の特徴と教育課程
- 第6回 子ども・青年の発達段階と教育課程
- 第7回 子ども・青年の学力の実態と教育課程
- 第8回 「教育内容の基礎・基本」と教育課程
- 第9回 「総合的な学習の時間」の位置づけと教育課程
- 第10回 学校の「特色づくり」と教育課程
- 第11回 国際理解教育の課題と教育課程
- 第12回 情報教育の課題と教育課程
- 第13回 環境教育の課題と教育課程
- 第14回 職業・労働に関する教育の課題と教育課程
- 第15回 まとめ

#### 【成績評価の方法】

- ①出席
  - ②課題レポート
  - ③期末試験・テスト
- 3点いずれも重視で、総合的に成績評価します。

#### 【教科書】

使用しない。  
 その都度、準備する。

#### 【参考文献】

田中耕治他著『新しい時代の教育課程』有斐閣 2005  
 文部省『中学校学習指導要領 総則編』東京書籍 平成16年  
 文部省『高等学校学習指導要領 総則編』東山書房 平成11年

#### 【備考】

<08～09生>のみ履修可

科目名 クラス 講義区分	
教育課程論 02<秋>	
大野 順子	2単位

#### 【講義概要】

本講義では日本の小学校、中学校、高等学校における教育課程の制度と内容（学校で何を教えるかについての制度と内容）について学び、児童・青年の発達課題に応える教育課程改革のあり方について講義する。

#### 【学習目標】

受講生は、日本の学校の教育課程が直面している諸課題について知ること、自己の大学入学までの学習をふりかえり、基礎的・発展的な学力形成のために教育課程はどのように編成されるべきかについて考えることができるようになることが到達目標となる。

#### 【講義計画】

- 第1回 オリエンテーション（授業開き）
- 第2回 教育課程を編成するとは
- 第3回 学習指導要領と教育課程編成
- 第4回 学習指導要領と教科書の関係
- 第5回 日本の入試制度の特徴と教育課程
- 第6回 子ども・青年の発達段階と教育課程
- 第7回 子ども・青年の学力の実態と教育課程
- 第8回 「教育内容の基礎・基本」と教育課程
- 第9回 「総合的な学習の時間」の位置づけと教育課程
- 第10回 学校の「特色づくり」と教育課程
- 第11回 国際理解教育の課題と教育課程
- 第12回 情報教育の課題と教育課程
- 第13回 環境教育の課題と教育課程
- 第14回 職業・労働に関する教育の課題と教育課程
- 第15回 まとめ

#### 【成績評価の方法】

- ①出席
  - ②課題レポート
  - ③期末試験・テスト
- 3点いずれも重視で、総合的に成績評価します。

#### 【教科書】

使用しない。  
その都度、準備する。

#### 【参考文献】

田中耕治他著『新しい時代の教育課程』有斐閣 2005  
文部省『中学校学習指導要領 総則編』東京書籍 平成16年  
文部省『高等学校学習指導要領 総則編』東山書房 平成11年

#### 【備考】

<08～09生>のみ履修可

科目名 クラス 講義区分			
教育実習 I	01<春>	冷水	啓子
教育実習 I	02<春>	島田	水勝
教育実習 I	03<春>	林	陸
教育実習 I	04<春>	竹中	暉雄
3単位			

#### 【講義概要】

「教育実習I」は、教職課程で履修してきた学習内容を、現実の教育現場に立って体験する実習校での実地実習とその前後の学内実習とで構成され、両者あわせて「教育職員免許法施行規則」で定められている3単位となる。この科目は、中学校教諭普通免許状、高等学校教諭普通免許状取得に共通する必修科目である。中学校教諭普通免許状取得のためには、別に「教育実習II」も登録しなければならない。

#### 【学習目標】

学内の事前実習では、模擬授業と相互批評を繰り返して、十分な準備を行う。実地実習では、実際の学校現場で、授業実習、学級経営、特別活動や課外活動の指導などを体験する。教育実習では教員としての社会的責任が求められる。このことが自覚できない場合、あるいは、教員に必要な要件が満たせない場合、途中で実習を打ち切られたり、実習の評価を拒否されることもある。学校長をはじめ各教員による指導にしたいがい、真摯な態度で臨むことが必要である。学内の事後実習では、自分の実習経験を発表し合ったり、本学の卒業教員の講話を聞いたりするなかで、実地実習の総括反省を行う。

#### 【講義計画】

- 第1回 1. ガイダンス
- 第2回 模擬授業
- 第3回 模擬授業
- 第4回 模擬授業
- 第5回 模擬授業
- 第6回 模擬授業
- 第7回 模擬授業
- 第8回 実地実習
- 第9回 実地実習
- 第10回 実習体験報告
- 第11回 実習体験報告
- 第12回 実習体験報告
- 第13回 卒業生教員の講話
- 第14回 総括・反省

#### 【成績評価の方法】

教育実習評価表（実習校による評価）、教育実習ノート（実習の記録）、および学内実習の評価に基づいて、教職課程委員会が総合的に評価する。

#### 【参考文献】

桃山学院大学教職課程委員会（編）『教職をめざして－教職課程履修ガイド〔2007年度改訂版〕－』  
池田・酒井・野里・宇井（編著）『教育実習総説』（学文社）  
白井・寺崎・黒澤・別府（編著）『教育実習57の質問』（学文社）

#### 【備考】

なお、この「教育実習I」では、病気または事故など正当な理由がない限り、遅刻・早退、欠席は認められない。

科目名	クラス	講義区分
教育実習Ⅱ <秋>		
冷水啓子		2単位

**【講義概要】**

「教育実習Ⅱ」は「教育実習Ⅰ」とともに、中学校教諭普通免許状取得のための必修科目である。「教育実習Ⅰ」と合わせて「教育職員免許法施行規則」で定められている5単位となる。

「教育実習Ⅱ」では、教職課程で学んできた内容のうち、とりわけ生徒指導や特別活動など、教科外での活動や指導について、現実の学校現場において実地に体験することを主たる目的としている。

「教育実習Ⅱ」の実施形態には、春学期の「教育実習Ⅰ」（学内実習を除いて2週間）と連続してさらに2単位相当時間（一般に+1週間）実施するものと、「教育実習Ⅰ」とは別に、本学の地域連携実習協力校において、年間を通して2単位相当時間を実施するものがある。どちらになるかは、実習校が内諾した期間（2週間あるいは3週間）によって決まるので（2週間の場合は後者となる）、3年次の実習依頼時に中学校（場合によっては高等学校）側とよく相談しておく必要がある。

いずれの形態をとる場合でも、中学校教諭普通免許状取得希望者は、4年次春学期に行なう履修登録では、必ず「教育実習Ⅱ」の登録をしておかねばならない。

実地実習においては、学級経営、特別活動や課外活動の指導などを体験するが、それには当然のこととして教員としての社会的責任の自覚が要求される。その自覚のない場合には、実習を途中で打ち切られたり、評価を拒否されたりすることもある。校長をはじめ各教員の指導によく従い、真摯な態度で臨む必要がある。

なお、この「教育実習Ⅱ」では、病気または事故など正当な理由がない限り、遅刻・早退、欠席は認められない。

**【講義計画】**

第1回 最初のガイダンス、終了時の総括・反省以外、すべて学校現場での実施実習

**【成績評価の方法】**

教育実習評価表（実習校による評価）、教育実習ノート（実習の記録）、および学内実習の評価に基づいて、教職課程委員会が総合的に評価する。

**【参考文献】**

桃山学院大学教職課程委員会（編）『教職をめざして－教職課程履修ガイド〔2007年度改訂版〕－』

池田・酒井・野里・宇井（編著）『教育実習総説』（学文社）

白井・寺崎・黒澤・別府（編著）『教育実習57の質問』（学文社）

科目名	クラス	講義区分
教育社会学 <通期>		
山内乾史		4単位

**【講義概要】**

本講義は、教育の世界で起きる諸問題を社会学的視点から捉えていく方法について検討することを目的とします。教育は自己完結的な閉じたシステムではなく、政治・経済他の社会システムと密接な関わりを持つシステムであり、それ故に教育の世界だけを見つめるのではなく、巨視的な分析方法が必要とされます。本講義では、欧米との比較（特にアメリカ合衆国とイギリス）を通じて、また明治維新以降の流れを歴史的に振り返ることを通じて、現代日本の教育に起きる諸問題を解説していきます。

また、発展途上国の教育問題もアジア、特にインドを中心にわたってお話します。

**【学習目標】**

教育を社会学的にとらえるとはどういうことなのかというものの考え方を習得することを本講義は目標とします。そのために、さまざまな諸外国の教育を取り上げ、比較することによって、日本社会の普遍性と特殊性について考えることを講義の中心にしています。講義は多人数になることが予想されますし、海外の教育について語る機会が多いため、ビデオによる資料提示が多くなることと思います。

細かい点については、詳しいシラバスを第1回授業時に配布して説明します。

**【講義計画】**

第1回 イントロダクション－教育社会学とは何か－

第2回 教育社会学とは何か：日英米を比較検討していく基本的枠組みについて

第3回 日本における学歴社会論(1)

第4回 日本における学歴社会論(2)

第5回 日本における学歴社会論(3)

第6回 日本における学歴社会論(4)

第7回 アメリカ合衆国の教育と社会(1)－スプートニク・ショックと公民権運動－

第8回 アメリカ合衆国の教育と社会(2)－ヘッド・スタート・プロジェクトと多文化教育－

第9回 アメリカ合衆国の教育と社会(3)－ビル・クリントン政権下のチャーター・スクール－

第10回 アメリカ合衆国の教育と社会(4)－ジョージ・ブッシュ政権下のチャーター・スクール－

第11回 大学・大学生と社会

第12回 教師の問題(1)

第13回 教師の問題(2)

第14回 教師の問題(3)

第15回 前期試験

第16回 前期試験返却と解説・イギリスの教育と社会(1)－地域・民族・階級－

第17回 イギリスの教育と社会(2)－トニー・ブレア政権下の教育改革(1)－

第18回 イギリスの教育と社会(3)－トニー・ブレア政権下の教育改革(2)－

第19回 イギリスの教育と社会(4)－トニー・ブレア政権下の教育改革(3)－

第20回 イギリスの教育と社会(5)－トニー・ブレア政権下の教育改革(4)－

第21回 イギリスの教育と社会(6)－パブリック・スクール－

第22回 イギリスの教育と社会(7)－オックスフォード大学とケンブリッジ大学－

第23回 インドの教育と社会(1)－ITの発達と貧困からの脱出－

第24回 インドの教育と社会(2)－貧困層への教育－

第25回 アフガニスタン・バングラデシュの教育と社会

第26回 アフリカの子ども兵

第27回 日本の教育と社会(1)－教育特区－

第28回 日本の教育と社会(2)－奨学金政策－

第29回 日本の教育と社会(3)－学力問題－

第30回 後期試験

**【成績評価の方法】**

成績評価は定期試験によります。具体的な方法については講義の時に指示します。ただし、前期、後期ともに前授業回の2/3以上の出席を求めます。すなわち前期11回以上、後期11回以上の出席を求めます。各期10回以下の学生には受験資格を認めません。もちろ

ん、理由があつて休む場合は考慮します。たとえば、就職活動、各種実習、課外活動、身内の不幸、自身の病気など。毎回授業終了後にショート・レポートを書いてもらい、それをもとに評価します。

#### 【教科書】

山内乾史・杉本均（編）現代アジアの教育計画（上）（第二版）学文社

必ず購入すること

#### 【参考文献】

原清治・山内乾史編『「使い捨てられる若者たち」は格差社会の象徴か（仮）』ミネルヴァ書房、近刊：

山内乾史編『教育から職業へのトランジション』東信堂、2008年

科目名 クラス 講義区分

教育心理学 01 <春>

冷水啓子

2単位

#### 【講義概要】

・テーマ：乳幼児期、児童期・思春期、青年期における子どもの心身の発達及び学習の過程、並びに各発達段階における発達障害や心理障害のある子どもに対する教育臨床的援助について

・授業の概要：教育現場において、子どもたちへの適切な学習指導や生活指導を行うために必要とされる、教育心理学的な基礎理論について講義する。講義を通じて、乳幼児期、児童期・思春期、青年期における子どもの心身の発達及び学習の過程に関する理論を学ぶとともに、発達障害や心理障害のある子どもたちへの教育臨床的援助（特別支援教育を含む）について理解を深める。講義中心の授業となるが、学外研修（地域連携教育活動Ⅰ・Ⅱ）などに積極的に参加し、授業で習得した知識を実践的に確かめてほしい。授業に関連する補足資料は、スライド（パワーポイント）、インターネット、ビデオ（DVD）、印刷物などを通じて提供する。

#### 【学習目標】

・授業の到達目標：この授業では、生涯発達の観点から、乳幼児期、児童期・思春期、青年期における子どもの心身の発達と障害及び学習の過程に関する理論を学び、教育現場での実践的指導力を身につけるための基礎作りをめざす。

#### 【講義計画】

- 第1回 授業を始める前に（授業のテーマ、到達目標、概要、履修上の注意事項などについて）
- 第2回 発達の原理（1）：初期発達と発達の可塑性
- 第3回 発達の原理（2）：遺伝と環境
- 第4回 発達段階理論（1）：フロイトとエリクソンの人格発達理論
- 第5回 発達段階理論（2）：ピアジェの認知発達理論
- 第6回 乳幼児期における心身の発達と学習
- 第7回 発達障害とその教育臨床的援助（1）：知的障害、学習障害、広汎性発達障害などの特徴
- 第8回 発達障害とその教育臨床的援助（2）：ある知的障害児の発達記録（ビデオ・DVD視聴）
- 第9回 児童期・思春期における心身の発達と学習
- 第10回 児童期・思春期における心理障害とその教育臨床的援助
- 第11回 特別支援教育の特徴とその実際：軽度発達障害の子どもへの学習指導（ビデオ・DVD視聴）
- 第12回 青年期における心理発達と学習
- 第13回 青年期における心理障害と教育臨床的援助
- 第14回 まとめ
- 第15回 定期試験

#### 【成績評価の方法】

試験 70% レポート 30%

主体的・積極的な授業への出席・参加を重視する。授業時には必要に応じてコメント・カードの提出を求める。学期中にレポート課題を与え、学期末には論述試験を実施する。それらの結果に基づき総合的に評価を行う。

#### 【教科書】

テキストは使用しないが、参考文献欄にある大村彰道（編）『教育心理学Ⅰ』および下山晴彦（編）『教育心理学Ⅱ』を個人で購入するか本学図書館から借りるかして、予習・復習の際に活用すること。

#### 【参考文献】

- ・大村彰道（編）『教育心理学Ⅰ—発達と学習指導の心理学—』（東京大学出版会）
- ・鎌原雅彦・竹綱誠一郎 『改訂版 やさしい教育心理学』（有斐閣）
- ・下山晴彦（編）『教育心理学Ⅱ—発達と臨床援助の心理学—』（東京大学出版会）

科目名 クラス 講義区分

教育心理学 02 <秋>

冷水 啓子

2単位

#### 【講義概要】

・テーマ：乳幼児期、児童期・思春期、青年期における子どもの心身の発達及び学習の過程、並びに各発達段階における発達障害や心理障害のある子どもに対する教育臨床的援助について

・授業の概要：教育現場において、子どもたちへの適切な学習指導や生活指導を行うために必要とされる、教育心理学的な基礎理論について講義する。講義を通じて、乳幼児期、児童期・思春期、青年期における子どもの心身の発達及び学習の過程に関する理論を学ぶとともに、発達障害や心理障害のある子どもたちへの教育臨床的援助（特別支援教育を含む）について理解を深める。講義中心の授業となるが、学外研修（地域連携教育活動Ⅰ・Ⅱ）などに積極的に参加し、授業で習得した知識を実践的に確かめてほしい。授業に関連する補足資料は、スライド（パワーポイント）、インターネット、ビデオ（DVD）、印刷物などを通じて提供する。

#### 【学習目標】

・授業の到達目標：この授業では、生涯発達の観点から、乳幼児期、児童期・思春期、青年期における子どもの心身の発達と障害及び学習の過程に関する理論を学び、教育現場での実践的指導力を身につけるための基礎作りをめざす。

#### 【講義計画】

- 第1回 授業を始める前に（授業のテーマ、到達目標、概要、履修上の注意事項などについて）
- 第2回 発達の原理（1）：初期発達と発達の可塑性
- 第3回 発達の原理（2）：遺伝と環境
- 第4回 発達段階理論（1）：フロイトとエリクソンの人格発達理論
- 第5回 発達段階理論（2）：ピアジェの認知発達理論
- 第6回 乳幼児期における心身の発達と学習
- 第7回 発達障害とその教育臨床的援助（1）：知的障害、学習障害、広汎性発達障害などの特徴
- 第8回 発達障害とその教育臨床的援助（2）：ある知的障害児の発達記録（ビデオ・DVD視聴）
- 第9回 児童期・思春期における心身の発達と学習
- 第10回 児童期・思春期における心理障害とその教育臨床的援助
- 第11回 特別支援教育の特徴とその実際：軽度発達障害の子どもへの学習指導（ビデオ・DVD視聴）
- 第12回 青年期における心理発達と学習
- 第13回 青年期における心理障害と教育臨床的援助
- 第14回 まとめ
- 第15回 定期試験

#### 【成績評価の方法】

試験 70% レポート 30%

主体的・積極的な授業への出席・参加を重視する。授業時には必要に応じてコメント・カードの提出を求める。学期中にレポート課題を与え、学期末には論述試験を実施する。それらの結果に基づき総合的に評価を行う。

#### 【教科書】

テキストは使用しないが、参考文献欄にある大村彰道（編）『教育心理学Ⅰ』および下山晴彦（編）『教育心理学Ⅱ』を個人で購入するか本学図書館から借りるかして、予習・復習の際に活用すること。

#### 【参考文献】

- ・大村彰道（編）『教育心理学Ⅰ—発達と学習指導の心理学—』（東京大学出版会）
- ・鎌原雅彦・竹綱誠一郎 『改訂版 やさしい教育心理学』（有斐閣）
- ・下山晴彦（編）『教育心理学Ⅱ—発達と臨床援助の心理学—』（東京大学出版会）

科目名 クラス 講義区分

教育相談 01 <春>

和知 富士子

2単位

#### 【講義概要】

現代社会の諸矛盾は、間接・直接に子どもたちを強いストレス下に置いており、その結果として、いじめや不登校などの問題行動や神経症・心身症が小学生の段階から現出している。

また、近年増加している児童虐待、災害、犯罪被害に関連しても心のケアが注目されている。

子どもたちが抱えている諸問題を教育相談という観点からとらえなおし、適切な支援・援助をする窓口としての機能を学校教育相談として位置付けたい。

#### 【学習目標】

今日教師の直面している何らかの課題や問題を持って不適応に陥っている生徒に適切にかかわり、指導することが避けられなくなっている状況を鑑み、こういった不適応や問題行動（不登校、いじめ、非行、児童虐待、発達障害、神経症等）についてその理解を深め対応のあり方を学んでいく。

具体的には、心の健康であるメンタルヘルスの基礎理論をはじめとして、思春期に見られる問題行動などについて、社会現象や個別の事例を交えて説明する。また、子どもへの援助における基本姿勢とされるカウンセリングの基礎理論を、体験的学習を通じて学ぶ。等）

#### 【講義計画】

- 第1回 導入  
生徒指導と教育相談
- 第2回 生徒指導の位置づけ  
大阪府下S市教育委員会の実践
- 第3回 教育相談の実際（問題別） 1. 不登校
- 第4回 2. いじめ
- 第5回 3. 児童虐待
- 第6回 4. 非行
- 第7回 5. 発達障害
- 第8回 6. 児童・生徒理解の精神医学的な基礎
- 第9回 カウンセリングの理論と実践
- 第10回 カウンセリングの体験的学習（1）
- 第11回 カウンセリングの体験的学習（2）
- 第12回 カウンセリングの体験的学習（3）
- 第13回 学外の相談機関および関係機関
- 第14回 心理学的アセスメント
- 第15回 テスト

#### 【成績評価の方法】

試験 60% レポート 20% 出席 20%

#### 【教科書】

講師自作のプリントを毎回配布する。

科目名 クラス 講義区分	
教育相談 02 <秋>	
和 知 富士子	2単位

**【講義概要】**

現代社会の諸矛盾は、間接・直接に子どもたちを強いストレス下に置いており、その結果として、いじめや不登校などの問題行動や神経症・心身症が小学生の段階から現出している。  
また、近年増加している児童虐待、災害、犯罪被害に関連しても心のケアが注目されている。  
子どもたちが抱えている諸問題を教育相談という観点からとらえなおし、適切な支援・援助をする窓口としての機能を学校教育相談として位置付けたい。

**【学習目標】**

今日教師の直面している何らかの課題や問題を持って不応に陥っている生徒に適切にかかわり、指導することが避けられなくなっている状況を鑑み、こういった不応や問題行動（不登校、いじめ、非行、児童虐待、発達障害、神経症等）についてその理解を深め対応のあり方を学んでいく。  
具体的には、心の健康であるメンタルヘルスの基礎理論をはじめとして、思春期に見られる問題行動などについて、社会現象や個別の事例を交えて説明する。また、子どもへの援助における基本姿勢とされるカウンセリングの基礎理論を、体験的学習を通じて学ぶ。  
等)

**【講義計画】**

- 第1回 導入  
生徒指導と教育相談
- 第2回 生徒指導の位置づけ  
大阪府下S市教育委員会の実践
- 第3回 教育相談の実際（問題別） 1. 不登校
- 第4回 2. いじめ
- 第5回 3. 児童虐待
- 第6回 4. 非行
- 第7回 5. 発達障害
- 第8回 6. 児童・生徒理解の精神医学的な基礎
- 第9回 カウンセリングの理論と実践
- 第10回 カウンセリングの体験的学習(1)
- 第11回 カウンセリングの体験的学習(2)
- 第12回 カウンセリングの体験的学習(3)
- 第13回 学外の相談機関および関係機関
- 第14回 心理学的アセスメント
- 第15回 テスト

**【成績評価の方法】**

試験 60% レポート 20% 出席 20%

**【教科書】**

講師自作のプリントを毎回配布する。

科目名 クラス 講義区分	
教育法規 01 <春>	
竹 中 暉 雄	2単位

**【講義概要】**

教育とは本来、年長者と年少者、親と子との間で展開される私事的な営みであり、国家や公権力が関与すべき性質のものではなかった。しかし近代公教育制度が成立するに伴い、教育は公的に、つまり制度的、国家的に行なわれるようになり、ここにそれを運用するための教育法規が不可欠となってきた。法令というのは体系的なものなので、その学習も体系的・逐条的にすべきであるが、この講義では単調さを避けるために、主として、さまざまな教育問題にどのような法令が関係しているのか、という視点から論じていく。

**【学習目標】**

制度としての教育は法令に基づいて運営されていることを理解すること。  
各種の教育問題にどのような法令が関係しているのか認識すること。  
それぞれの法令が作られた理由、その効果、現段階での問題点などについて、論理的に説明できるようになること。

**【講義計画】**

- 第1回 教育法規の種類および憲法の教育条項
- 第2回 教育基本法・1（制定の意義・前文～4条）
- 第3回 教育基本法・2（第5条～第18条）
- 第4回 義務教育をめぐる諸問題・1（不登校・家庭就学）
- 第5回 義務教育をめぐる諸問題・2（再生策・進級卒業）
- 第6回 学校の教育課程と学習指導要領
- 第7回 指導要録の作成目的
- 第8回 教育法規と教師・1（免許制度・採用・研修）
- 第9回 教育法規と教師・2（経済的待遇・諸義務・懲戒）
- 第10回 教育法規と教師・3（部活動指導・体罰禁止）
- 第11回 教科書と教育法規
- 第12回 学校保健・給食と教育法規
- 第13回 情報公開・国際化と教育
- 第14回 勅令主義・法律主義をめぐる問題
- 第15回 試験

**【成績評価の方法】**

試験 100%  
基本的知識を問う穴埋め問題・40点、6問中3問選択の論述問題・60点。  
穴埋め問題用の事例集は事前に配布する。  
論述問題は、設問に対応した内容になっているかどうか、論理的に説明できているかどうかという観点から評価する。

**【備考】**

質問や意見は、E-mail (takenaka@andrew.ac.jp)、オフィス・アワーなどで受け付ける。なお毎回レジュメを配布するので、聴講しながらそれを補完すること。但し特段の理由のない遅刻者には、授業終了まで配布しない。

科目名 クラス 講義区分	
教育法規 02<秋>	
竹中 暉雄	2単位

**【講義概要】**

教育とは本来、年長者と年少者、親と子との間で展開される私事的な営みであり、国家や公権力が関与すべき性質のものではなかった。しかし近代公教育制度が成立するに伴い、教育は公的に、つまり制度的、国家的に行なわれるようになり、ここにそれを運用するための教育法規が不可欠となってきた。法令というのは体系的なものなので、その学習も体系的・逐条的にすべきであるが、この講義では単調さを避けるために、主として、さまざまな教育問題にどのような法令が関係しているのか、という視点から論じていく。

**【学習目標】**

制度としての教育は法令に基づいて運営されていることを理解すること。  
各種の教育問題にどのような法令が関係しているのか認識すること。  
それぞれの法令が作られた理由、その効果、現段階での問題点などについて、論理的に説明できるようになること。

**【講義計画】**

- 第1回 教育法規の種類および憲法の教育条項
- 第2回 教育基本法・1（制定の意義・前文～4条）
- 第3回 教育基本法・2（第5条～第18条）
- 第4回 義務教育をめぐる諸問題・1（不登校・家庭就学）
- 第5回 義務教育をめぐる諸問題・2（再生策・進級卒業）
- 第6回 学校の教育課程と学習指導要領
- 第7回 指導要録の作成目的
- 第8回 教育法規と教師・1（免許制度・採用・研修）
- 第9回 教育法規と教師・2（経済的待遇・諸義務・懲戒）
- 第10回 教育法規と教師・3（部活動指導・体罰禁止）
- 第11回 教科書と教育法規
- 第12回 学校保健・給食と教育法規
- 第13回 情報公開・国際化と教育
- 第14回 勅令主義・法律主義をめぐる問題
- 第15回 試験

**【成績評価の方法】**

試験 100%  
基本的知識を問う穴埋め問題・40点、6問中3問選択の論述問題・60点。  
穴埋め問題用の事例集は事前に配布する。論述問題は、設問に対応した内容になっているかどうか、論理的に説明できているかどうかという観点から評価する。

**【備考】**

質問や意見は、E-mail (takenaka@andrew.ac.jp)、オフィス・アワーなどで受け付ける。  
なお毎回レジュメを配布するので、聴講しながらそれを補完すること。但し特段の理由のない遅刻者には、授業終了まで配布しない。

科目名 クラス 講義区分	
教育方法学 01<春>	
冷水 啓子	2単位

**【講義概要】**

- ・テーマ：「わかる授業」と「確かな学力」の育成をめざした「教育の方法及び技術」について
- ・授業の概要：はじめに、教室の内外で行われる教授・学習活動及び教育測定・学習評価に関する基礎的理論を概観し、子どもの学習意欲をかき立てる効果的な教授・学習方法や教育メディアの特徴について学ぶ。つぎに、子どもの年齢や個性に即した学習活動を支援するコンピュータの教育利用を取り上げ、その方法や利用に際する問題点についてコンピュータ実習を通じ体験的に理解する。授業に関連する補足資料は、スライド（パワーポイント）、インターネット、ビデオ（DVD）、印刷物などを通じて提供する。

**【学習目標】**

・授業の到達目標：この授業では、従来の反復練習に基づく学習とともに、知的好奇心や探求心に導かれながら主体的に学び、学ぶ楽しさ・充足感を味わうことのできる学習とはなにかを考える。そのうえで、子どもが「わかる授業」の実施や「確かな学力」の育成に効果が期待できる、さまざまな教育メディアを活用した「教育の方法及び技術」に関する理論とその実際を学ぶ。さらに、コンピュータ実習を通じ、情報活用能力と情報機器活用スキルの習得をめざす。

**【講義計画】**

- 第1回 授業を始める前に（授業のテーマ、到達目標、概要、履修上の注意事項などについて）
- 第2回 学習とは何か：教室の内外での学び
- 第3回 学習の基礎理論（1）：条件づけと行動療法
- 第4回 学習の基礎理論（2）：認知理論と観察学習
- 第5回 学習と認知：推理と問題解決
- 第6回 学習への動機づけと学習意欲：知的好奇心と内発的動機づけ
- 第7回 授業における教授・学習過程
- 第8回 個人差と学習指導
- 第9回 教育測定と学習評価
- 第10回 さまざまな心理テストの利用
- 第11回 情報メディアの活用：コンピュータの教育利用に関する理論と技法
- 第12回 コンピュータ実習（1）：インターネットの教育利用に際する諸問題
- 第13回 コンピュータ実習（2）：教室でのコンピュータの活用方法
- 第14回 まとめ：「わかる授業」と「確かな学力」の育成をめざして
- 第15回 定期試験

**【成績評価の方法】**

試験 70% レポート 30%  
主体的・積極的な授業への出席・参加を重視する。授業時には必要に応じてコメント・カードの提出を求める。学期中にレポート課題を与え、学期末には論述試験を実施する。それらの結果に基づき総合的に評価を行う。

**【教科書】**

テキストは使わないが、スライド（パワーポイント）、インターネット、ビデオ（DVD）、印刷物などを通じて資料提供を行う。

**【参考文献】**

市川伸一『学ぶ意欲とスキルを育てる—いま求められる学力向上策—』（小学館）  
桃山学院大学情報センター（編）『ユーザーズガイド』（2009年度版）  
大村彰道（編）『教育心理学Ⅰ—発達と学習指導の心理学—』（東京大学出版会）

科目名 クラス 講義区分	
教育方法学 02 <秋>	
冷水啓子	2単位

#### 【講義概要】

・テーマ：「わかる授業」と「確かな学力」の育成をめざした「教育の方法及び技術」について

・授業の概要：はじめに、教室の内外で行われる教授・学習活動及び教育測定・学習評価に関する基礎的理論を概観し、子どもの学習意欲をかき立てる効果的な教授・学習方法や教育メディアの特徴について学ぶ。つぎに、子どもの年齢や個性に即した学習活動を支援するコンピュータの教育利用を取り上げ、その方法や利用に際する問題点についてコンピュータ実習を通じ体験的に理解する。授業に関連する補足資料は、スライド（パワーポイント）、インターネット、ビデオ（DVD）、印刷物などを通じて提供する。

#### 【学習目標】

・授業の到達目標：この授業では、従来の反復練習に基づく学習とともに、知的好奇心や探求心に導かれながら主体的に学び、学ぶ楽しさ・充足感を味わうことのできる学習とはなにかを考える。そのうえで、子どもが「わかる授業」の実施や「確かな学力」の育成に効果が期待できる、さまざまな教育メディアを活用した「教育の方法及び技術」に関する理論とその実際を学ぶ。さらに、コンピュータ実習を通じ、情報活用能力と情報機器活用スキルの習得をめざす。

#### 【講義計画】

- 第1回 授業を始める前に（授業のテーマ、到達目標、概要、履修上の注意事項などについて）
- 第2回 学習とは何か：教室の内外での学び
- 第3回 学習の基礎理論（1）：条件づけと行動療法
- 第4回 学習の基礎理論（2）：認知理論と観察学習
- 第5回 学習と認知：推理と問題解決
- 第6回 学習への動機づけと学習意欲：知的好奇心と内発的動機づけ
- 第7回 授業における教授・学習過程
- 第8回 個人差と学習指導
- 第9回 教育測定と学習評価
- 第10回 さまざまな心理テストの利用
- 第11回 情報メディアの活用：コンピュータの教育利用に関する理論と技法
- 第12回 コンピュータ実習（1）：インターネットの教育利用に際する諸問題
- 第13回 コンピュータ実習（2）：教室でのコンピュータの活用方法
- 第14回 まとめ：「わかる授業」と「確かな学力」の育成をめざして
- 第15回 定期試験

#### 【成績評価の方法】

試験 70% レポート 30%  
 主体的・積極的な授業への出席・参加を重視する。授業時には必要に応じてコメント・カードの提出を求める。学期中にレポート課題を与え、学期末には論述試験を実施する。それらの結果に基づき総合的に評価を行う。

#### 【教科書】

テキストは使わないが、スライド（パワーポイント）、インターネット、ビデオ（DVD）、印刷物などを通じて資料提供を行う。

#### 【参考文献】

市川伸一『学ぶ意欲とスキルを育てる—いま求められる学力向上策—』（小学館）  
 桃山学院大学情報センター（編）『ユーザーズガイド』（2009年度版）  
 大村彰道（編）『教育心理学Ⅰ—発達と学習指導の心理学—』（東京大学出版会）

科目名 クラス 講義区分			
教職演習 01 <秋>		冷水啓子	
教職演習 02 <秋>		島田勝正	
教職演習 03 <秋>		林陸雄	
教職演習 04 <秋>		竹中暉雄	
2単位			

#### 【講義概要】

この演習の大テーマは、「人類に共通する地球的課題および我が国社会全体に関わる課題とは何か」ということであるが、個別テーマとしては、人間尊重・人権尊重の精神を基礎に、①「異文化理解」（国際理解、国内異文化理解、民族対立、地域紛争と難民など）②「環境問題」（ゴミ、電磁波、化学物質、人口と食料など）③「人権・福祉」（男女共同参画、少子化、高齢化、障害者理解と共生、家庭のあり方など）④「情報化社会」（携帯電話、インターネット、個人情報保護など）等がある。

受講生はいずれかの個別課題を選択したうえでグループに分かれ、各グループ内で検討した内容をミニ研究発表として発表し、それらの知見に基づき授業案を作成し、最後に研究授業を行なう。

#### 【学習目標】

本授業の到達目標は、世界市民を目指す本学の学生、とりわけ、教職を目指す、時代を担う児童・生徒の育成に携わろうとする者に対して、世界の人々の日常生活が国境を越えて多様に影響し合っている国際化時代を背景に起因するグローバルな課題について広い視野から認識させ、国際社会と関わり合っていく感性と行動力を育成するとともに、それらの内容を適切に指導しうる能力を養うことである。

#### 【講義計画】

- 第1回 1. ガイダンス（個別テーマの決定とグループ分け）
- 第2回 2. 個別テーマ関連ビデオの視聴と討議
- 第3回 3. 各グループのテーマに関するミニ研究発表のための資料収集および討議（1）
- 第4回 4. 各グループのテーマに関するミニ研究発表のための資料収集および討議（2）
- 第5回 5. 「異文化理解」に関するミニ研究発表
- 第6回 6. 「環境問題」に関するミニ研究発表
- 第7回 7. 「人権・福祉」に関するミニ研究発表
- 第8回 8. 「情報化社会」に関するミニ研究発表
- 第9回 9. 各グループのテーマに関する授業案および教材の作成（1）
- 第10回 10. 各グループのテーマに関する授業案および教材の作成（2）
- 第11回 11. 「異文化理解」に関する授業研究
- 第12回 12. 「環境問題」に関する授業研究
- 第13回 13. 「人権・福祉」に関する授業研究
- 第14回 14. 「情報化社会」に関する授業研究
- 第15回 15. 総括レポートの作成

#### 【成績評価の方法】

出席状況、発表・討議への参加度、授業案、研究授業、最終レポートなどによって総合的に評価する。

#### 【参考文献】

その都度、紹介する。



科目名 クラス 講義区分	
教職概論 01 <春>	
林 陸 雄	2 単位

**【講義概要】**

教員養成及びその免許制度を踏まえ、中教審答申及び教員免許法に即して、教職課程の意義と教員の役割と責務について取り上げる。特に教職の使命感についての自覚と、教職への志向と一体感の形成・強化に焦点をあてる。昨今の様々な教育問題を取り上げつつ、子どもの成長を援助し、子どもの成長をもって自己の喜びとするために必要な基礎・基本を修得する。内容に合わせて、視聴覚教材の使用、参加型・体験型の授業形態をとる予定である。

**【学習目標】**

1. 教職専門性とは：教職専門家としての役割と課題を認識し、その基礎基本を修得するとともに、生涯を通じてその専門性向上の重要性について認識する。
2. 教員の任務と職務：教員の任務と職務内容についての認識を深め、体現しうる態度を育成する。
3. 適性と進路：教職と他の職種との類似性及び独自性に気づき、教職への自身の適性について考える。

**【講義計画】**

- 第1回 授業開き  
学習目標と講義概要、評価方法等について説明  
履修目的についてグループ単位で意見交換  
相互支援的に学習する体制作りをする
- 第2回 教育の現状と課題
- 第3回 期待される教員の役割
- 第4回 教育をめぐる人々
- 第5回 教員の職務
- 第6回 教員の責務
- 第7回 教員の権利と報酬
- 第8回 教員の専門性維持と研修
- 第9回 教育実習
- 第10回 総合的学習の時間
- 第11回 特別支援教育
- 第12回 他種の職業と教職との類似性と独自性（
- 第13回 学校教育支援における保護者と地域の役割
- 第14回 どのような教師像を目指すのか
- 第15回 まとめ

**【成績評価の方法】**

試験 60% レポート 20% 出席 20%

**【参考文献】**

田井康雄編『教育職の研究』学術図書出版  
中学校・高等学校学習指導要領  
『教育小六法』2008年版、学陽書房

科目名 クラス 講義区分	
教職概論 02 <秋>	
林 陸 雄	2 単位

**【講義概要】**

教員養成及びその免許制度を踏まえ、中教審答申及び教員免許法に即して、教職課程の意義と教員の役割と責務について取り上げる。特に教職の使命感についての自覚と、教職への志向と一体感の形成・強化に焦点をあてる。昨今の様々な教育問題を取り上げつつ、子どもの成長を援助し、子どもの成長をもって自己の喜びとするために必要な基礎・基本を修得する。内容に合わせて、視聴覚教材の使用、参加型・体験型の授業形態をとる予定である。

**【学習目標】**

1. 教職専門性とは：教職専門家としての役割と課題を認識し、その基礎基本を修得するとともに、生涯を通じてその専門性向上の重要性について認識する。
2. 教員の任務と職務：教員の任務と職務内容についての認識を深め、体現しうる態度を育成する。
3. 適性と進路：教職と他の職種との類似性及び独自性に気づき、教職への自身の適性について考える。

**【講義計画】**

- 第1回 授業開き  
学習目標と講義概要、評価方法等について説明  
履修目的についてグループ単位で意見交換  
相互支援的に学習する体制作りをする
- 第2回 教育の現状と課題
- 第3回 期待される教員の役割
- 第4回 教育をめぐる人々
- 第5回 教員の職務
- 第6回 教員の責務
- 第7回 教員の権利と報酬
- 第8回 教員の専門性維持と研修
- 第9回 教育実習
- 第10回 総合的学習の時間
- 第11回 特別支援教育
- 第12回 他種の職業と教職との類似性と独自性（
- 第13回 学校教育支援における保護者と地域の役割
- 第14回 どのような教師像を目指すのか
- 第15回 まとめ

**【成績評価の方法】**

試験 60% レポート 20% 出席 20%

**【参考文献】**

田井康雄編『教育職の研究』学術図書出版  
中学校・高等学校学習指導要領  
『教育小六法』2008年版、学陽書房

科目名 クラス 講義区分	
行政法Ⅰ <春集>	
天 本 哲 史	4 単位

**【講義概要】**

行政法は、行政活動に対する法的な規律のあり方を研究する学問分野である。「警察行政」「社会保障行政」「環境行政」「消費者行政」などという言葉があることからわかるように、行政活動は我々の生活に深い関連性を有し、生活の様々な場面において身近に存在する。そして、社会情勢の変化や社会の多様化・複雑化する現代においては、行政に期待される役割は増加する傾向にあり、それに比例して行政法に期待される役割も増加している。そこで、本講義では、難解とされがちな行政法について、理論だけではなく実社会とのかわりを意識しながら学んでいきたいと考えている。

**【学習目標】**

本講義は、行政法の基礎的な知識の習得を目標とする。具体的には、①行政法の全体構造についての知識、②行政行為や行政指導などの個別の行為形式に関わる法的問題についての知識、③違法な行政活動に対する救済に関わる法的問題についての知識、のそれぞれの習得である

**【講義計画】**

- 第1回 ガイダンス
- 第2回 「行政」と「行政法」
- 第3回 法律による行政の原理
- 第4回 行政組織
- 第5回 行政立法
- 第6回 行政行為①
- 第7回 行政行為②
- 第8回 行政行為③
- 第9回 行政行為④
- 第10回 行政行為⑤
- 第11回 行政上の強制措置①
- 第12回 行政上の強制措置②
- 第13回 行政指導
- 第14回 行政契約・行政計画
- 第15回 行政手続法
- 第16回 行政不服審査法①
- 第17回 行政不服審査法②
- 第18回 行政事件訴訟法①
- 第19回 行政事件訴訟法②
- 第20回 行政事件訴訟法③
- 第21回 国家賠償法①
- 第22回 国家賠償法②
- 第23回 損失補償
- 第24回 地方自治
- 第25回 公物・公務員
- 第26回 情報公開
- 第27回 個人情報保護
- 第28回 講義のまとめ

**【成績評価の方法】**

試験 50% レポート 25% 出席 25%

**【教科書】**

原田尚彦 行政法要論 全訂第6版 学陽書房

**【参考文献】**

六法（最新のものがあればよい）  
 その他に参考となる文献については、講義の中で適宜に紹介する。

科目名 クラス 講義区分	
行政法Ⅱ <秋集>	
寺 田 友 子	4 単位

**【講義概要】**

多様な内容を持つ行政法中、地方自治法及び公務員法を中心に講義する。両法の解釈を通じて、地方自治体の組織、人的側面について理解を深める。ただし、地方公務員法を理解するためにも、国家公務員法を対比して講義を行う。

**【学習目標】**

地方自治体の組織法を中心に講義する理由は、地方分権化の動きの中で、地方自治体はその機能を拡大し、その重要性を増しつつある。民主主義の学校と言われる地方自治体の根本規範である「地方自治法」に理解を深めることは、行政法の修得というだけでなく、民主主義的な国民、住民の人格形成にとっても不可欠と考える。「地方自治法」及び「公務員法」を講義する過程で、「行政法Ⅰ」で十分に講義できなかった地方自治体における行政組織及び行政立法について一層理解を深める。地方自治法又は公務員法をめぐって生じる「行政行為」等についても、その学問的概念について改めて理解する。また、「行政法Ⅰ」で不十分にしか講義できなかった客観訴訟の1つである機関訴訟・住民訴訟の判例を素材に地方公務員の地位についても理解を深めたい。春学期の「行政法Ⅰ」を履修して受講することが望ましい。

**【講義計画】**

- 第1回 地方自治の本旨とは、
- 第2回 地方公共団体の種類と区域(1)
- 第3回 地方公共団体の種類と区域(2)
- 第4回 地方公共団体の種類と区域(3)
- 第5回 地方公共団体の住民(1)
- 第6回 地方公共団体の住民(2)
- 第7回 地方公共団体の住民(3)
- 第8回 住民監査請求・住民訴訟(1)
- 第9回 住民監査請求・住民訴訟(2)
- 第10回 普通地方公共団体の事務(1)
- 第11回 普通地方公共団体の事務(2)
- 第12回 普通地方公共団体の立法権(1)
- 第13回 普通地方公共団体の立法権(2)
- 第14回 普通地方公共団体の議会(1)
- 第15回 普通地方公共団体の議会(2)
- 第16回 普通地方公共団体の執行機関(1)
- 第17回 普通地方公共団体の執行機関(2)
- 第18回 長と議会との関係
- 第19回 地方公共団体の財務
- 第20回 人事行政機関(任命権者と人事委員会・公平委員会)
- 第21回 公務員の意義
- 第22回 公務員の種類
- 第23回 労働基本権の制約
- 第24回 政治的行為の禁止
- 第25回 地方公務員法の特例(警察官・消防職員・教員・地方公営企業職員)
- 第26回 公務員の任用
- 第27回 公務員の公務員の懲戒処分・分限処分
- 第28回 公務員の不利益処分に対する争訟制度について

**【成績評価の方法】**

試験 80% レポート 10% 出席 10%  
 毎回チェックペーパーによる出席を採る。

**【教科書】**

ポケット六法(平成22年版)有斐閣  
 毎回持参して受講すること。なお、六法以外の講義のテキストは、こちらで用意する。

**【参考文献】**

講義中に適宜指示する。

## 【講義概要】

昨今「日本語ブーム」とまで言われるほど、日本語関連の書籍や番組が盛況だ。その理由はさまざまであろうが、空気のように常に「そこにある」と思ってきた日本語についてしっかりと考えてみることは必要なことである。この授業ではテーマを決めて日本語を考察し、新たな発見につなげたい。親しすぎる存在である日本語が材料なので、参加学生にも意見を求めていく予定である。

## 【学習目標】

全学部の学生を対象とした授業なので、日本語とそれを取り巻く状況についておおまかに流れを捉えられるようになることを目標とする。身近な題材にも分析の視点を持ってみるができるようになることを目指す。関心を高めるために配布資料や映像資料なども積極的に利用するつもりである。

## 【講義計画】

- 第1回 世界の言語の中の位置づけ（日本語はどんな言語？）（1）
- 第2回 世界の言語の中の位置づけ（2）
- 第3回 日本語の表記について－漢字と仮名（1）
- 第4回 日本語の表記について－漢字と仮名（2）
- 第5回 敬語はむずかしい？
- 第6回 敬語はむずかしい？
- 第7回 「標準語」と「方言」－大阪「弁」って？（1）
- 第8回 「標準語」と「方言」－大阪「弁」って？（2）
- 第9回 男と女の日本語
- 第10回 男と女の日本語
- 第11回 日本人は外国語が下手？
- 第12回 外国人もすなる日本語（1）
- 第13回 外国人もすなる日本語（2）
- 第14回 外来語の氾濫について
- 第15回 多言語社会日本

## 【成績評価の方法】

受講者が多い場合は出席は取らない可能性がある。その場合は学期末試験を最重要視する。試験は授業に参加していれば解答できるような内容と、自分で考える内容の両方を含むものとなる。

## 【講義概要】

人間が社会的動物であることは、誰でも知っている。しかし、人間がどのような社会関係を結び、どのように助け合ってきたのかについては、あまり知られていない。人々の関係は、歴史的に大きく変化してきた。これを簡潔に述べるならば、古代社会は強い血縁関係のもとで、人々の結びつきは強かった。しかし、時代を経るに従って、人々の間の絆は徐々に弱くなってきたとすることができるだろう。そして現在、一つの大きな転換期にある。それは、協同の分岐点とも言えるものである。

## 【学習目標】

この講義では、人間が歴史的にどのような社会を形成しどのように助け合ってきたのかについて、生活保障制度のあり方を中心に学んでいく。そして、将来、どのような協同を形成するのかについて、一人一人に考えてもらう。

## 【講義計画】

- 第1回 主に次のような内容で講義を行う。（順不同）
  1. 競争と協同（自然界における協同を中心に）
  2. 人類史上の転換期としての現代（1）
  3. 人類史上の転換期としての現代（2）
  4. 人類史上の転換期としての現代（3）
  5. 協同の歴史（1）
  6. 協同の歴史（2）
  7. 協同の歴史（3）
  8. 共同体の解体
  9. 新たな共同体の形成（1）
  10. 新たな共同体の形成（2）
  11. 助け合う社会（1）
  12. 助け合う社会（2）
  13. 協同の将来
  14. まとめ
- 第2回 2. 人類史上の転換期としての現代（1）
- 第3回 3. 人類史上の転換期としての現代（2）
- 第4回 4. 人類史上の転換期としての現代（3）
- 第5回 5. 協同の歴史（1）
- 第6回 6. 協同の歴史（2）
- 第7回 7. 協同の歴史（3）
- 第8回 8. 共同体の解体
- 第9回 9. 新たな共同体の形成（1）
- 第10回 10. 新たな共同体の形成（2）
- 第11回 11. 助け合う社会（1）
- 第12回 12. 助け合う社会（2）
- 第13回 13. 協同の将来
- 第14回 14. まとめ

## 【成績評価の方法】

試験による。

## 【参考文献】

適宜指示する。

科目名 クラス 講義区分	
共通教養特別講義－協同社会 02 <秋>	
武田久義	2単位

**【講義概要】**

人間が社会的動物であることは、誰でも知っている。しかし、人間がどのような社会関係を結び、どのように助け合ってきたのかについては、あまり知られていない。人々の関係は、歴史的に大きく変化してきた。これを簡潔に述べるならば、古代社会は強い血縁関係のもとで、人々の結びつきは強かった。しかし、時代を経るに従って、人々の間の絆は徐々に弱くなってきたとすることができる。そして現在、一つの大きな転換期にある。それは、協同の分岐点とも言えるものである。

**【学習目標】**

この講義では、人間が歴史的にどのような社会を形成しどのように助け合ってきたのかについて、生活保障制度のあり方を中心に学んでいく。そして、将来、どのような協同を形成するのかについて、一人一人に考えてもらう。

**【講義計画】**

- 第1回 主に次のような内容で講義を行う。(順不同)  
競争と協同(自然界における協同を中心に)
- 第2回 人類史上の転換期としての現代(1)
- 第3回 人類史上の転換期としての現代(2)
- 第4回 人類史上の転換期としての現代(3)
- 第5回 協同の歴史(1)
- 第6回 協同の歴史(2)
- 第7回 協同の歴史(3)
- 第8回 共同体の解体
- 第9回 新たな共同体の形成(1)
- 第10回 新たな共同体の形成(2)
- 第11回 助け合う社会(1)
- 第12回 助け合う社会(2)
- 第13回 協同の将来
- 第14回 まとめ

**【成績評価の方法】**

試験による。

**【参考文献】**

適宜指示する。

科目名 クラス 講義区分	
共通教養特別講義－水の都ヴェネツィアから学ぶこと <秋>	
和栗珠里	2単位

**【講義概要】**

イタリア東北部に位置するヴェネツィアは、ラグーナ(潟)と呼ばれる浅い海の中に築かれた、世界にも類を見ない水上都市である。ここに誕生したヴェネツィア共和国は、アジアとの貿易で栄え、最盛期にはヨーロッパ随一の富を誇った。また、7世紀末から18世紀末まで1100年間の間、外国に支配されることも革命を経験することもなく、安定した政治体制を維持した。現在のヴェネツィアは、水没の危機にさらされながらも、観光都市として人気が高い。本講座では、この特殊な都市で人々がどのように生きてきたかを見ていく。

**【学習目標】**

我々は、政治・経済・文化から環境問題にいたるまで、さまざまな教訓をヴェネツィアの過去と現在から学ぶことができる。ヴェネツィアは、日本人にとっては遠い異国の町であるが、我々を取り巻く現代世界について考える格好の題材となるだろう。

**【講義計画】**

- 第1回 海の都ヴェネツィア
- 第2回 ヴェネツィアの誕生
- 第3回 水と生きる
- 第4回 環境の保持
- 第5回 有翼の獅子の旗のもとに
- 第6回 東地中海の女王
- 第7回 中世の“資本主義”
- 第8回 中世の“大工場”
- 第9回 異文化の融合と共存(1)
- 第10回 異文化の融合と共存(2)
- 第11回 ヴェネツィア・ルネサンス
- 第12回 観光都市ヴェネツィア
- 第13回 苦難の時代
- 第14回 “ヴェネツィアを救え”

**【成績評価の方法】**

試験 0% レポート 20% 出席 80%

講義をよく聞き、理解することが基本であるので、出席を重視する。毎回の授業の最後に、その日の講義内容と感想をまとめたミニ・レポートを提出させ、それによって出席点をつける。20分以上の遅刻は欠席と同等に扱う。学期末には、自分で選んだテーマにもとづくレポートを課す(要領は授業の中で指示する)。

**【教科書】**

使用しない

**【参考文献】**

ルカ・コルフエライ(中山悦子訳)『図説ヴェネツィア 「水の都」歴史散歩』河出書房新社、2001年。  
ビエロ・ベヴィラックワ(北村暁夫訳)『ヴェネツィアと水 環境と人間の歴史』岩波書店、2008年。

共通自由特別講義 - IT 活用の実際 <春>

藤 間 真

2単位

【講義概要】

IT (Information Technology) とは、コンピュータと通信の技術のことです。よく分からない人は、パソコンとインターネットに象徴されるものだと思います。 (詳細はオリエンテーション時に扱います。)

ITは急速に発展し、私たちの社会に深く根付いてきました。本講義では、各業種でITを活用している皆さんにおいでいただき、最先端の活用状況話をさせていただきます。

また、就職活動を4回生になってから準備したのでは間に合わない一因として、実社会の現状を正しく認識する必要があることを踏まえ、余裕があればどのような人材が実社会に必要なのか、大学でどのような勉強をすることを社会が望むのかについてもお話いただけるようお願いしています。

なお、受講生への連絡は大学のメールを用いるので最低限の操作はできるようになっていることを前提とします。

受講希望者は第一回目のオリエンテーションに出席のこと。

【学習目標】

ITの実際の応用について、最先端の活用状況を、深いレベルで理解し考察することが、本講義の目的です。

副次的な目的として、どのような人材が実社会で必要とされているのか、大学でどのような勉強をすることが実社会で望まれているのかについて、理解を深めることも目的として含んでいます。

【講義計画】

第1回 1回目にオリエンテーション及び基礎知識の講義を行います。

2回目以降に関しては講義計画執筆時(2008年12月)現在交渉中です。

参考の為に過去の類似科目の実績を下表に示す(順不同)。

<題目>

- ・ITの時代の個人的情報処理
- ・IT活用の実際: クリエータの立場から
- ・コンピュータのホスティングサービス
- ・全社的セキュリティ対策
- ・企業経営とIT
- ・製鉄業とIT
- ・メディアにおけるコミュニケーション技術

他

<企業>

新日鐵、IBM、松下、ダイキン、ダイエー、東洋アルミニウム、ファーストサーバー、武田薬品工業、テレビ大阪、NTTドコモモバイル社会研究所

他

尚、講義計画執筆時未定のことについては、担当者のwebサイト (<http://rio.andrew.ac.jp/~tohma/>) で随時公開します。

第2回 講師・演題調整中 (学内の講師を予定)

第3回 講師・演題調整中 (学内の講師を予定)

第4回 講師・演題調整中 (学内の講師を予定)

第5回 講師・演題調整中 (学外の講師を予定)

第6回 講師・演題調整中 (学外の講師を予定)

第7回 講師・演題調整中 (学外の講師を予定)

第8回 講師・演題調整中 (学外の講師を予定)

第9回 講師・演題調整中 (学外の講師を予定)

第10回 講師・演題調整中 (学外の講師を予定)

第11回 講師・演題調整中 (学外の講師を予定)

第12回 講師・演題調整中 (学外の講師を予定)

第13回 講師・演題調整中 (学外の講師を予定)

【成績評価の方法】

出席 100%

出席が100%になっていますが、物理的に出席していれば単位認定するわけではありません。毎回の講義内容を元に執筆するレポートで採点するという意味での「100%」です。

【参考文献】

講義中に指示します。

【備考】

<04~09生>のみ履修可  
インテグレーション科目

共通自由特別講義 - アジアの海域世界を歩く <春>

鈴木 隆 史

2単位

【講義概要】

東南アジアの地図を壁に貼って眺めてみる。ロシアの沿海州、朝鮮半島、中国大陸南部の長い海岸線を経てベトナム、タイ、カンボジアがインドシナ半島へとつながる。シヤム湾から今度は細長いマレー半島が延びる。その先端はシンガポールだ。その海岸線はメコン川河口のデルタから大きくシヤム湾へと入り込み細長いマレー半島へつながる。よくみると複雑に入り組んだ海岸線だけでなく、小さな島々が点在する。九州から南に琉球列島の小さな島の連なりをたどると台湾を経て、フィリピン諸島に至る。大小の島々のつらなりはスル諸島を経てカリマンタン島、スラウェシ島、ニューギニア島へと連なる。この島々の散らばる海域を多島海と呼ぶ。こうした地域に住む人々にとって海は隔たりをうむものではなく、人と物が自由に行き来することができる道であった。またその道にはマラッカ海峡のような幹線もあれば、サンゴ礁の小さな島々を結ぶ道もある。歴史の中ではこうした海の道が重要な役割を果たしている。本講義では、これらの海の道が結ぶネットワーク社会を海域世界と捉え、そこにおける人と物の交流の歴史と今を訪ねる。また、その多様で豊かな社会から私たちの暮らしを見つめなおす。

ビデオやスライドなどのビジュアル教材を用いる。フィールドの中心はインドネシアの島々。

【学習目標】

アジアの海域世界は国家や国境を越えた人やモノの交流が作り上げてきた世界でもある。その世界は伸縮自在。宗教や言語を異にする民族の交流の積み重ねの上に成り立っている。島と島、港と港を結ぶ海の道のネットワークが作り上げた豊かな世界が存在、それは私たちが住む世界ともつながっていることを理解する。

【講義計画】

第1回 アジアの海域世界 地図を広げてみよう

第2回 1) フィリピン諸島 漂流民と海賊

第3回 2) インドネシア 1) ジャワ海

第4回 3) インドネシア 2) マラッカ海峡

第5回 4) インドネシア 3) マルク海

第6回 5) インドネシア 4) パプア周辺

第7回 6) マレーシア サラワク州

第8回 7) ベトナム メコンデルタ

第9回 8) 東ティモール アタウロ島

第10回 人とモノの移動 1) フカヒレ、ナマコ (華人ネットワーク)

第11回 人とモノの移動 2) エビ、カツオ・マグロ (日本商社)

第12回 人とモノの移動 3) 人の移住 (トランスマイグレーション)

第13回 人とモノの移動 4) 国境を越える人とモノ (ブトン人交易網)

第14回 人とモノの移動 5) 島と島を結ぶネットワーク

第15回 レポート作成

【成績評価の方法】

レポート 45% 出席 55%

講義日の最終日にレポートを書く。授業の内容をどの程度把握できたかを知るために行う。授業出席を重視。

【備考】

<04~09生>のみ履修可

科目名 クラス 講義区分	
共通自由特別講義－上方エンタメの発展史 <秋>	
岸本裕一	2単位

#### 【講義概要】

この講義は、「上方エンタメ栄枯盛衰——上方エンタメの現在・過去・未来——」というような性格をもったものである。河合隼雄先生（京都大学名誉教授・元文化庁長官）は関西元気文化圏構想を提唱、「関西から文化力」のロゴの下で、関西の地域力の回復・増進を文化の面から成就させようとする戦略はしたたかそのものであった。その一環として、本講義の主宰者岸本裕一は、2005年「上方の文化・芸術と大阪ブランド」、2006年「食はエンタテイメントだ！ー食の楽しみと食文化の再構築ー」シンポジウムを発案・運営することにより、その戦略の一端を担ってきたものである。2005年のあるパーティの折、2005年のシンポジウムの企画書をご覧いただいた上で、「岸本さん、この方向でがんばってくださいね・・・」と河合先生におっしゃっていただいたのが、今も耳に残っているところである。

ところで、上方とは、江戸時代に、関東から見て、都のある京・大坂を中心とする地域を言う名称である。それと、関西というと、やや広く、近畿2府4県に福井県若狭地方を加えた地域となるのだろう。今回の講義を受講することによって、日本のエンターテインメントのルーツとプライドはすべて関西にあるということがわかつて思う。日本の歴史をみると、日本人の頭の中には、『東の横綱、西の横綱』の言い方に代表されるように、国土にたえず焦点が2つある楕円の構造でもって発展してきた。古いものから新しいものまで、多種多様な学びを踏まえて、今こそ「関西から文化力」運動の向こうに、関西の再生を見据えたい。そして、東京都に次いで、「関西都」実現を展望しよう。

#### 【学習目標】

幅広い教養と文化への認識を深めていただき、社会人として成長していける基礎の1つとしていただきたい。

#### 【講義計画】

- 第1回 この講義の学びどころ—ねらいと構想—  
(この講義はインテグレーション科目である性格上、講師の都合などにより、講義の内容が各回、変更される可能性があることをお含みおきたい。)
- 第2回 Osakan Hot 100 —FM802の理想と戦略
- 第3回 人気長寿番組の作り方
- 第4回 古典芸能 —能楽入門—
- 第5回 上方演劇—現在・過去・未来—
- 第6回 上方のギャンブル史—坂田三吉物語—
- 第7回 ヒット曲にみる関西—歌の三都物語—
- 第8回 「食は関西にあり」くいだおれ太郎奮闘記—
- 第9回 「食は関西にあり」くいだおれ太郎奮闘記—
- 第10回 関西の語り部～桃山の章～
- 第11回 関西大道芸の現在—あなたにもできますう—
- 第12回 関西をスポーツで元気に
- 第13回 関西からコンテンツ力を
- 第14回 (シンポジウム) 関西から文化力そして「関西都」を一

#### 【成績評価の方法】

試験 100%  
定期テストの成績

#### 【教科書】

適宜、資料を提供します。

#### 【参考文献】

必要があれば、指示します。

#### 【備考】

<04～09生>のみ履修可  
インテグレーション科目

科目名 クラス 講義区分	
共通自由特別講義－職業を考える <春>	
中井紀明	2単位

#### 【講義概要】

皆さんは卒業後の就職のことを考えていますか。しっかりとした目標を持っている人、よくわからないけれどそろそろ考えないといけないと思っている人、大学生活が楽しくて就職なんて考えられない人、悩んで迷っている人、いろいろな状況の人がいると思います。しかし、ほとんどの人の場合、卒業・就職後の時間の多くは働くということに関わってきます。すなわち「職業を考える」ことは、これからの生き方を考えることにつながるということです。

本講義では、本学の卒業生を含めて、いくつかの業界の現役の職業人の方に講師として来ていただき、業界の現状、企業組織の特徴、仕事の内容の独自性など、さまざまな体験を講義していただきます。

#### 【学習目標】

講義を通して、働くことの意味やその実態について学び、自分自身のライフプランやキャリアプランを考えてもらうことを学習目標とします。

#### 【講義計画】

- 第1回 オリエンテーション (授業の進め方を説明するとともに、授業を効果的に進めるために受講生が守らなければならないルールを説明します。)
- 第2回 業界の現状、企業組織の特徴、仕事の内容の独自性 (公務員、製菓、製薬、運輸、教育、マスコミ、機械、金融、住宅など) (1)
- 第3回 業界の現状、企業組織の特徴、仕事の内容の独自性 (公務員、製菓、製薬、運輸、教育、マスコミ、機械、金融、住宅など) (2)
- 第4回 業界の現状、企業組織の特徴、仕事の内容の独自性 (公務員、製菓、製薬、運輸、教育、マスコミ、機械、金融、住宅など) (3)
- 第5回 業界の現状、企業組織の特徴、仕事の内容の独自性 (公務員、製菓、製薬、運輸、教育、マスコミ、機械、金融、住宅など) (4)
- 第6回 業界の現状、企業組織の特徴、仕事の内容の独自性 (公務員、製菓、製薬、運輸、教育、マスコミ、機械、金融、住宅など) (5)
- 第7回 業界の現状、企業組織の特徴、仕事の内容の独自性 (公務員、製菓、製薬、運輸、教育、マスコミ、機械、金融、住宅など) (6)
- 第8回 業界の現状、企業組織の特徴、仕事の内容の独自性 (公務員、製菓、製薬、運輸、教育、マスコミ、機械、金融、住宅など) (7)
- 第9回 業界の現状、企業組織の特徴、仕事の内容の独自性 (公務員、製菓、製薬、運輸、教育、マスコミ、機械、金融、住宅など) (8)
- 第10回 業界の現状、企業組織の特徴、仕事の内容の独自性 (公務員、製菓、製薬、運輸、教育、マスコミ、機械、金融、住宅など) (9)
- 第11回 業界の現状、企業組織の特徴、仕事の内容の独自性 (公務員、製菓、製薬、運輸、教育、マスコミ、機械、金融、住宅など) (10)
- 第12回 業界の現状、企業組織の特徴、仕事の内容の独自性 (公務員、製菓、製薬、運輸、教育、マスコミ、機械、金融、住宅など) (11)
- 第13回 業界の現状、企業組織の特徴、仕事の内容の独自性 (公務員、製菓、製薬、運輸、教育、マスコミ、機械、金融、住宅など) (12)
- 第14回 業界の現状、企業組織の特徴、仕事の内容の独自性 (公務員、製菓、製薬、運輸、教育、マスコミ、機械、金融、住宅など) (13)
- 第15回 全体のまとめ (講義を通して、どのようなことを理解し、どのようなことを考えるようになったか、ということをとめます。)

#### 【成績評価の方法】

試験 50% レポート 30% 出席 20%  
出席、レポート、期末試験の総合評価。なお、期末試験として最後にノートを提出してもらいます (コピー不可) ので、毎回講義内容を整理しておくことが求められます。

**【教科書】**

必要に応じて提示する。

**【備考】**

<07生>のみ履修可  
インテグレーション科目

科目名 クラス 講義区分

共通自由特別講義－日本語における言語行動と言語変化 <秋>

村 中 淑 子

2単位

**【講義概要】**

社会言語学的な観点からとらえた方言学を講じる。扱われる多くのものは、ややローカルな地域におけることばのバリエーション（語彙や表現やアクセント等にわたる）である。ことばのバリエーションは人々によってどのように使用されているのか、ことばのバリエーションはどのように変化していくのか、そのしくみを、話し手の意識との関係などを手がかりに考えていく。

**【学習目標】**

日本語の「方言」について考える場合、こんなところにこんな珍しい変わったことばがある、といった捉え方をしがちであるが、そうではなく、1つの言語が生きて動いているありさまをどのようにとらえたら良いか、といった視点から、方言を分析的・体系的に見る目を養うことを目標とする。

**【講義計画】**

- 第1回 地域方言と社会方言
- 第2回 言語変種（属性とことば1）
- 第3回 言語変種（属性とことば2）
- 第4回 言語変種（属性とことば3）
- 第5回 言語変種（場面とことば1）
- 第6回 言語変種（場面とことば2）
- 第7回 言語変種（場面とことば3）
- 第8回 言語行動（ことばの切換え1）
- 第9回 言語行動（ことばの切換え2）
- 第10回 言語変化（音の変化）
- 第11回 言語変化（語彙・文法の変化1）
- 第12回 言語変化（語彙・文法の変化2）
- 第13回 言語意識（ことばとイメージ）
- 第14回 まとめ

**【成績評価の方法】**

試験 50% 出席 50%  
出席点の中には授業中の発表なども含まれる。

**【教科書】**

特定のテキストを順に読んでいくことはしないが、参考文献を用いた発表を課す予定である（受講人数による）。

**【参考文献】**

- 真田信治・渋谷勝己『社会言語学の展望』くろしお出版、2006
- 真田・渋谷・陣内・杉戸『社会言語学』（おうふう）1992
- 真田信治・ダニエルロング『社会言語学図集』（秋山書店）1997
- 真田信治編著『展望 現代の方言』（白帝社）1999
- 井上史雄『方言学の新天地』（明治書院）1994
- 井上史雄『日本語ウォッチング』（岩波書店）1998
- 『朝倉日本語講座9 言語行動』（朝倉書店）2003
- 『朝倉日本語講座10 方言』（朝倉書店）2002

**【備考】**

<04～09生>のみ履修可

か  
行

科目名 クラス 講義区分	
共通自由特別講義－日本社会と社会制度 <秋>	
篠原千佳	2単位

**【講義概要】**

This course is intended to help students gain a basic sociological understanding of Japanese society and social institutions in recent increasing globalization. We will examine the wider social patterns and developments characterizing contemporary Japan through different segments of society and life-courses of the peoples living in Japan. Topics to be covered include socialization, class, ethnicity and diversity, work and family, education, gender issues, community development, aging and death. This course focuses on globalization and diversity as two core elements for sociological studies of Japan.

**【学習目標】**

To learn a variety of sociological topics and social institutions in contemporary Japan

To understand transforming cultures and structures of Japan in globalization

To comprehend social issues around diverse peoples living in Japan

To develop critical thinking skills and theoretical perspectives on Japanese society

**【講義計画】**

- 第1回 Introduction
- 第2回 Sociology of Japan: Theory and Methods
- 第3回 Culture and Everyday Life
- 第4回 Socialization and the Life Course
- 第5回 Education
- 第6回 Social Stratification
- 第7回 Crime and Deviance
- 第8回 Work, Family, and Gender
- 第9回 Ethnicity and Race
- 第10回 Politics and Economy
- 第11回 Health and Sexuality
- 第12回 Civil Society and Social Movements
- 第13回 Conclusion
- 第14回 Final Exam

**【成績評価の方法】**

試験 40% レポート 30% 出席 30%

Attendance & Participation (30%) = your attendance and in-class assignments participation

**【教科書】**

Sugimoto, Yoshio An Introduction to Japanese Society (2nd Edition) Cambridge Univ. Press

Additional reading materials will be provided in class.

**【備考】**

英語による講義です。

科目名 クラス 講義区分	
共通自由特別講義－日本の村落社会と祭祀組織 <春>	
大野啓	2単位

**【講義概要】**

かつて、日本の社会は「村社会」と呼ばれることがあった。これは、社会の内部への親密性と外部への排他性の高さ由来するものと考えられる。そこで、本講では村落社会にどのような特徴があるのかについて、各地の祭礼と祭礼を支える組織が村落の中でどのように機能しているのかについてみていく。

**【学習目標】**

祭祀組織から村落をみてゆくとどのような日本の社会像がみえるのかを理解し、現在の社会とどのような関係を有しているのかについて受講生が考えること。

**【講義計画】**

- 第1回 ガイダンス
- 第2回 奈良の大柳生の祭礼と村落社会①
- 第3回 奈良の大柳生の祭礼と村落社会②
- 第4回 奈良の大柳生の祭礼と村落社会③
- 第5回 近江湖東の祭礼と村落社会①
- 第6回 近江湖東の祭礼と村落社会②
- 第7回 近江湖東の祭礼と村落社会③
- 第8回 和泉の宮座と村落社会①
- 第9回 和泉の宮座と村落社会②
- 第10回 和泉の宮座と村落社会③
- 第11回 丹波の祭礼と村落社会①
- 第12回 丹波の祭礼と村落社会②
- 第13回 丹波の祭礼と村落社会③
- 第14回 まとめ
- 第15回 予備日

**【成績評価の方法】**

試験 100%

**【備考】**

<04～09生>のみ履修可



## 【講義概要】

“Anime” (Japanese Animation) has become popular worldwide in recent years, and Miyazaki Hayao ranks among the most interesting and acclaimed directors because of the originality of his works.

This course will look at a number of Miyazaki's movies including “My Neighbor Totoro”, “Princess Mononoke”, and “Spirited Away” from various angles. In addition to Miyazaki's works, other Japanese anime movies will also be taken up, the history of Japanese animation will be surveyed, and a comparison will be attempted with animated movies outside Japan including those of the Disney company, which are the most widely known.

## 【学習目標】

By focusing on a specific theme and work each time, the lectures will undertake a detailed study of Miyazaki Anime. The course will not only examine the contents of the various works, but will also take up such topics as the historical background to the movies, the critical evaluation they received, and the reaction of audiences worldwide.

Movies examined will include:

○ “Nausicaä of the Valley of the Wind”, “My Neighbor Totoro”, “Princess Mononoke”, “Spirited Away” etc...

○ Other Anime Productions: “Haku-ja den”, “Akira”, “GHOST IN THE SHELL”, “Pokemon”, etc.

## 【講義計画】

第1回 Introduction of the lectures

第2回 Introduction of the lectures

第3回 Starting point of Miyazaki Hayao①

第4回 Starting point of Miyazaki Hayao①

第5回 Starting point of Miyazaki Hayao②

第6回 Starting point of Miyazaki Hayao②

第7回 Starting point of Miyazaki Hayao③

第8回 Starting point of Miyazaki Hayao③

第9回 History of Japanese Anime①

第10回 History of Japanese Anime①

第11回 History of Japanese Anime②

第12回 History of Japanese Anime②

第13回 History of Japanese Anime③

第14回 History of Japanese Anime③

第15回 Miyazaki Hayao's Location Scouting in Europe①

第16回 Miyazaki Hayao's Location Scouting in Europe①

第17回 Miyazaki Hayao's Location Scouting in Europe②

第18回 Miyazaki Hayao's Location Scouting in Europe②

第19回 Japanese Culture in Miyazaki's Anime①

第20回 Japanese Culture in Miyazaki's Anime①

第21回 Japanese Culture in Miyazaki's Anime②

第22回 Japanese Culture in Miyazaki's Anime②

第23回 Japanese Culture in Miyazaki's Anime③

第24回 Japanese Culture in Miyazaki's Anime③

第25回 Japanese Culture in Miyazaki's Anime④

第26回 Japanese Culture in Miyazaki's Anime④

第27回 Review①

第28回 Review①

第29回 Review②

第30回 Review②

## 【成績評価の方法】

Attendance+Term paper and Final examination(in English)

## 【教科書】

There will be no textbook. Readings will be introduced during the course.

## 【参考文献】

Helen McCarthy: Hayao Miyazaki: Master of Japanese Animation: Films, Themes, Artistry (1999)

## 【備考】

出席カード、提出レポート、および試験はすべて英語で書いてもらいます。

<04~08生>のみ履修可

英語による講義です。

## 【講義概要】

“Anime” (Japanese Animation) has become popular worldwide in recent years, and Miyazaki Hayao ranks among the most interesting and acclaimed directors because of the originality of his works.

This course will look at a number of Miyazaki's movies including “My Neighbor Totoro”, “Princess Mononoke”, and “Spirited Away” from various angles. In addition to Miyazaki's works, other Japanese anime movies will also be taken up, the history of Japanese animation will be surveyed, and a comparison will be attempted with animated movies outside Japan including those of the Disney company, which are the most widely known.

## 【学習目標】

By focusing on a specific theme and work each time, the lectures will undertake a detailed study of Miyazaki Anime. The course will not only examine the contents of the various works, but will also take up such topics as the historical background to the movies, the critical evaluation they received, and the reaction of audiences worldwide.

Movies examined will include:

○ Miyazaki Works: “Nausicaä of the Valley of the Wind”, “My Neighbor Totoro”, “Princess Mononoke”, “Spirited Away” etc ...

○ Other Anime Productions: “Haku-ja den”, “Akira”, “GHOST IN THE SHELL”, “Pokemon”, etc.

## 【講義計画】

第1回 Introduction of the lectures

第2回 Introduction of the lectures

第3回 Starting point of Miyazaki Hayao①

第4回 Starting point of Miyazaki Hayao①

第5回 Starting point of Miyazaki Hayao②

第6回 Starting point of Miyazaki Hayao②

第7回 Starting point of Miyazaki Hayao③

第8回 Starting point of Miyazaki Hayao③

第9回 History of Japanese Anime①

第10回 History of Japanese Anime①

第11回 History of Japanese Anime②

第12回 History of Japanese Anime②

第13回 History of Japanese Anime③

第14回 History of Japanese Anime③

第15回 Miyazaki Hayao's Location Scouting in Europe①

第16回 Miyazaki Hayao's Location Scouting in Europe①

第17回 Miyazaki Hayao's Location Scouting in Europe②

第18回 Miyazaki Hayao's Location Scouting in Europe②

第19回 Japanese Culture in Miyazaki's Anime①

第20回 Japanese Culture in Miyazaki's Anime①

第21回 Japanese Culture in Miyazaki's Anime②

第22回 Japanese Culture in Miyazaki's Anime②

第23回 Japanese Culture in Miyazaki's Anime③

第24回 Japanese Culture in Miyazaki's Anime③

第25回 Japanese Culture in Miyazaki's Anime④

第26回 Japanese Culture in Miyazaki's Anime④

第27回 Review①

第28回 Review①

第29回 Review②

第30回 Review②

## 【成績評価の方法】

Attendance+Term paper and Final examination(in English)

## 【教科書】

There will be no textbook. Readings will be introduced during the course.

## 【参考文献】

Helen McCarthy: Hayao Miyazaki: Master of Japanese Animation: Films, Themes, Artistry (1999)

## 【備考】

出席カード、提出レポート、および試験はすべて英語で書いてもらいます。

<04~08生>のみ履修可

英語による講義です。

科目名 クラス 講義区分	
キリスト教音楽Ⅰ <春>	
松原晴美	2単位

**【講義概要】**

この授業は、英国国教会に属する本学のキリスト教精神を理解するため、音楽を通しキリスト教に触れることを目的とします。音楽の根底には、キリスト教の影響が存分にみられ、時代別（グレゴリオ聖歌から現代まで）、ジャンル別（ミサ曲、英国アンセム、プロテスタントのコラール、テゼ・アイオナ共同体、黒人霊歌、カンタータ等）に学ぶことで、想像力を養います。毎回の授業で鑑賞、または歌い、実際に音楽に触れる体験学習です。なお受講にあたっては、楽譜が読めることが望ましい。

**【学習目標】**

音楽を通し実際に体験することで、キリスト教の理解を深めます。

**【講義計画】**

- 第1回 グレゴリオ聖歌(1)～導入・オリジナルから現代の編曲までの比較～
- 第2回 グレゴリオ聖歌(2) ～歴史・ネウマの成り立ち～
- 第3回 典礼と音楽（イースター）
- 第4回 ミサの成り立ち(1)
- 第5回 ミサの成り立ち(2)
- 第6回 イギリス（国教会）の音楽（アンセム）
- 第7回 ドイツ語圏の音楽（プロテスタント・コラール）
- 第8回 典礼と音楽（ペンテコステ）
- 第9回 中世（ポリフォニー）とルネッサンス（ミサ曲・モテット）
- 第10回 古典期
- 第11回 バロック期（カンタータ）
- 第12回 ロマン派
- 第13回 テゼ・アイオナ共同体
- 第14回 黒人霊歌（ゴスペル）
- 第15回 試験

**【成績評価の方法】**

試験 60% 出席 40%  
（出席40%）コメントカードを評価の対象とします。

**【教科書】**

毎回プリントを配布

**【備考】**

<08生>のみ履修可

科目名 クラス 講義区分	
キリスト教音楽Ⅱ <秋>	
松原晴美	2単位

**【講義概要】**

この授業は、英国国教会に属する本学のキリスト教精神を理解するため、音楽を通しキリスト教に触れることを目的とします。音楽の根底には、キリスト教の影響が存分にみられ、時代別（グレゴリオ聖歌から現代まで）、ジャンル別（ミサ曲、英国アンセム、プロテスタントのコラール、テゼ・アイオナ共同体、黒人霊歌、カンタータ等）に学ぶことで、想像力を養います。毎回の授業で鑑賞、または歌い、実際に音楽に触れる体験学習です。なお受講にあたっては、楽譜が読めることが望ましい。

**【学習目標】**

音楽を通し実際に体験することで、キリスト教の理解を深めます。

**【講義計画】**

- 第1回 グレゴリオ聖歌(1)～導入・オリジナルから現代の編曲までの比較～
- 第2回 グレゴリオ聖歌(2) ～歴史・ネウマの成り立ち～
- 第3回 ミサの成り立ち(1)
- 第4回 ミサの成り立ち(2)
- 第5回 イギリス（国教会）の音楽（アンセム）
- 第6回 ドイツ語圏の音楽（プロテスタント・コラール）
- 第7回 中世（ポリフォニー）とルネッサンス（ミサ曲・モテット）
- 第8回 古典期
- 第9回 典礼と音楽（クリスマス）
- 第10回 バロック期（カンタータ）
- 第11回 ロマン派
- 第12回 テゼ・アイオナ共同体
- 第13回 黒人霊歌（ゴスペル）
- 第14回 典礼と音楽（受難）
- 第15回 試験

**【成績評価の方法】**

試験 60% 出席 40%  
（出席40%）コメントカードを評価の対象とします。

**【教科書】**

毎回プリント配布

**【備考】**

<08生>のみ履修可

科目名 クラス 講義区分

キリスト教学 <春集>

滝澤 武人

4単位

#### 【講義概要】

イエスという一人の偉大な人間の生きていた姿を学問的・歴史的に追い求めていくことがこの講義の概要です。私の著書『イエスの現場』に基づき講義する予定です。なお、世界市民—キリスト教I—という私の科目はキリスト教やイエスへの入門であり、この科目はそのイエス理解をさらに深めていくものです。もちろん、この科目だけを受講してもまったく問題はありません。

イエスはまさしく「現場の人」でした。さまざまな現場へと出て行き、さまざまな人々と出会い、さまざまな活動を展開しました。イエスの仲間となったのは、その時代の「貧しい者」「小さい者」「弱い者」「罪ある者」「穢れた者」たち、すなわち、社会の最下層・最底辺で苦しんでいた人々でした。

イエスの有名な言葉のほとんどすべてが、そのような「貧困と差別」「病気と飢餓」「差別と抑圧」という厳しい現場の中から語られたものなのです。「求めよ、さらば与えられん！」も「右の頬を打たれたら、左の頬も向けよ！」も「汝の敵を愛せよ！」も、すべてそのような発言です。現場におけるきわめて現実的な発言であったからこそ、2000年の時を隔ててもなお、驚くほど新鮮で豊かな感動と生命力が宿っているのでしょう。イエスの言葉は現代でも生きているのです。

#### 【学習目標】

イエスを学問的・歴史的に追求するためには、かなり複雑で慎重な手続きをふまねなければなりません。はたしてどれが本当のイエスの言葉なのか、それらがどのような状況の中で誰に向かってどういう意図で語られたものなのか、しっかりと判断しなければなりません。それによって自分自身のイエス像をつくりあげてほしいと思います。

世界の古典中の古典である聖書と偉人中の偉人であるイエスと真正面から格闘することによって、得るところもきっと大きいと思います。そこから「世界の市民」への道にも結びつくでしょう。真面目な学生諸君の熱心でねばり強い受講を大いに期待しています。もちろん、「信仰」の有無とはまったく関係なく、誰でも自由に受講できます。

#### 【講義計画】

第1回

課題と方法

第2回 山上の説教

第3回 ビデオ(1)

第4回 乞食(1)

第5回 〃 (2)

第6回 〃 (3)

第7回 貧困・飢餓・穢れ(1)

第8回 〃 (2)

第9回 病気・障害・悪霊(1)

第10回 〃 (2)

第11回 罪人・悪人・盗賊(1)

第12回 〃 (2)

第13回 徴税人・娼婦・日雇い・奴隷(1)

第14回 〃 (2)

第15回 ビデオ(2)

第16回 異邦人・サマリア人・ガリラヤ人(1)

第17回 〃 (2)

第18回 離縁・姦通・寡婦・子供(1)

第19回 〃 (2)

第20回 神の国・闘い(1)

第21回 〃 (2)

第22回 〃 (3)

第23回 受難物語(1)

第24回 〃 (2)

第25回 復活物語

第26回 誕生物語

第27回 イエスのように！

第28回 ビデオ(3)

#### 【成績評価の方法】

試験 85% レポート 15% 出席 0%

レポートは3回の予定です。(各5点)

最初の授業で説明しますので、必ず出席してください。

#### 【教科書】

滝澤武人 『イエスの現場～苦しみの共有』世界思想社  
ギデオン協会版『新約聖書』をキリスト教センターで配布予定です。

#### 【参考文献】

荒井 献 『イエスとその時代』岩波新書  
田川建三 『イエスという男』作品社  
大貫 隆 『イエスという経験』岩波書店  
滝澤武人 『人間イエス』講談社現代新書(品切れ)

か  
行

科目名	クラス	講義区分
キリスト教史 <秋集>		
伊藤 高章	4単位	

#### 【講義概要】

キリスト教との関わりで展開された人類の歴史について概観する。特に、その制度の展開、聖典の役割、文化との関係を中心テーマとする。これらを通して、現代世界が抱える諸課題にキリスト教がどのように取り組む可能性があるのかを探る。導入に、ダン・ブラウン著『ダ・ヴィンチ・コード』を用いる。

#### 【学習目標】

- 1) キリスト教の大きな流れを理解する。
- 2) キリスト教を事例として、人間の宗教性について理解する。
- 3) キリスト教徒の関連で展開している人類文化についての理解を深める。

#### 【講義計画】

- 第1回 授業の進め方：課題、評価基準、用語  
 第2回 歴史の学びかた1  
 第3回 歴史の学びかた2  
 第4回 歴史の学びかた3  
 第5回 イエス1  
 第6回 イエス2  
 第7回 初代教会1：信仰  
 第8回 初代教会2：礼拝  
 第9回 キリスト教の国教化  
 第10回 西ローマ帝国の宣教  
 第11回 ヨーロッパ社会のキリスト教  
 第12回 中世のキリスト教  
 第13回 神秘主義  
 第14回 ルネサンス  
 第15回 宗教改革1  
 第16回 宗教改革2  
 第17回 英国教会  
 第18回 キリスト教と産業革命  
 第19回 キリスト教と海外宣教  
 第20回 宗教と現実社会  
 第21回 諸宗教とキリスト教：ユダヤ教  
 第22回 諸宗教とキリスト教：イスラーム  
 第23回 諸宗教とキリスト教：仏教  
 第24回 宗教とスピリチュアリティ1  
 第25回 宗教とスピリチュアリティ2  
 第26回 キリスト教の国家観とその歴史  
 第27回 キリスト教の福祉観とその歴史  
 第28回 キリスト教の戦争観とその歴史  
 第29回 質疑  
 第30回 総合ディスカッション

#### 【成績評価の方法】

試験 25% レポート 75%  
 ただし、出席回数（欠席レポートによる make up 換算後）24回に達しない者は、成績評価対象とならない。

#### 【教科書】

聖書 日本聖書協会

科目名	クラス	講義区分
銀行論 <秋集>		
中野 瑞彦	4単位	

#### 【講義概要】

銀行の基本的な機能を理解したうえで、経済社会における銀行の役割を歴史的かつ実証的に学習する。規制金利体系下の銀行行動と金融自由化後の銀行行動の比較を通して、実際の銀行機能を理解する。また、バブル崩壊後の金融危機時における銀行機能の麻痺状況について、金融行政の対応を中心に学習する。なお、近年の金融市場におけるリスクに対する認識の高まりに鑑み、金融におけるリスクについても学習する。

更に、今後の金融システムを展望すべく、銀行を取り巻くさまざまな問題について学習する。具体的には、金融コングロメリット化の問題、地域金融問題、中小企業金融問題などについて学習する。また、銀行の海外での活動について外国銀行と比較検討しながら学習する。

#### 【学習目標】

- 受講者の学習目標として、以下の三点を設定している。金融機能の中核として銀行が社会の中でどのような位置づけを占めているのかを理解してほしい。
- ①銀行の基本的な機能の理解
  - ②銀行が経済社会とのつながりと経済社会で果たしている役割の理解
  - ③時代の変化と銀行機能の変化の理解

#### 【講義計画】

- 第1回 第1章 概論  
 1. 金融論と銀行論の相違点  
 第2回 2. 通貨、マネーの意味  
 第3回 第2章 日本の銀行制度  
 3. 日本の銀行制度（銀行法）  
 第4回 4. 日本の金融市場と銀行の組織  
 第5回 5. 受信業務（預金の受け入れ）  
 第6回 6. 決済・為替業務（手形・小切手）  
 第7回 7. 与信業務  
 第8回 8. 国際業務  
 第9回 9. 金融自由化以前の銀行システム  
 第10回 10. 金融自由化の意味（目的、狙い）  
 第11回 11. 金融自由化後の銀行システム（不良債権の発生）  
 第12回 第3章 ファイナンス  
 12. 金融商品のリスクの考え方  
 第13回 13. 金融商品のリスクとは何か  
 第14回 14. 金融商品の価値  
 第15回 15. キャッシュフロー・モデル  
 第16回 16. リスク・マネジメント  
 第17回 17. バランス・シート問題  
 第18回 第4章 銀行を巡る諸問題  
 18. 不良債権問題の発生  
 第19回 19. 銀行破綻の経緯  
 第20回 20. 自己資本比率規制  
 第21回 21. 金融監督行政の変化と自己査定制度  
 第22回 22. 金融改革プログラムの目的と銀行の対応  
 第23回 23. 地域金融機関の経営問題  
 第24回 24. 産業再生—金融と事業再生の関わり  
 第25回 第5章 金融機能の変化と分化  
 25. リレーションシップ・バンキング  
 第26回 26. 多国籍銀行の展開  
 第27回 27. 市場型間接金融への移行  
 第28回 28. 新しい金融手法  
 第29回 29. 期末テスト

#### 【成績評価の方法】

試験 100% レポート 0% 出席 0%  
 小テスト 6回 各5点 計30点  
 期末テスト1回 70点  
 合計 100点

#### 【教科書】

プリントを配布する

#### 【参考文献】

- 鹿野 嘉昭「日本の金融制度」（東洋経済新報社）  
 西村 吉正「日本の金融制度改革」（東洋経済新報社）  
 津田 和夫「現代銀行論入門」（経済法令研究会）  
 堀内 昭義「日本経済と金融危機」（岩波書店）

科目名 クラス 講義区分

金融論 <春集>

木村 二郎

4単位

【講義概要】

サブプライム問題と金融危機、投資銀行モデル崩壊、金融政策と景気動向、電子マネーなど、貨幣・金融に関するニュースを絶えず私たちは見聞きする。私たちが生活している現代の経済社会を理解する際に、貨幣・金融に関する知識や理論は必要不可欠である。この講義では、貨幣・金融に関する基礎理論、金融政策と現代経済、金融不安定性と実物経済を3つの柱にして解説していく。貨幣・金融に関する理論・政策・制度・歴史を日本経済と世界経済の新しい動向を踏まえて、出来るだけ分かりやすく講義する予定である。特に、本年度は、米国を震源とする世界的な金融危機・実物経済不況の現状に重点を置いて解明していきたい。

なお、諸事情（受講者の理解度など）により授業計画を変更する場合があります。

【学習目標】

学習目標は、新聞・テレビなどの経済ニュースが簡単に理解できるような金融に関する基礎学力を養い、金融経済社会についての見識を持てるようになることである。

【講義計画】

- 第1回 金融とは
- 第2回 貨幣
- 第3回 直接金融と間接金融
- 第4回 決済システム1
- 第5回 決済システム2
- 第6回 銀行と信用創造1
- 第7回 銀行と信用創造2
- 第8回 企業と金融1
- 第9回 企業と金融2
- 第10回 消費者と金融
- 第11回 金融市場と金融資産
- 第12回 擬制資本とデリバティブ
- 第13回 景気と金融1
- 第14回 景気と金融2
- 第15回 国債膨張と金融
- 第16回 中央銀行と金融政策
- 第17回 金融経済の現状と金融政策：歴史的展望
- 第18回 高度成長から低成長への転換と金融政策
- 第19回 1980年代バブル期の金融政策
- 第20回 平成不況期の金融政策1：超低金利政策への展開
- 第21回 平成不況期の金融政策2：ゼロ金利政策
- 第22回 平成不況期の金融政策3：量的緩和政策
- 第23回 米国住宅バブルと超低金利政策
- 第24回 サブプライムローン問題と証券化商品
- 第25回 米国発世界金融危機の展開と金融政策の協調
- 第26回 金融危機から実物経済大不況へ
- 第27回 金融の不安定性と規制・監督
- 第28回 まとめ

【成績評価の方法】

学年末試験を基本に据えたうえで、授業時間に実施する小テストを加味して総合的に評価する。

【教科書】

川波洋一・上川孝夫編 現代金融論 有斐閣

【参考文献】

関根猪一郎・木村二郎・大畠重衛・小西一雄著『金融論』青木書店、2000年。  
日本銀行金融研究所編『新しい日本銀行：その機能と業務』有斐閣、2004年。  
二橋規宏他『ゼミナール日本経済入門（2009年度版）』日本経済新聞社、2009年。

科目名 クラス 講義区分

ケアマネジメント <春>

川井 太加子

2単位

【講義概要】

利用者の自立支援に向けた目標指向型プランについて、要介護等高齢者の機関、在宅で活用されているチャートを利用して、ケアマネジメントの手法や過程を、講義・演習を交えて学習する。事例については、実践現場で活躍されている専門職を招いて具体的なケアマネジメントについて学ぶ。

【学習目標】

ケアを必要とする人々のニーズと利用できる社会資源とを結びつけるケアマネジメントの理念と基礎知識について理解する。  
ケアマネジメントの具体的な展開方法について理解する。  
ケアマネジメントに必要な保健・医療・福祉職間の連携のあり方について理解する。

【講義計画】

- 第1回 オリエンテーション ケアマネジメントとは
- 第2回 ケアマネジメントの概要(1)
- 第3回 ケアマネジメントの概要(2)
- 第4回 ケアマネジメントの概要(3)
- 第5回 ケアマネジメントとニーズ
- 第6回 ケアマネジメントと社会資源
- 第7回 ケアマネジメントと多職種連携(1)
- 第8回 ケアマネジメントと多職種連携(2)
- 第9回 ケア会議の持ち方
- 第10回 ケアマネジメントとソーシャルワーク
- 第11回 対象別ケアマネジメント  
介護保険とケアマネジメント(1)
- 第12回 介護保険とケアマネジメント(2)
- 第13回 障害者領域におけるケアマネジメント
- 第14回 振り返り
- 第15回 テスト

【成績評価の方法】

試験 30% レポート 30% 出席 40%  
授業への参加度、出席、テストにより総合的に評価する。

科目名 クラス 講義区分	
経営学 01 <春集>	
谷 武 幸	4 単位

**【講義概要】**

企業とは何か、経営学とは何かを大筋で説明したのちに、経営学の主要領域を概説します。

**【学習目標】**

皆さんは経営学を学ぶのは初めてです。しかし、企業を抜きにしては経済社会を語れませんので、本講義では企業とその経営を知る上で最低限の知識の習得を目指します。

**【講義計画】**

- 第1回 企業経営の全体像(1)
- 第2回 企業経営の全体像(2)
- 第3回 経営学の全体像
- 第4回 株式会社の仕組み(1)
- 第5回 株式会社の仕組み(2)
- 第6回 日本の雇用制度の仕組み(1)
- 第7回 日本の雇用制度の仕組み(2)
- 第8回 経営理念と経営哲学
- 第9回 競争戦略のマネジメント(1)
- 第10回 競争戦略のマネジメント(2)
- 第11回 多角化戦略のマネジメント
- 第12回 M & Aのマネジメント
- 第13回 組織構造のマネジメント(1)
- 第14回 組織構造のマネジメント(2)
- 第15回 PDCAサイクルのマネジメント
- 第16回 長期経営計画
- 第17回 戦略マップ
- 第18回 国際化のマネジメント(1)
- 第19回 国際化のマネジメント(2)
- 第20回 モチベーションのマネジメント(1)
- 第21回 モチベーションのマネジメント(2)
- 第22回 キャリアデザイン(1)
- 第23回 キャリアデザイン(2)
- 第24回 情報システムと事業の仕組み(1)
- 第25回 情報システムと事業の仕組み(2)
- 第26回 コーポレートファイナンス(1)
- 第27回 コーポレートファイナンス(2)
- 第28回 コーポレートファイナンス(3)

**【成績評価の方法】**

試験 100%

**【教科書】**

加護野忠男・吉村典久 1からの経営学 碩学舎

科目名 クラス 講義区分	
経営学 02 <秋集>	
信 夫 千佳子	4 単位

**【講義概要】**

経済学が経済のマクロ現象を扱うのに対して、経営学は経済を構成する個別経済単位である企業を対象としている。企業は、物財またはサービス財を生産する経済単位をなし、営利を目的とする独立的なものであるが、近年は、非営利組織も経営学の対象とされている。

経営は、一定の目的を達成しようとする合目的な意思決定過程という主体的要素、人間の意志決定を制約する経営構造からなっている。この内部構造は、経営の基礎的分野として扱い、その管理は、意思決定の過程や構造を対象とするものである。

**【学習目標】**

企業の仕組みや運営について理解し、将来社会人として活躍するための基礎的素養として修得することを目標としている。

講義では、企業経営の全体像を説明した後に、このような個別分野—経営戦略、組織構造、生産管理、人事管理、経営情報システムなど—の経営理論を随時紹介し、企業経営に関する課題を取り上げて考察する。

**【講義計画】**

- 第1回 授業の進め方
- 第2回 経営学とは何か
- 第3回 企業の仕組み(1)
- 第4回 企業の仕組み(2)
- 第5回 日本的経営(1)
- 第6回 日本的経営(2)
- 第7回 経営戦略(1)
- 第8回 経営戦略(2)
- 第9回 M&A(1)
- 第10回 M&A(2)
- 第11回 国際経営(1)
- 第12回 国際経営(2)
- 第13回 組織構造(1)
- 第14回 組織構造(2)
- 第15回 人的資源管理(1)
- 第16回 人的資源管理(2)
- 第17回 中間試験または課題レポート、小括
- 第18回 キャリア・デザイン(1)
- 第19回 キャリア・デザイン(2)
- 第20回 経営と情報システム(1)
- 第21回 経営と情報システム(2)
- 第22回 事業の創造
- 第23回 事業の再生
- 第24回 市場の創造
- 第25回 市場と事業
- 第26回 経営と倫理
- 第27回 経営の課題を考察する
- 第28回 経営の課題を考察する
- 第29回 経営の課題を考察する
- 第30回 総括

**【成績評価の方法】**

試験 50% レポート 50%

授業に貢献する有意義な意見や質問を述べた学生は、別途、最大9%まで加点する。

\*11月に中間試験またはレポート(受講生の人数や進捗状況によって決定する)を実施するので、その前に案内を掲示する。

\*レポートは50%であるので、必ず期限内に提出してください。(レポートの課題や期限は、掲示する。)

**【教科書】**

加護野忠男・吉村典久 1からの経営学 中央経済社

**【参考文献】**

追って紹介する。

科目名 クラス 講義区分	
経営学基礎 01 <秋>	
今 木 秀 和	2 単位

**【講義概要】**

経営学では、どのような内容を学ぶのでしょうか。履修要項にはさまざまな経営学関連の科目が並んでいます。しかし、それぞれの科目がどのような学習内容を含んでいるのか、初めての人にはなかなかわかりづらい事が多いと思われます。

そこでこの講義では、経営学部で開設されている諸科目のうち、経営学・商学科目の主な内容を、かいつまんで易しく解説し、大まかなイメージを持てるようにします。それとともに、経営学部でどのような勉強をしていけば将来どのような職業に就くのに有利になるのか、また、ある特定の職業に就くためにはどのような科目をとって系統的に勉強していけばよいのか、という点についてもガイドします。

**【学習目標】**

この講義を履修し終わった人が、1年後期（第2 Semester）から自覚をもって、みずからの判断で積極的なキャリア形成（将来めざす仕事に向けた能力・経歴形成）を進めていけるように学習方向をサポートするのが、この講義の主な目標です。

**【講義計画】**

- 第1回 配付資料に従って、概ねその順に講義を進めます。講義には必ず出席して、よく注意して聴き、ノートをとる癖をつけてください。
1. 経営学、商学とはどんな学問かー全体的見取り図（経営学総論、経営学史、経営史、商学の主な内容）
  - 第2回 2. 会社の仕組みはどのようにになっているのかー企業論
  - 第3回 3. 会社や組織はどのようにして運営されているのかー経営管理論（1）
  - 第4回 4. 会社や組織はどのようにして運営されているのかー経営管理論（2）
  - 第5回 5. ヒトをどのように雇い・使うか、会社と従業員がともにハッピーになるにはどのようにしたらよいかー経営労務論
  - 第6回 6. 会社ではどのようにしてモノを作っているのかー生産管理論
  - 第7回 7. 商品流通の仕組みと販売についてー流通論、マーケティング論
  - 第8回 8. 会社はおカネをどう集め・どのように運用しているのかー経営財務論
  - 第9回 9. 保険制度・証券市場の仕組みと保険業・証券業についてー保険論、証券論
  - 第10回 10. 国際化時代の会社はどう変わってきているのかー国際経営論、異文化間コミュニケーション論
  - 第11回 11. 中小企業の直面する問題と起業家についてー中小企業論
  - 第12回 12. 組織の個性・品性・文化と社会的責任のあり方についてー組織倫理学
  - 第13回 13. 大学院レベルの高度な授業に挑戦しようー環太平洋圏経営研究、日本経営論研究
  - 第14回 14. 就職活動、キャリア形成は入学時から始まっているー経営学部卒が有利な職業の紹介、学科履修との関連づけ、キャリアセンター職員の話をお聴き
  - 第15回 15. 自分のライフプランと今後の学習計画を立ててみよう

**【成績評価の方法】**

- ①期末テストの結果
  - ②講義中に随時指示するレポート
  - ③出席状況
- などによる総合評価とします。

**【教科書】**

テキストは使用しませんが、補助テキストとして本学経営学部において開設されているいくつかの科目の概要をまとめた資料がありますので、最初の時間にそれを配布します。

**【参考文献】**

適宜指示します。  
なお、特に指定はしませんが、ポータブルな（携帯できる小さな）経営学関係の辞典をいつも手元に持っていることを薦めます。授業のときに必要に応じてひいてみるほか、平日頃から隙間時間を利用して、どの用語からでも手当たり次第に読んでください。

科目名 クラス 講義区分	
経営学基礎 02 <秋>	
今 木 秀 和	2 単位

**【講義概要】**

経営学では、どのような内容を学ぶのでしょうか。履修要項にはさまざまな経営学関連の科目が並んでいます。しかし、それぞれの科目がどのような学習内容を含んでいるのか、初めての人にはなかなかわかりづらい事が多いと思われます。

そこでこの講義では、経営学部で開設されている諸科目のうち、経営学・商学関係科目の主な内容を、かいつまんで易しく解説し、大まかなイメージを持てるようにします。それとともに、経営学部でどのような勉強をしていけば将来どのような職業に就くのに有利になるのか、また、ある特定の職業に就くためにはどのような科目をとって系統的に勉強していけばよいのか、という点についてもガイドします。

**【学習目標】**

この講義を履修し終わった人が、1年後期（第2 Semester）から自覚をもって、みずからの判断で積極的なキャリア形成（将来めざす仕事に向けた能力・経歴形成）を進めていけるように学習方向をサポートするのが、この講義の主な目標です。

**【講義計画】**

- 第1回 配付資料に従って、概ねその順に講義を進めます。講義には必ず出席して、よく注意して聴き、ノートをとる癖をつけてください。
1. 経営学、商学とはどんな学問かー全体的見取り図（経営学総論、経営学史、経営史、商学の主な内容）
  - 第2回 2. 会社の仕組みはどのようにになっているのかー企業論
  - 第3回 3. 会社や組織はどのようにして運営されているのかー経営管理論（1）
  - 第4回 4. 会社や組織はどのようにして運営されているのかー経営管理論（2）
  - 第5回 5. ヒトをどのように雇い・使うか、会社と従業員がともにハッピーになるにはどのようにしたらよいかー経営労務論
  - 第6回 6. 会社ではどのようにしてモノを作っているのかー生産管理論
  - 第7回 7. 商品流通の仕組みと販売についてー流通論、マーケティング論
  - 第8回 8. 会社はおカネをどう集め・どのように運用しているのかー経営財務論
  - 第9回 9. 保険制度・証券市場の仕組みと保険業・証券業についてー保険論、証券論
  - 第10回 10. 国際化時代の会社はどう変わってきているのかー国際経営論、異文化間コミュニケーション論
  - 第11回 11. 中小企業の直面する問題と起業家についてー中小企業論
  - 第12回 12. 組織の個性・品性・文化と社会的責任のあり方についてー組織倫理学
  - 第13回 13. 大学院レベルの高度な授業に挑戦しようー環太平洋圏経営研究、日本経営論研究
  - 第14回 14. 就職活動、キャリア形成は入学時から始まっているー経営学部卒が有利な職業の紹介、学科履修との関連づけ、キャリアセンター職員の話をお聴き
  - 第15回 15. 自分のライフプランと今後の学習計画を立ててみよう

**【成績評価の方法】**

- ①期末テストの結果
  - ②講義中に随時指示する提出レポート
  - ③出席状況
- などによる総合評価とします。

**【教科書】**

テキストは使用しませんが、補助テキストとして本学経営学部において開設されているいくつかの科目の概要をまとめた資料がありますので、最初の時間にそれを配布します。

**【参考文献】**

適宜指示します。  
なお、特に指定はしませんが、ポータブルな（携帯できる小さな）経営学関係の辞典をいつも手元に持っていることを薦めます。授業のときに必要に応じてひいてみるほか、平日頃から隙間時間を利用して、どの用語からでも手当たり次第に読んでください。

科目名 クラス 講義区分	
経営学基礎 03 <秋>	
野田 俊 範	2 単位

#### 【講義概要】

経営学では、どのような内容を学ぶのでしょうか。履修要項にはさまざまな経営学関連の科目が並んでいます。しかし、それぞれの科目がどのような学習内容を含んでいるのか、初めての人にはなかなかわかりづらい事が多いと思われます。

そこでこの講義では、経営学部で開設されている諸科目のうち、経営学・商学関係科目の主な内容を、かいつまんで易しく解説し、大まかなイメージを持てるようにします。それとともに、経営学部でどのような勉強をしていけば将来どのような職業に就くの有利になるのか、また、ある特定の職業に就くためにはどのような科目をとって系統的に勉強していけばよいのか、という点についてもガイドします。

#### 【学習目標】

この講義を履修し終わった人が、1年後期（第2セメスター）から自覚をもって、みずからの判断で積極的なキャリア形成（将来めざす仕事に向けた能力・経歴形成）を進めていけるように学習方向をサポートするのが、この講義の主な目標です。講義には必ず出席して、よく注意して聴き、ノートをとる癖をつけてください。

#### 【講義計画】

- 第1回 経営学、商学とはどんな学問かー全体的見取り図（経営学総論、経営学史、経営史、商学の主な内容）
- 第2回 会社の仕組みはどのようになっているのかー企業論
- 第3回 会社や組織はどのようにして運営されているのかー経営管理論
- 第4回 ヒトをどのように雇い・使うか、会社と従業員がともにハッピーになるにはどのようにしたらよいのかー経営労務論
- 第5回 会社ではどのようにしてモノを作っているのかー生産管理論
- 第6回 商品流通の仕組みと販売についてー流通論、マーケティング論
- 第7回 会社はおカネをどう集め・どのように運用しているのかー経営財務論
- 第8回 金融制度・保険制度・証券市場の仕組みと銀行業・保険業・証券業についてー銀行論、保険論、証券論
- 第9回 国際化時代の会社はどう変わってきているのかー国際経営論、異文化間コミュニケーション論
- 第10回 中小企業の直面する問題と起業家についてー中小企業論
- 第11回 組織の個性・品性・文化と社会的責任のあり方についてー組織倫理学
- 第12回 大学院レベルの高度な授業に挑戦しようー環太平洋圏経営研究、日本経営論研究
- 第13回 就職活動、キャリア形成は入学時から始まっているー経営学部卒が有利な職業の紹介、学科履修との関連づけ、キャリアセンター職員の話をお聴き
- 第14回 自分のライフプランと今後の学習計画を立ててみよう

#### 【成績評価の方法】

- ①期末テストの結果
- ②講義中に随時指示する提出レポートなどによる総合評価とします。

#### 【教科書】

テキストは使用しませんが、補助テキストとして本学経営学部において開設されているいくつかの科目の概要をまとめた資料がありますので、最初の時間にそれを配付します。

#### 【参考文献】

適宜指示します。  
なお、特に指定はしませんが、ポータブルな（携帯できる小さな）経営学関係の辞典をいつも手元に持っていることを薦めます。授業のときに必要に応じてひいてみるほか、平日頃から隙間時間を利用して、どの言葉からでも手当たり次第に読んでください。

科目名 クラス 講義区分	
経営学基礎 04 <秋>	
野田 俊 範	2 単位

#### 【講義概要】

経営学では、どのような内容を学ぶのでしょうか。履修要項にはさまざまな経営学関連の科目が並んでいます。しかし、それぞれの科目がどのような学習内容を含んでいるのか、初めての人にはなかなかわかりづらい事が多いと思われます。

そこでこの講義では、経営学部で開設されている諸科目のうち、経営学・商学関係科目の主な内容を、かいつまんで易しく解説し、大まかなイメージを持てるようにします。それとともに、経営学部でどのような勉強をしていけば将来どのような職業に就くの有利になるのか、また、ある特定の職業に就くためにはどのような科目をとって系統的に勉強していけばよいのか、という点についてもガイドします。

#### 【学習目標】

この講義を履修し終わった人が、1年後期（第2セメスター）から自覚をもって、みずからの判断で積極的なキャリア形成（将来めざす仕事に向けた能力・経歴形成）を進めていけるように学習方向をサポートするのが、この講義の主な目標です。講義には必ず出席して、よく注意して聴き、ノートをとる癖をつけてください。

#### 【講義計画】

- 第1回 経営学、商学とはどんな学問かー全体的見取り図（経営学総論、経営学史、経営史、商学の主な内容）
- 第2回 会社の仕組みはどのようになっているのかー企業論
- 第3回 会社や組織はどのようにして運営されているのかー経営管理論
- 第4回 ヒトをどのように雇い・使うか、会社と従業員がともにハッピーになるにはどのようにしたらよいのかー経営労務論
- 第5回 会社ではどのようにしてモノを作っているのかー生産管理論
- 第6回 商品流通の仕組みと販売についてー流通論、マーケティング論
- 第7回 会社はおカネをどう集め・どのように運用しているのかー経営財務論
- 第8回 金融制度・保険制度・証券市場の仕組みと銀行業・保険業・証券業についてー銀行論、保険論、証券論
- 第9回 国際化時代の会社はどう変わってきているのかー国際経営論、異文化間コミュニケーション論
- 第10回 中小企業の直面する問題と起業家についてー中小企業論
- 第11回 組織の個性・品性・文化と社会的責任のあり方についてー組織倫理学
- 第12回 大学院レベルの高度な授業に挑戦しようー環太平洋圏経営研究、日本経営論研究
- 第13回 就職活動、キャリア形成は入学時から始まっているー経営学部卒が有利な職業の紹介、学科履修との関連づけ、キャリアセンター職員の話をお聴き
- 第14回 自分のライフプランと今後の学習計画を立ててみよう

#### 【成績評価の方法】

- ①期末テストの結果
- ②講義中に随時指示する提出レポートなどによる総合評価とします。

#### 【教科書】

テキストは使用しませんが、補助テキストとして本学経営学部において開設されているいくつかの科目の概要をまとめた資料がありますので、最初の時間にそれを配付します。

#### 【参考文献】

適宜指示します。  
なお、特に指定はしませんが、ポータブルな（携帯できる小さな）経営学関係の辞典をいつも手元に持っていることを薦めます。授業のときに必要に応じてひいてみるほか、平日頃から隙間時間を利用して、どの言葉からでも手当たり次第に読んでください。



科目名 クラス 講義区分

経営学史A <秋>

野田俊範

2単位

【講義概要】

経営学は、ドイツとアメリカにおいて20世紀初頭に成立した若い学問であり、これら両国および日本において、今日までめざましい発展を遂げてきた。日本における経営学は、ドイツ経営学を骨とし、アメリカ経営学を肉として発展してきたと言われるが、特に学問としての経営学の体系や方法論などの点で、ドイツ経営学によって多大の影響を受けてきたのである。

本講義では、そのドイツ経営経済学の生成・展開の歴史を概観し、主要な理論傾向について概説するとともに、今後の発展の方向について考えることとしたい。経営経済学の歴史を学ぶことを通じて、今日世界の経営学で主流をなしているアメリカ流の経営管理学とは違う、経営学の今ひとつの可能性を知ってほしい。

【学習目標】

1. ドイツ経営経済学の生成・展開の歴史を学ぶ。
2. ドイツ経営経済学の今後の発展の方向について考える。
3. 学説と、その学説の歴史的・社会的背景との関連に注目する。

【講義計画】

- 第1回 私経済学の成立(1)
- 第2回 私経済学の成立(2)
- 第3回 私経済学の成立(3)
- 第4回 経営経済学の確立(1)
- 第5回 経営経済学の確立(2)
- 第6回 経営経済学の確立(3)
- 第7回 経営経済学の展開(1)
- 第8回 経営経済学の展開(2)
- 第9回 転換期の経営経済学(1)
- 第10回 転換期の経営経済学(2)
- 第11回 転換期の経営経済学(3)
- 第12回 現代の経営経済学(1)
- 第13回 現代の経営経済学(2)
- 第14回 現代の経営経済学(3)

【成績評価の方法】

学期末試験により評価する。

【教科書】

使用しない。

【参考文献】

若尾祐司／井上茂子編著『近代ドイツの歴史』ミネルヴァ書房、2005年。  
海道ノブチカ／深山明編著『ドイツ経営学の基調』中央経済社、1994年。  
その他、必要に応じて適宜指示する。

【備考】

<02～07生>は読替一覧参照の事。

科目名 クラス 講義区分

経営学史B <秋>

野田俊範

2単位

【講義概要】

経営学は、ドイツとアメリカにおいて20世紀初頭に成立した若い学問であり、これら両国および日本において、今日までめざましい発展を遂げてきた。日本における経営学は、ドイツ経営学を骨とし、アメリカ経営学を肉として発展してきたと言われるが、特に学問としての経営学の体系や方法論などの点で、ドイツ経営学によって多大の影響を受けてきたのである。

本講義では、そのドイツ経営学のなかでも特に経営社会学と呼ばれる学問の、生成・展開の歴史を概観する。あわせて、経営における人間過程に関する具体的現実としての経営社会政策についても取り上げる。

ドイツ経営社会学・経営社会政策の歴史を学ぶことを通じて、経営共同体の理念を中心概念とするドイツ的な経営思想の意義や可能性について考えてほしい。

【学習目標】

1. 経営社会学の歴史を学ぶ。
2. 経営社会政策の歴史を学ぶ。
3. ドイツ的経営思想・経営理念について考える。

【講義計画】

- 第1回 経営社会学の生成
- 第2回 古典派の経営社会学(1)
- 第3回 古典派の経営社会学(2)
- 第4回 古典派の経営社会学(3)
- 第5回 ドイツ的経営政策と経営理念(1)
- 第6回 ドイツ的経営政策と経営理念(2)
- 第7回 近代派の経営社会学(1)
- 第8回 近代派の経営社会学(2)
- 第9回 近代派の経営社会学(3)
- 第10回 労働者の経営参加の政策(1)
- 第11回 労働者の経営参加の政策(2)
- 第12回 労働者の経営参加の政策(3)
- 第13回 労働の人間化と経営社会学(1)
- 第14回 労働の人間化と経営社会学(2)

【成績評価の方法】

学期末試験により評価する。

【教科書】

使用しない。

【参考文献】

若尾祐司／井上茂子編著『近代ドイツの歴史』ミネルヴァ書房、2005年。  
面地豊『経営社会学の生成』千倉書房、1998年。  
その他、必要に応じて適宜指示する。

【備考】

<02～07生>は読替一覧参照の事。

か  
行

科目名 クラス 講義区分	
経営学総論 01 <春集>	
片岡 信之	4単位

### 【講義概要】

この講義は、皆さんが将来経営学の各論講義で詳しい話を聞く前に、経営学の全般について予め予備知識を持っていることがふさわしいという狙いから設けられています。

したがって、本講義の目標もその点におかれることとなります。すなわち、経営学全体について、広くサーベイするという事です。しかも、出来るだけ、経営学という学問が面白いものだと思っただけで、皆さんを動機づけ出来たらよいと思っています。

経営学は範囲が広いので、時間的事情によってはすべてを網羅することにまで至らないかもしれませんが、出来るだけ多くのことをお話ししたいと思っています。経営学の基礎知識をつけるのだからという気持ちで臨んで下さい。

ノート必ず取ってください。この講義の目的の一つは、今後4年間に話を聴いて要点を掴み、ノートに取るという訓練を1年生の初めから習慣づけてもらうことを兼ねています。したがって、学年末にはノートを提出してもらい評価点として加味します。

### 【学習目標】

経営学は範囲が広いので、時間的事情によってはすべてを網羅することにまで至らないかもしれませんが、出来るだけ多くのことをお話ししたいと思っています。経営学の基礎知識をつけるのが目標の講義です。

### 【講義計画】

- 第1回 企業は私達の生活をいかに支えているか1
- 第2回 企業は私達の生活をいかに支えているか2
- 第3回 環境の変化と企業経営1
- 第4回 環境の変化と企業経営2
- 第5回 現代の企業社会と経営学を学ぶ意義1
- 第6回 現代の企業社会と経営学を学ぶ意義2
- 第7回 企業は誰が所有し、経営しているのか1
- 第8回 企業は誰が所有し、経営しているのか2
- 第9回 企業は何を目指して活動しているのか1
- 第10回 企業は何を目指して活動しているのか2
- 第11回 企業が利用できる経営資源には、どのようなものがあるのか1
- 第12回 企業が利用できる経営資源には、どのようなものがあるのか2
- 第13回 企業はどのようにして経営し、組織を作るのか1
- 第14回 企業はどのようにして経営し、組織を作るのか2
- 第15回 情報は企業の組織をどのように動かしているのか1
- 第16回 情報は企業の組織をどのように動かしているのか2
- 第17回 企業はどのように競争し合い、そして互いに競争しあっているのか1
- 第18回 企業はどのように競争し合い、そして互いに競争しあっているのか2
- 第19回 企業はどのようにして製品やサービスを販売するのか1
- 第20回 企業はどのようにして製品やサービスを販売するのか2
- 第21回 企業はどのようにして製品やサービスを開発し、生産しているのか1
- 第22回 企業はどのようにして製品やサービスを開発し、生産しているのか2
- 第23回 企業はどのようにして資本を調達し、資金を運用するのか1
- 第24回 企業はどのようにして資本を調達し、資金を運用するのか2
- 第25回 企業はどのようにして人材を活用するのか1
- 第26回 企業はどのようにして人材を活用するのか2
- 第27回 企業はどのようにして文化をはぐくむのか1
- 第28回 企業はどのようにして文化をはぐくむのか2
- 第29回 まとめ
- 第30回 期末試験

### 【成績評価の方法】

試験 60% レポート 40%

2回講義終了毎にレポートを提出して貰います。具体的には講義時に指示します。また、期末試験終了後に、受講ノートの提出を希望する人は提出して下さい(試験当日中に限ります)。レポートとノートを併せて40%の評価です。ノートは自分が受講して作ったノートに限ります。他人のノートを借りて丸写ししたノートは、借り手・貸し手ともにそのノートをゼロ評価とします。

### 【教科書】

片岡信之・齋藤敏憲・佐々木恒男・高橋由明・渡辺峻 はじめて学ぶ人のための経営学入門 文真堂

科目名 クラス 講義区分	
経営学総論 02 <秋集>	
谷口 照三	4単位

### 【講義概要】

経営学は、「企業が事業を営むこと」を研究の対象としてきた。企業の目的は「利益を追求すること」と言われているが、その実現のためには「事業を効果的に営むこと」が必要である。「事業」とは「提供すべき財やサービス」であり、「効果的に営むこと」とは、「その事業を社会や人間生活のニーズ(必要性・欠乏感)にตอบสนองするように構想し、実行すること」、さらにそのために「働く人々や他の関係者・関係集団および環境との建設的な諸関係を構築すること」の二点に集約できる。近年、かかる二点に焦点を当て、それを視座として「経営の新しいあり方」が実践的にも、理論的にも探求されている。それは、「CSR (Corporate Social Responsibility) 経営」と呼ばれている。私は、それを「責任経営」と呼んでいる。

本講義は、第I部と第II部から構成している。第I部は、『責任経営の学』としての経営学への視座と題し、「責任経営」および「責任経営の学」への歴史的動向を概観し、さらに「責任経営」の考え方やその特徴およびその実現化に向けての条件などを考察していく。第II部では、経営学における主要な各論(戦略論、組織論、ガバナンス論、生産過程論、マーケティング論、財務過程論、労務過程論、事業論、企業論)の概要を示し、さらに第I部で考察した論点を基礎にそれらの新しい動向を展望する。

### 【学習目標】

本講義を受講する学生諸君には、21世紀という新しい時代の動向を見据え、現在の経営実践や経営学を考え、それらの将来を展望し、また経営学の学習を通じて「新しい社会の可能性」に想いを寄せてもらいたい、と思っている。

そのために理解しておかなければならない多くの用語がある。開講時に「経営学専門用語リスト」を配布する。講義の前後に、各自「用語リスト」を用い、関連する用語が理解出来ているかどうか確認することが肝要であろう。

### 【講義計画】

- 第1回 講義ガイダンス—講義方針および「第I部 『責任経営の学』としての経営学への視座」と「第II部 『責任経営の学』の視座と主要な経営学各論」の概要—
- 第2回 第I部『責任経営の学』としての経営学への視座
  - I. 緒言—「責任経営の学」への課題—
    1. 「責任経営の学」への動向
    2. 責任概念の再吟味と再構築の必要性
    3. 山本経営学と「責任経営の学」としての経営学
- 第3回 II. 経営学の発展過程における三重の論点移行
  1. 経営学の生成と論点の移行 (1)
- 第4回 II. 経営学の発展過程における三重の論点移行
  1. 経営学の生成と論点の移行 (2)
- 第5回 II. 経営学の発展過程における三重の論点移行
  2. 経営学発展と二つの論点移行 (1)
- 第6回 II. 経営学の発展過程における三重の論点移行
  2. 経営学発展と二つの論点移行 (2)
- 第7回 II. 経営学の発展過程における三重の論点移行
  3. 21世紀型経営学の可能性とその理論的基盤
- 第8回 III. 「責任経営」理論化への基盤—責任概念の再吟味—
  1. 責任概念の曖昧さと「共有された意味」
- 第9回 III. 「責任経営」理論化への基盤—責任概念の再吟味—
  2. 「応答可能性としての責任」の存在論的意味 (1)
- 第9回 III. 「責任経営」理論化への基盤—責任概念の再吟味—
  2. 「応答可能性としての責任」の存在論的意味 (2)
- 第10回 III. 「責任経営」理論化への基盤—責任概念の再吟味—
  3. 応答可能性のスパイラル・プロセス—リスポンシビリティ・スパイラル・モデル— (1)
- 第11回 III. 「責任経営」理論化への基盤—責任概念の再吟味—
  3. 応答可能性のスパイラル・プロセス—リスポンシビリティ・スパイラル・モデル— (2)
- 第12回 IV. 「責任経営の学」としての経営学とその視座
  1. 「本格的な経営」と「責任経営の発展」
- 第13回 IV. 「責任経営の学」としての経営学とその視座
  2. 「責任経営の学」と「責任経営の発展」を批判する視座
- 第14回 IV. 「責任経営の学」としての経営学とその視座
  3. 「責任経営の学」としての経営学を基礎づける概念的枠組と視座

第15回	V. 組織倫理学の構想—「責任経営の学」の内実化に向けての試論— 1. 組織倫理を語る視座
第16回	V. 組織倫理学の構想—「責任経営の学」の内実化に向けての試論— 2. 組織倫理学構築の基礎
第17回	V. 組織倫理学の構想—「責任経営の学」の内実化に向けての試論— 3. 組織倫理学の中心的論点と構成内容の概要
第18回	VI. 結言— 経営学の組織倫理的転回：「責任経営の学」としての経営学の可能性— 1. 組織とステイク・ホルダーとの関係の再考 2. 「根源的経営」から「派生的経営」へ、「派生的経営」から「根源的経営」への回帰 3. 組織倫理的パラダイムと「責任経営の学」の可能性
第19回	第Ⅱ部 「責任経営の学」の視座と主要な経営学各論の要点と新動 I. 「責任経営の学」の視座と戦略論
第20回	II. 「責任経営の学」の視座と組織論
第21回	III. 「責任経営の学」の視座とガバナンス論
第22回	IV. 「責任経営の学」の視座と生産過程論
第23回	V. 「責任経営の学」の視座とマーケティング論
第24回	VI. 「責任経営の学」の視座と財務過程論
第25回	VII. 「責任経営の学」の視座と労務過程論
第26回	VIII. 「責任経営の学」の視座と事業論および企業論（ソーシャル・エンタプライズの問題も含む）
第27回	IX. 「責任経営の学」の視座とCSR経営論
第28回	X. 講義を終わるにあたって—経営学を学び、実践するための視座—

**【成績評価の方法】**

レポート 60% 出席 40%

1. 講義の出席状況および取り組み姿勢。（総評価の40%に相当）
2. レポート（マーケティング計画書）提出および発表を単位取得条件とする。（同60%に相当）

**【成績評価の方法】**

試験 100%

ただし、毎回「ミニット・ペーパー」（記名式で1分程度の時間で質問やコメントなどを書いてもらうペーパー）を配布し回収する。また、適時、レポートを課す予定。これらは、主体的に勉強してもらいたいために行うものである。

**【教科書】**

未定。テキストを使用しない場合は、個々のテーマごとレジュメを、また適時資料を配布する。

科目名	クラス	講義区分
経営学特別講義－国際財務会計基準 <秋>		
柴	理梨班	2単位

**【講義概要】**

International Financial Reporting Standards are now considered worldwide as global standards for international corporate financial reporting.

In this course we will study about the importance of these standards, how they started and how they became to be accepted worldwide.

We will also discuss about the contents of some of the main standards. For example the standards for financial instruments.

**【学習目標】**

The objective of this course is to understand the role of the International Financial Reporting Standards and the IASB, for the disclosure of companies in the global context.

**【講義計画】**

- 第1回 International Accounting and Harmonization Process
- 第2回 International Accounting Standards Committee (IASC) and International Accounting Standards
- 第3回 Process of Restructuring IASC
- 第4回 International Accounting Standards Board (IASB) and International Financial Reporting Standards (IFRS)
- 第5回 IASB Constitution and Due Process
- 第6回 Convergence Between IFRS and US GAAP
- 第7回 Efforts Towards Convergence Between IASB and ASBJ
- 第8回 Convergence of Accounting Standards Worldwide
- 第9回 Financial Reporting in Emerging Capital Markets
- 第10回 Financial Reporting in the EU countries
- 第11回 Accounting for Financial Instruments in US
- 第12回 Project for Conversion of US and International Standards for Financial Instruments
- 第13回 Recent Amendments for Reclassification of Financial Instruments
- 第14回 Students Presentation
- 第15回 Students Presentation

**【成績評価の方法】**

試験 0% レポート 50% 出席 50%

The final marks will be decided according to the work done in class, presentations and reports.

**【教科書】**

The necessary material will be printed and distributed in each class.

**【参考文献】**

-International Financial Reporting Standards (IFRSs), International Accounting Standards Board.

**【備考】**

英語による講義です。

科目名 クラス 講義区分	
経営学特別講義－日本企業のグローバル戦略 <春>	
正 亀 芳 造	2 単位

**【講義概要】**

This class is especially for exchange students who are interested in Japanese firms and their business strategies in the global economy.

In recent years business environment around Japanese firms is rapidly changing, and globalization is more increasing. The aim of this course is to examine several problems that contemporary Japanese companies have been faced with in the changing business environment and the global economy.

Lectures are given by guest speakers who have respectively large experiences in big Japanese general trading companies.

**【学習目標】**

The aim of this course is to help students to understand several problems that contemporary Japanese companies have been faced with in the changing business environment and the global economy.

**【講義計画】**

- 第1回 The progress of Japanese Economy
- 第2回 The progress and diversification of Japanese International Trade
- 第3回 The role and functions of "Sogo-Shosha"
- 第4回 Mitsui's history and evolution
- 第5回 Culture Diversity Management
- 第6回 Jointventure business in China
- 第7回 Management of production lines
- 第8回 Remarkable economy in India
- 第9回 What makes up a successful businessperson
- 第10回 Integrity and Flexibility in Global Business
- 第11回 Marketing strategy
- 第12回 The fundamentals of Credit management and Debt Collection
- 第13回 Intellectual Property Right
- 第14回 Revitalization of Osaka Economy

**【成績評価の方法】**

レポート 50% 出席 50%

Students should attend every class and submit a paper each month.

Assessment will be based on classroom participation and papers.

**【教科書】**

No textbook.

**【参考文献】**

Handouts will be provided.

**【備考】**

Lectures are conducted in English.

英語による授業です。

インテグレーション科目

<02～08生>は読替一覧参照の事。

科目名 クラス 講義区分	
経営学特別講義－日本的経営の変遷 01 <春>	経営学特別講義－日本的経営の変遷 02 <秋>
井 口 良 樹	2 単位

**【講義概要】**

Management styles of Japanese companies, formed during the period of high economic growth since 1960s, changed a lot in the period of economic bubble of the latter half of 1980s and the bubble-burst period of 1990s. We are going to study how the so-called "Japanese Style of Management" has transformed into what we see today in the 21st century.

**【学習目標】**

The purpose of this study is to learn how the management of major corporations in Japan has responded to the economic conditions of the times.

**【講義計画】**

- 第1回 General Outline of the Lectures on "Japanese Style of Management."
- 第2回 Economic Recovery of Japan after World War II.
- 第3回 Collapse of the Economic Bubble in 1990s.
- 第4回 Management Philosophy of Major Japanese Companies.
- 第5回 Lifetime Employment System.
- 第6回 Seniority-based Wage and Promotion System.
- 第7回 Intra-company Labor Union and the Labor-Management Relationship.
- 第8回 Internationalization Management.
- 第9回 Organization Management and the Divisional System.
- 第10回 Mergers and Acquisitions in Japan.
- 第11回 Japanese Corporate Governance I.
- 第12回 Japanese Corporate Governance II.
- 第13回 Collapse of Enron Corporation.
- 第14回 Lessons and Desirable Corporate Governance Derived from the Collapse of Enron Corporation.

**【成績評価の方法】**

Preparing a report required on certain features of "Japanese Management."

**【教科書】**

No Text Book.

**【参考文献】**

N. A.

**【備考】**

英語による講義です。